

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策
番号
1

政策名 みんなで支えあう健康のまちづくり

| | |
|-----|---|
| 主管課 | 健康課 |
| 関係課 | 秘書課(健康都市推進室)、福祉課、長寿課、こども課、保険医療課、文化スポーツ課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(フルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(フルダウ) | 対前年度(フルダウ) | 目標達成見込(フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|----------|-------|------------------|------|--------------------|------------|------|----|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|--------------------------|--------------------------|-------|------------|------------|--------------|---|--|
| 1-1 | 健康づくりの推進 | 市民 | みんなが健康で元気に生活している | 成果 | 健康だと思ふ市民の割合 | 上がると良い指標 | | % | 90.1 | 88.8 | — | 88.1 | 91.0 | 92.0 | アンケート | ↑ 低下 | ↑ 低下 | △ | アンケートにより取得している数値のため、多少の変動はあるものの目標値は達成できていない。 | 市民の健康格差が広がらないよう、様々な機会を通じて、健康づくりの知識の普及・啓発を図っていく。 |
| | | | | 成果 | 健康寿命(要介護度2以上にに基づく) | 上がると良い指標 | | 歳 | 男 82.92 女 85.89 (H22) | 男 83.06 女 85.96 (H25) | 男 83.29 女 85.74 (H26) | 男 83.59 女 85.53 (H27) | 男 83.72 女 86.69 | 男 84.22 女 87.19 | 業務取得 | ● 横ばい | ● 横ばい | × | 本市が採用している健康寿命は、「65歳の人が日常生活動作が自立している平均期間」としており、介護保険の要介護2から5までを不健康な状態とし、それ以外を健康な状態として算出している。平成27年は、平成26年と比べ、男性は0.30歳上昇、女性は0.21歳下だった。これは、高齢化率や死亡者数の増加が影響していると思われる。 | 今後も、高齢化が進行し、死亡者・要介護者が増加すると思われるため、目標値の達成は難しいと予想される。 |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性(フルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(フルダウ) | 対前年度(フルダウ) | 目標達成見込(フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|--------|-----------------|-----------|---|------|---------------------------|------------|------|-------|--------|------------|------------|------------|------------|------------|-------|------------|------------|--------------|--|---|
| 01 | 健康増進事業の推進 | 市民、ボランティア | 健康増進事業の推進により、市民の健康増進に関する意識が高まり、健康づくりに取り組む市民が増えている | 成果 | 健康づくり教室・元氣まる測定への参加者数 | 上がると良い指標 | ○ | 人 | 3,563 | 4,004 | 3,428 | 2,903 | 5,000 | 5,500 | 業務取得 | ↑ 低下 | ↑ 低下 | × | 「あたまた元氣まる」は、例年同様、部内各課から送付される個人通知をPRチラシを同封したほか、健康まつりと市民祭で1日ブースを開設した。また、筋トレグループへの出前講座が、平成29年度は新たに「エコーカー」の催事スペースを3日間借用し、受検者の拡大を図ったことなどから、受検者は724名と維持できた。ただ、元氣まる測定や健康づくり教室の参加者数がここ数年減少しているため、参加実績が減った。 | 新たに導入した「あたまた元氣まる」を活用するなど、積極的に地域に出向いて実施していきよう努めているが、目標値の達成は難しいと思われる。 |
| | | | | 成果 | 健康増進に取り組む平均実践項目数(全7項目中) | 上がると良い指標 | | 項目 | 2.71 | 3.06 | — | 3.04 | 3.00 | 3.50 | アンケート | ● 向上 | ↑ 低下 | ○ | アンケートにより取得している数値のため、若干の変動はあるものの目標値は達成できている。 | 様々な機会を利用して、健康増進の知識の普及・啓発に努めていく。 |
| 02 | 健康相談・保健指導の充実 | 市民 | 健康相談や保健指導などの充実により、健康に関する相談や指導が気軽に受けられる | 活動 | 健康相談対応率(参考:相談件数) | 上がると良い指標 | | % (件) | 100 | 100(8,671) | 100(8,439) | 100(7,991) | 100(9,500) | 100(9,500) | 業務取得 | ● 横ばい | ● 横ばい | △ | 保健師、歯科衛生士、管理栄養士等の専門職を配置し、電話・面談による健康相談への対応ができる体制を整えており、相談対応率は100%を維持している。ただ、ここ数年、相談件数は減少状態になっている。様々な機関の相談窓口やインターネットの普及等により、情報が得られるようになったことが影響しているのではないかとと思われる。 | 随時、必要な相談対応は行っており、対応率は100%となっているが、目標相談件数の達成は難しいと思われる。 |
| | | | | 成果 | 保健事業への参加者数 | 上がると良い指標 | | 人 | 14,947 | 14,483 | 13,003 | 12,730 | 16,600 | 16,800 | 業務取得 | ↑ 低下 | ↑ 低下 | × | ここ数年、公募による集団健診の受診者、出生数の低下により乳幼児及びその保護者を対象とした保健事業への参加者が減少した。成人保健事業は介護予防関連の教室を廃止し、健康増進関連の教室を新たに立ち上げたが、参加延人数は平成28年度とほぼ同数であった。 | 対象者数の減少や健診・予防接種等が集団実施から個別実施に変わってきたことなどにより、保健事業の参加者数は年々減少しており、目標値の達成は難しいと思われる。 |
| 03 | 早期発見・予防の充実 | 市民 | 疾病を早期に発見・予防できている | 成果 | 定期的に健康診断(市・民間)を受けている市民の割合 | 上がると良い指標 | | % | 81.6 | 83.0 | — | 81.9 | 83.0 | 83.0 | アンケート | ● 向上 | ↑ 低下 | △ | アンケート回答者が固定された集団ではないため、取得数値の変動が影響していると思われる。広報誌やチラシ等を活用し、健康診断の必要性等を周知しているが、基準値は満たしているものの目標値は達成できていない。 | 広報誌やホームページ等を活用し、健康診断やがん検診等の受診の必要性の周知・啓発に努めていく。 |
| | | | | 成果 | 乳幼児・児童生徒の定期予防接種の接種率 | 上がると良い指標 | ○ | % | 94.0 | 99.1 | 100.2 | 98.5 | 95.0 | 95.0 | 業務取得 | ● 向上 | ↑ 低下 | ○ | 平成29年度の接種率は1.7ポイント低下した。前年度は、予防接種スケジュール管理モバイルサイト「あさびー予防接種ナビ」の配信を開始し、接種漏れが容易に確認できるようになったこと、日本脳炎2期の特例措置が開始され、満9歳に達した児童の保護者に個人通知を行ったことにより、接種率が100%以上となったと思われる。 | 引き続き、適正な時期に接種してもらうため、対象者への個人通知の送付や幼児健診時の接種勧奨、予防接種スケジュール管理モバイルサイト「あさびー予防接種ナビ」の活用周知などを図り、接種率の維持・向上に努めていく。 |
| | | | | 成果 | 高齢者の定期予防接種の接種率 | 上がると良い指標 | | % | 52.7 | 48.3 | 49.7 | 47.9 | 55.0 | 55.0 | 業務取得 | ↑ 低下 | ↑ 低下 | × | 平成28年度は、本事業が愛知県広域予防接種制度の対象に加わり、かかりつけ医療機関での接種が可能となったことが良い影響となり、増加につながったが、平成29年度の接種率は1.8ポイント低下した。本接種は、B類疾病予防接種であり、接種は対象者の意思で決められること、一部自己負担金もあることから、接種率の大幅な伸びを見込むことは難しいと思われる。 | 予防接種を実施することで疾病罹患者が減少すれば、医療費の抑制にもつながることから、引き続き、広報等による接種勧奨を行い、接種者の増加を図るよう努めていく。 |
| 04 | 母子保健の充実 | 乳幼児、父親、母親 | 母子保健の充実により、母子ともに健やかに育ち、生活できている | 成果 | 乳幼児健康診査受診率 | 上がると良い指標 | ○ | % | 96.1 | 95.9 | 97.6 | 96.8 | 96.0 | 96.0 | 業務取得 | ● 向上 | ↑ 低下 | ○ | 対象者への個人通知のほか、未受診児に対しては電話・訪問等による追跡を実施し、個別で受診勧奨を行い、受診者拡大に努めたが、平成28年度と比べ、受診率は0.8ポイント低下した。目標値は上回っている。 | 引き続き、個人通知による受診勧奨のほか、未受診児に対しては電話・訪問等による個別追跡を実施し、受診率の維持・向上に努めていく。 |
| | | | | 成果 | 乳幼児の健康状態が把握できている割合 | 上がると良い指標 | | % | 99.5 | 27.9 | 99.9 | 99.8 | 99.5 | 99.5 | 業務取得 | ● 向上 | ● 横ばい | ○ | 全国的に所在不明児を無くすための施策が検討されたこともあり、本市においても平成28年度に乳幼児健康診査未受診児のフローチャートを作成し、追跡を徹底したことにより、成果が上がっている。 | 今後も、フローチャートを活用し、全数把握を目標に乳幼児健康診査未受診児の追跡に努めていく。 |
| | | | | 成果 | 母子保健サービスに対する満足度 | 上がると良い指標 | ○ | % | 77.7 | 82.4 | — | 83.5 | 80.0 | 80.0 | アンケート | ● 向上 | ● 向上 | ○ | アンケートにより取得している数値のため、多少の変動はあるものの2年前より1.1ポイント増加しており、目標値は達成できている。 | 平成29年度に開設した「あさびー子育てコンシェルジュ」のPR等を行い、引き続き、妊娠前から子育て期の支援をしっかりと行うことで、満足度の維持・向上に努めていく。 |
| 05 | 市民参加による健康づくりの推進 | 市民、ボランティア | 健康づくりのための組織づくりが、市民の参加により進められている | 成果 | ボランティアとの協働による健康づくり事業数 | 上がると良い指標 | | 事業 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 10 | 業務取得 | ● 横ばい | ● 横ばい | △ | 前年度と同様の事業をボランティアの活動協力を得て行えた。 | 今後、より一層、質の向上を図るために事前打合せやフォローアップ研修等を継続していく必要がある。ただ、各団体の構成員の高齢化が進んでおり、若い世代の協力参加を検討していく必要があるが、中高年者は就労者も多く、なかなか増員できない状況にある。 |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策
番号
1

政策名 みんなで支えあう健康のまちづくり

| | |
|-----|---------------|
| 主管課 | 健康課 |
| 関係課 | 福祉課、長寿課、保険医療課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(ブルタウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(ブルタウ) | 対前年度(ブルタウ) | 目標達成見込(ブルタウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|--------------|-------|------------------------------|------|-------------------------|------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------------|------------|--------------|---|---------------------------------|
| 1-2 | 地域医療・福祉医療の推進 | 市民 | 病気やケガの際に安心して医療が受けられるまちになっている | 成果 | 地域の医療機関を安心して利用している市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 93.9 | 93.0 | - | 94.2 | 94.0 | 95.0 | アンケート | ※ 向上 | ※ 向上 | ○ | 平成29年度現状値94.2%は、基準値比0.3ポイント、平成27年度比1.2ポイント向上している。 | |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性(ブルタウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(ブルタウ) | 対前年度(ブルタウ) | 目標達成見込(ブルタウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|--------|--------------|------------|--------------------------------|------|----------------------------------|------------|------|-------|------------------|------------------|------------------|------------------|--------|--------|-------|------------|------------|---|--|--|
| 01 | 高度医療体制の充実 | 市民 | 高度医療体制が充実している | 社会 | 高度医療を5km圏内で受けられる市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 100 | 100 | 100 | 100.0 | 100 | 100 | 業務取得 | ※ 横ばい | ※ 横ばい | ○ | 本市では、5km圏内に高度医療の病院(第3次救急医療施設2病院・第2次救急医療施設1病院)があり、全市民が緊急時を含め、いつでも高度医療を受けられる物理的好条件にある。医療機関も医療の安定を図り受診制限等もなく、適切な高度医療が提供されている状態が確保されている。 | |
| 02 | 救急医療体制の充実 | 市民 | 救急医療体制が充実しており、緊急時に医療が受けられる | 成果 | 救急のときに医療を受けられる病院等を調べることができる市民の割合 | 上がると良い指標 | | % | 73.6 | 70.8 | - | 73.6 | 75.0 | 80.0 | アンケート | ※ 横ばい | ※ 向上 | ○ | 平成29年度現状値73.6%は、平成27年度比では2.8ポイント向上しているものの、目標値には達していない。第1次医療では瀬戸旭休日急病診療所の開設(H29.8~)により、診療所を定着化した。場所に迷わず受診可能となり、今後の成果向上が期待される。 | |
| | | | | 社会 | 救急医療を5km圏内で受けられる市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 100 | 100 | 100 | 100.0 | 100 | 100 | 業務取得 | ※ 横ばい | ※ 横ばい | ○ | 第1次医療では瀬戸旭休日急病診療所(内科、小児科)での診療のほか、第2次医療では旭労災病院、第1次医療では陶生病院と愛知医科大学病院があり、5km圏内で救急医療が受けられる体制が確保されている。 | |
| 03 | かかりつけ医制度の普及 | 市民 | かかりつけ医制度の普及により、安心して医療や相談が受けられる | 成果 | かかりつけ医を持っている市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 72.3 | 69.5 | - | 70.0 | 75.0 | 80.0 | アンケート | ↑ 低下 | ※ 向上 | △ | 平成29年度現状値70.0%は、対基準値比では2.3ポイント低下している。対平成27年度比では0.5ポイント向上しているものの、目標値には5.0ポイント達していない。本市は5km圏内に高度医療の病院が3か所、診療所も市内に58か所あり、地域医療の施設的な条件は整っている。 | 地域医療を支えるかかりつけ医の必要性や情報を、市HPや「医療機関マップ」等で発信するほか、医師会等へも積極的に運営してもらえよう働きかける。 |
| 04 | 福祉医療費の助成 | 市民 | 各種の福祉医療費の助成により、安心して医療が受けられる | 活動 | 各種助成の年間助成件数(参考:各種助成の年間助成金額) | その他 | | 件(千円) | 306,539(826,310) | 309,377(863,622) | 319,370(883,564) | 314,750(861,109) | - | - | 業務取得 | - 不可 | - 不可 | - | 平成29年12月末を以って特定疾患医療費助成制度終了に伴う経過措置満了。件数としては、マル福48,124件の対前年比+1.85%、精神は18,929件の対前年比+15.98%ではあるが、障害は25,509件の対前年比▲6.44%、子ども204,430件の対前年比▲2.57%であり全体の対前年比は▲1.45%であった。助成額も、マル福141,839,086円の対前年比+2.31%、精神は53,948,853円の対前年比+16.57%ではあるが、障害対前年比▲4.0%、子ども対前年比▲4.26%であり全体の対前年比は▲2.54%であった。また、未熟児養育医療は、平成29年度には前年比▲2.54%ほど減額した。(件数:平成28年度53件、平成29年度34件) | |
| | | | | 活動 | 福祉医療費助成によって、安心して医療が受けられる人の割合 | その他 | % | 20.3 | 20.1 | 20.0 | 19.7 | - | - | 業務取得 | - 不可 | - 不可 | - | 平成28年度と比較して0.3ポイント減少になっている。福祉医療費受給者数は子ども医療と障害者医療で減少している。全体で約151人減少している。(福祉医療費受給者数と申請者数の年平均:平成28年度16,560件・H29年度16,438件→122件減少、総人口(10/1現在):H28年82,957人・H29年83,324人→367人増) | | |
| 05 | 国民健康保険の健全な運営 | 国民健康保険被保険者 | 国民健康保険制度により、誰もが安心して医療が受けられる | 活動 | 国民健康保険被保険者の1人あたりの年間医療費 | その他 | | 千円 | 310 | 327 | 332 | 334 | - | - | 業務取得 | - 不可 | - 不可 | - | 平成28年度と比較して2,191円増加した。療養給付費は、受診率は低下したものの訪問看護の増加により0.7%増加した(入院-1.7%、入院外+2.8%、歯科+0.7%、調剤-0.2%、訪問看護+41.9%)。療養費は、受診率、1件当たりの医療費の減少により4.3%減少した。 | ジェネリック医薬品の使用促進、適正受診の啓発、特定健診の受診勧奨等により、医療費の適正化を行った。 |
| | | | | 成果 | 国民健康保険税収納率の県平均収納率との差 | 上がると良い指標 | % | 0.7 | 1.1 | 1.1 | 1.5 | 県平均以上 | 県平均以上 | 業務取得 | ※ 向上 | ※ 向上 | ○ | 平成29年度の市収納率は95.50%で、県平均収納率94.00%より、1.50ポイント上回った。(市収納率 平成27年度94.10%→平成28年度94.60%→平成29年度95.50%) | コールセンターによる現年未納者への早期納付勧奨、コンビニ収納、窓口での口座振替勧奨等を実施し、収納率向上に取り組んだ。 | |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策
番号

| | | |
|---|-----|------------------|
| 1 | 政策名 | みんなで支えあう健康のまちづくり |
|---|-----|------------------|

| | |
|-----|--------------------------------|
| 主管課 | 子ども未来課 |
| 関係課 | 保育課、こども課、健康課、保険医療課、教育行政課、生涯学習課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (フルダウン) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得方法 | 対基準値 (フルダウン) | 対前年度 (フルダウン) | 目標達成 見込 (フルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案 (目標達成見込が△×の場合に 記載) |
|------|----------|---------------------------|------------------------------|------|---------------------|-----------------|------|----|------|--------|--------|--------|------------|------------|-------|-----------------|-----------------|-----------------------|--|---|
| 1-3 | 子育て支援の推進 | 乳幼児～中学生(一部サービスは18歳まで)、保護者 | 地域のなかで、安心して楽しく子育てできる環境が整っている | 成果 | 子育てしやすいまちだと思う保護者の割合 | 上がるの良い指標 | | % | 89.6 | 86.2 | — | 84.9 | 92.0 | 93.0 | アンケート | ↑ 低下 | ↑ 低下 | × | 基準値から4.7ポイント減少しており、前回アンケートからも数値が悪化している。まちづくりアンケートの結果からは、子どもが小さいうちの預け先(保育園、児童クラブなど)に関する不満を抱えている状況が多い。保護者の生活様式の多様化に伴い、子どもの預かりに関して望む事項も多様化していることが数値にも影響していると思われる。 | <課題> ・保育園待機児童 ・放課後児童クラブ等の放課後の居場所づくり <改善案> ・保育園の定員拡充 ・放課後の預かりの時間延長と安価な預かり事業の実施。 |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性 (フルダウン) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得方法 | 対基準値 (フルダウン) | 対前年度 (フルダウン) | 目標達成 見込 (フルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案 (目標達成見込が△×の場合に 記載) |
|--------|----------------|--------------|---|------|--------------------------------|-----------------|------|----|-------|--------|--------|--------|------------|------------|-------|-----------------|-----------------|---|--|--|
| 01 | 子育て不安の解消 | 保護者 | 子育て不安に対して、相談・情報交換できる場や仲間があり、子育てへの不安が軽くなっている | 成果 | 乳幼児の子育て相談をする人がいない保護者の割合 | 下がるの良い指標 | ○ | % | 7.2 | 2.2 | — | 4.3 | 6.0 | 5.0 | アンケート | ※ 向上 | ↑ 低下 | ○ | H27からは、若干数値が上がっているものの、基準値からは減少し、H30、35の目標値を達成している。子育ての不安や悩みを軽減、解消するための相談支援の充実が求められている。 | |
| | | | | 成果 | 市の子育て相談・情報交換できる場を知っている保護者の割合 | 上がるの良い指標 | ○ | % | 60.1 | 72.0 | — | 70.4 | 70.0 | 75.0 | アンケート | ※ 向上 | ↑ 低下 | ○ | H27からは1.6ポイント減少しているが、基準値からは10.3ポイント向上している。市の各相談窓口を幅広く周知しておりH30目標値を達成できているので、H35目標値達成に向け、更なる周知に努める。 | |
| 02 | 保育サービスの充実と施設整備 | 共働き、ひとり親家庭 | 保育サービスの充実や施設の整備により、安心して子どもを預けられ、働くことができていく | 成果 | 保育園満足度 | 上がるの良い指標 | ○ | % | 94.7 | — | 94.6 | — | 95.0 | 95.0 | 課独自調査 | — 不可 | — 不可 | △ | H29は、利用者アンケート未実施。保育環境の向上を目指すため、西部保育園の改修工事の設計を実施。 | 設計を基に改修工事を行う。 |
| | | | | 成果 | 児童クラブ満足度 | 上がるの良い指標 | ○ | % | 93.6 | — | 91.4 | — | 95.0 | 95.0 | 課独自調査 | — 不可 | — 不可 | △ | H29は、利用者アンケート未実施。H28のアンケート結果では、保護者の就労状況の変化等により長時間の利用を希望する利用者が増えていることなどが要因で数値が減少したものと分析している。 | 利用時間の延長が、成果の向上につながると思われるが、民間児童クラブとのバランスや、運営面での課題は多い。 |
| | | | | 成果 | 保育園充足率 | 上がるの良い指標 | ○ | % | 100 | 97.5 | 98.3 | 98.9 | 100 | 100 | 業務取得 | ↑ 低下 | ※ 向上 | △ | 前年度比較で0.6ポイント数値は向上しているが、待機児童の解消には至っていない。待機児童が発生している3歳未満児の定員増加を実施しているが、それを上回る速度で申込数が増加している。 | 保育園待機児童の解消を図るため、定員の拡充について検討する。 |
| | | | | 成果 | 児童クラブ充足率 | 上がるの良い指標 | | % | 100 | 92.8 | 94.0 | 97.8 | 100 | 100 | 業務取得 | ↑ 低下 | ※ 向上 | △ | H27からは3.8ポイント向上しているが、H30目標値の達成には至っていない。定員拡充等を実施しているが、申込者数の増加がそれを上回っている。しぼらくはニーズの向上が見込まれており、充足率100%の達成は厳しい状況にある。 | 希望者全員が利用できる定員の確保が目標達成に必要なが、実施場所や運営面での課題が多い。 |
| 03 | 地域の子育て支援 | 地域住民、保護者、子ども | 子育てにおける地域連帯感が醸成され、多くの事業や催しに参加している | 成果 | 地域の子育て支援事業に参加したことがある保護者や子どもの割合 | 上がるの良い指標 | ○ | % | 53.6 | 69.6 | — | 65.8 | 55.0 | アンケート | ※ 向上 | ↑ 低下 | ○ | H27からは3.8ポイント低下しているが、基準値からは12.2ポイント向上し、H30、35の目標値を達成している。子育て応援メールの活用、HP、広報などの案内が充実している。 | | |
| 04 | 子育ての経済的負担の軽減 | 保護者 | 保護者の経済的負担が軽減されている | 活動 | 子育て関連の手当受給者の延べ人数 | その他 | | 人 | 7,833 | 7,004 | 6,929 | 6,836 | — | — | 業務取得 | — 不可 | — 不可 | — | 支給対象となる子どもの人口が減少していることに伴い、受給者数も減少している。 | |
| 05 | 発達が気になる子どもへの支援 | 保護者、子ども | 乳幼児期から、ライフステージを通じて一貫した支援を受けることができる | 活動 | 発達支援等の事業の利用者数 | 上がるの良い指標 | | 人 | 671 | 2,068 | 2,114 | 1,909 | 720 | 770 | 業務取得 | ※ 向上 | ↑ 低下 | ○ | 前年度と比較し低下しているものの、H30、35目標値を大幅に上回り、目標を達成している。こどもの発達センターを窓口として、各関係機関と連携・相互協力し、適切で切れ目のない支援を提供している。 | |
| 06 | 子どもの人権擁護 | 子ども | 子どもの権利が守られ、生活できている | 活動 | 児童虐待による子どもの一時保護・施設入所件数 | その他 | | 件 | 4 | 28 | 0 | 3 | — | — | 業務取得 | — 不可 | — 不可 | — | 児童の人権、安全が守られるよう、必要に応じて児相に一時保護を依頼した。 | |
| | | | | 成果 | 市内小中学校におけるいじめ発生件数 | その他 | ○ | 件 | 29 | 24 | 48 | 263 | 0 | 0 | 業務取得 | ↑ 低下 | ↑ 低下 | ○ | 平成29年度は263件と大幅な増加となっている。(理由)平成28年度までは学校から市教委へ詳細な報告があった案件について計上してきたが、平成29年度からは、学校が認知した全件数を計上することとした。(背景)平成30年1月に、市いじめ防止基本方針を改定し、いじめの積極的認知を進めることとした。なお、平成29年度、学校から市教委へ詳細な報告があった案件は27件で、そのうち26件が解消、1件が見守りを継続している。認知したいじめの未対応や対応したいじめの再発はなかった。 | いじめの積極的認知に努めるよう学校を指導するとともに、引き続き、スクールソーシャルワーカー、心のアドバイザー及び心の教室相談員を配置し、関係機関と連携し、いじめ・不登校事業の早期対応・早期解決を図る。 |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策
番号
1

政策名 **みんなで支えあう健康のまちづくり**

| | |
|-----|----------------------------------|
| 主管課 | 長寿課 |
| 関係課 | 福祉課、健康課、保険医療課、シルバー人材センター、社会福祉協議会 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (ブルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値 (ブルダウ) | 対前年度 (ブルダウ) | 目標達成見込 (ブルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案 (目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|------------------|----------------------------|--|------|-------------------------------|----------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|----------------|----------------|------------------|---|--|
| 1-4 | 高齢者福祉の推進 | 高齢者(元氣、虚弱、要支援、要介護) | 高齢者が健康で生きがいを持って、元気に生活している | 成果 | 自立高齢者の割合 | 上がると良い指標 | | % | 86.8 | 86.2 | 86.1 | 85.8 | 85.3 | 82.9 | 業務取得 | ↓ 低下 | ↓ 低下 | ○ | 対前年度比△0.3ポイントの85.8%となった。現時点では、H30目標値、H35目標値とも上回っているが、高齢化が進むにつれ、指標が悪化していく可能性が高いため、介護予防事業等を実施し、指標の維持に努める。 | |
| | | | | 成果 | 生きがいを持っている高齢者の割合 | 上がると良い指標 | | % | 81.9 | 77.8 | - | 73.1 | 83.0 | 85.0 | アンケート | ↓ 低下 | ↓ 低下 | × | 対27年度比△4.7ポイントの73.1%となった。多くの高齢者が生きがいを持って生活できるようさらに支援していく必要がある。 | 多世代交流館や老人いこいの家などを活用した講座、趣味活動、作品展等の充実 |
| 01 | 高齢者の健康対策と社会参加の促進 | (概ね65歳以上の)高齢者(元氣、虚弱) | ・高齢者が健康を維持し続けるための取組を行っている ・高齢者が就労や交流等で、社会参加を活発に行っている | 成果 | 地域活動に参加している高齢者の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 30.3 | 26.2 | - | 26.5 | 33.0 | 35.0 | アンケート | ↓ 低下 | ☀ 向上 | × | 対27年度比+0.3ポイントの26.5%となった。平成30年度の目標値からは6.5ポイントの開きがある。 | 多世代交流館や老人いこいの家などを活用した講座、趣味活動の推進やシニアクラブへの加入促進を図る。 |
| | | | | 成果 | 高齢者の健康維持への取組平均実践項目数(全7項目中) | 上がると良い指標 | | 項目 | 2.68 | 3.12 | - | 3.06 | 3.00 | 3.50 | アンケート | ☀ 向上 | ↓ 低下 | ○ | 対27年度比△0.6ポイントの3.06項目であった。現時点では平成30年度の目標値は達成しているが、さらに実践項目が増加するよう取組を進める。 | |
| | | | | 成果 | 交流・就労している高齢者の割合 | 上がると良い指標 | | % | 53.9 | - | 21.4 | - | - | 58.0 | 63.0 | 課独自調査 | - 不可 | - 不可 | × | 各イベント時でのシニアクラブPR活動や、高齢者趣味の講座、作品展を実施した。※質問の仕方を変更したため、割合が激減した。 |
| 02 | 介護予防の推進 | (概ね65歳以上の)高齢者(元氣、虚弱) | 介護予防への取組により、高齢者が地域で自立して生活できている | 成果 | 基本チェックリストを受けた高齢者の割合 | 上がると良い指標 | | % | 81.9 | - | - | - | 84.0 | 86.0 | 業務取得 | - 不可 | - 不可 | × | 平成26年度に基本チェックリストを廃止したため、平成26年度以降の現状値の取得ができなくなった。 | (国の制度改正に伴い基本チェックリストは廃止した。) |
| | | | | 成果 | 介護予防教室参加者の改善割合 | 上がると良い指標 | | % | 78.0 | 73.2 | 60.3 | 81.6 | 80.0 | 82.0 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 前年度に比べ、教室終了後のアンケートで状態が改善したという回答の割合が+21.3ポイントとなった。(実数はH28改善35人/58人、H29改善58人/71人)今後も、成果の向上に向けて取組を進める。 | |
| 03 | 高齢者福祉の担い手育成 | 高齢者福祉のボランティア | 高齢者福祉サービスの担い手が充足し、相互扶助が行われている | 成果 | 高齢者福祉ボランティア団体等の参加人数 | 上がると良い指標 | ○ | 人 | 211 | 180 | 205 | 196 | 230 | 250 | 業務取得 | ↓ 低下 | ↓ 低下 | × | 社会福祉協議会の高齢者福祉ボランティア団体(6団体)の各団体の会員数が9人減少した。今後も参加意向のある人の参加を促す取組を進める。 | 各ボランティア団体への加入促進を促すための周知を行う。 |
| | | | | 成果 | 高齢者のための福祉ボランティアへの参加意向がある市民の割合 | 上がると良い指標 | | % | 13.7 | 21.4 | - | 22.9 | 15.0 | 15.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 対27年度比+1.5ポイントの22.9%で、平成30年度の目標値も達成している。さらに参加意向が増加するよう取組を進める。 | |
| 04 | 高齢者福祉・介護サービスの充実 | 65歳以上の高齢者 | 高齢者が、住み慣れた地域で生活できるよう、福祉・介護サービスが提供されている | 成果 | 介護サービス利用者の満足度 | 上がると良い指標 | | % | 81.6 | - | 89.7 | - | 83.0 | 85.0 | 課独自調査 | - 不可 | - 不可 | ○ | 地域密着型サービス事業者指導事業を実施した。 | |
| | | | | 成果 | 一般高齢者サービス利用者の満足度 | 上がると良い指標 | | % | 94.6 | 27.9 | 90.0 | - | 95.0 | 96.0 | 課独自調査 | - 不可 | - 不可 | × | ミニデイサービスでの健康相談等介護予防の取組、見守りを目的とした配食サービス、外出支援のタクシー基本料金助成を実施した。 | 各種一般高齢者サービスの充実 |
| 05 | 地域包括ケアシステムの推進 | ・市民・高齢者に関わる医療・介護関係者・ボランティア | ・支援や介護を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で生活できるよう、医療、介護、介護予防、住宅、地域生活支援サービスが個々のニーズに応じて提供されている ・高齢者の人権が尊重され、安心して暮らしている | 成果 | 地域で支えあっていると思う高齢者の割合 | 上がると良い指標 | | % | 50.0 | - | - | - | 55.0 | 60.0 | 課独自調査 | - 不可 | - 不可 | × | 平成29年度アンケートでアンケート項目として設定しなかったため、数値の把握ができなくなった。 | (指標の見直しが必要) |
| | | | | 成果 | 高齢者虐待件数 | 下がると良い指標 | ○ | 件 | 13 | 17 | 16 | 31 | 0 | 0 | 業務取得 | ↓ 低下 | ↓ 低下 | × | 前年度に比べ、15件増加している。高齢者虐待件数は減少を目指す指標であるが、関係機関の連携強化により、これまで虐待として認知できていなかったケースを、早期に認知して積極的に介入する体制が整いつつあることもあり、現状値が増加する面もある。このため、改善したか悪化したかの判断は難しい。 | 地域包括支援センターや地域相談窓口の実態調査により、虐待疑いケースへの早期介入を図り、見守り体制を整える。 |
| | | | | 成果 | 地域包括支援センターの認知度 | 上がると良い指標 | ○ | % | 48.3 | - | 54.0 | - | 55.0 | 65.0 | 課独自調査 | - 不可 | - 不可 | △ | 地域包括支援センター職員による出前講座を実施した。 | 広報やチラシ等でのPRを行う。 |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策
番号
1

政策名 **みんなで支えあう健康のまちづくり**

| | |
|-----|----------------------|
| 主管課 | 福祉課 |
| 関係課 | 長寿課、こども課、健康課、社会福祉協議会 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(フルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(フルダウ) | 対前年度(フルダウ) | 目標達成見込(フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|-----------|-------|------------------------|------|------------------|------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|------|------------|------------|--------------|--|---------------------------------|
| 1-5 | 障がい者福祉の推進 | 障がい者 | 障がい者が安心して生活し、社会参加できている | 成果 | 在宅で生活している障がい者の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 98.9 | 99.0 | 99.0 | 99.0 | 99.0 | 99.0 | 業務取得 | ☀ 向上 | ♣ 横ばい | ○ | 算定式(在宅障がい者数/全障がい者数)⇒(3,317人-32人)/3,317人⇒99.03%⇒99.0% 障がい者数は、高齢化の進展とともに増加しており、精神障がい者や発達障がい児等の増加も顕著である。対して施設入所者数は横ばいであり、目標値の99%を達成した。 | |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性(フルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(フルダウ) | 対前年度(フルダウ) | 目標達成見込(フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|--------|--------------|----------------------------|--|------|-------------------|------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|------|------------|------------|--------------|--|---|
| 01 | 障がい者の社会参加の促進 | 障がい者 | 障がい者が自立し社会参加ができるよう、介護給付、就労支援などの様々なサービスが提供されている | 成果 | 障がい者の自立支援サービス受給者数 | 上がると良い指標 | | 人 | 267 | 385 | 419 | 450 | 285 | 300 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 障害福祉サービス事業所の増加等に伴い、サービス利用者は、右肩上がりに増加傾向にある。サービスの利用により障がい者の社会参加が進んでいる。 ※年間実利用者のうち、施設入所支援及び児童福祉法によるサービス利用者は除いている。 | |
| | | | | 成果 | 施設入所から在宅生活への移行人数 | 上がると良い指標 | | 人 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 2 | 業務取得 | ♣ 横ばい | ♣ 横ばい | △ | 施設入所から在宅への地域移行はあまり進んでいない。 第5期障がい福祉計画の目標も、施設から在宅への移行を進めるものではあるが、グループホームなどの整備はこれからである。 また、障がい者の親も高齢化してきており、入所施設については空き待ちの状態でもある。 | 第5期障がい福祉計画の目標達成に向け、グループホームの整備を行う。 |
| 02 | 障がい者の自立支援 | 障がい者支援ボランティア及び障がい者 | 行政・ボランティアの支援などにより、障がい者の行動範囲が広がるなど、自立が促進されている | 成果 | 障がい者支援ボランティアの人数 | 上がると良い指標 | | 人 | 292 | 319 | 301 | 288 | 320 | 350 | 業務取得 | ☹ 低下 | ☹ 低下 | △ | 運営ボランティアの不足により、会員の負担が増加し、活動の継続が困難となったことから、前年度に比べ、13人減少した。 | 障がい者団体を支援することにより、活動しやすい環境づくりに努める。また、障がい者支援をテーマにしたボランティアサロンを企画し、新たな担い手の発掘に努める。 |
| | | | | 成果 | 地域生活支援事業延べ利用者数 | 上がると良い指標 | ○ | 人 | 2252 | 2,589 | 3,115 | 2,617 | 2,300 | 2,400 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☹ 低下 | ○ | 障がい者の増加に伴い、地域生活支援事業の各種サービスの利用者も増加傾向にあり、障がい者の自立につながっている。 | |
| 03 | 障がい者の人権擁護 | 障がい者養護者 障がい者福祉施設従事者 雇用主 市民 | ・障がい者の人権が尊重されている ・養護者に対する支援が行われている | 成果 | 障がい者の虐待件数 | 下がると良い指標 | | 件 | 0 | 1 | 1 | 3 | 0 | 0 | 業務取得 | ☹ 低下 | ☹ 低下 | △ | 警察から1件、支援者から2件(姉弟)の通報により介入した事案が3件あった。いずれのケースも100%対応できている。 障がい者基幹相談支援センターが設置(平成26年10月)され、相談しやすい環境が整備されており、関係機関との連携体制もあり、障がい者虐待の発見及び対応につながった。 | 障がいのある人へ虐待の未然の発生予防、早期発見、虐待を受けた障がいのある人への適切な支援を行うため、サービス提供施設や事業所も含め、関係機関等との連携を強化する。 |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策
番号
1

政策名 **みんなで支えあう健康のまちづくり**

| | |
|-----|----------------------------------|
| 主管課 | 福祉課 |
| 関係課 | 災害対策室、市民活動課、長寿課、こども課、健康課、社会福祉協議会 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (プルダウン) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (プルダウン) | 対前年度 (プルダウン) | 目標達成 見込 (プルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|------|---------|------------------------------|------------------------------|------|-----------------------|------------------|----------|----|-------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|-----------------|-----------------|-----------------------|---|--|
| 1-6 | 地域福祉の推進 | 市民(地域住民)、ボランティア・自治会等、社会福祉協議会 | ともに支えあい、安心して暮らせる地域社会が形成されている | 成果 | 地域福祉活動に参加したことがある市民の割合 | 上がる と 良い指標 | ○ | % | 11.5 | 9.0 | - | 8.8 | 16.0 | 17.0 | アンケート | ↑ 低下 | ↑ 低下 | × | 平成29年度のアンケート調査では、8.8%と0.2ポイント減少した。 | 核家族化や地域のつながりの希薄化から、地域の行事や活動への参加が少なくなっており、地域活動をより身近に感じてもらうための意識づけが必要となっている。また、ボランティアセンターの登録者数が減少していることも地域活動に参加したことがある市民の割合の減少要因となっており、新たなボランティアの発掘とボランティア団体への参加促進を図る。 |
| | | | | 成果 | 社会福祉協議会の会員数 | 上がる と 良い指標 | | 人 | 2,347 | 2,663 | 2,758 | 2,753 | 2,600 | 2,700 | 業務取得 | ☀ 向上 | ↑ 低下 | ○ | 前年度より5人減少したものの、平成29年度の現状値は2,753人で、平成35年度目標値は達成している。 | 市民への会員募集の周知とともに、法人等への依頼を強化し、会員数の増加を図る。 |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性 (プルダウン) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (プルダウン) | 対前年度 (プルダウン) | 目標達成 見込 (プルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|--------|-------------|----------------------------------|---|------|---------------------------------|------------------|----------|----|-------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|-----------------|-----------------|-----------------------|--|--|
| 01 | 地域福祉活動の推進 | 市民(地域住民)、ボランティア・自治会等、校区社会福祉推進協議会 | ・関係者が相互に連携し、地域福祉活動が活性化している ・地域社会を担う人材の発掘・育成ができています | 成果 | 地域福祉活動・ボランティアへの参加意識の高い市民の割合 | 上がる と 良い指標 | | % | 61.4 | 56.1 | - | 59.5 | 64.0 | 67.0 | アンケート | ↑ 低下 | ☀ 向上 | △ | 平成29年度のアンケート調査では、「市外等でのボランティア活動・市民活動をしている割合」と「今はしていないが、機会があれば活動してみたい」の割合が上昇したことから、59.5%と3.4ポイント上昇した。 | 地域活動をより身近に感じてもらうための意識づけと新たなボランティアの発掘とボランティア団体への参加促進を図る。 |
| | | | | 成果 | ボランティアセンター登録者数 | 上がる と 良い指標 | ○ | 人 | 2,560 | 2,130 | 2,155 | 2,096 | 2,650 | 2,800 | 業務取得 | ↑ 低下 | ↑ 低下 | × | 平成29年度現状値は、2,096人で、前年度より59人の減少となった。その理由として、会員の高齢化が進み、活動を継続していくことが困難になり、団体の解散や会員数の減少につながった。 | 男性のためのボランティア学校やボランティアサロンを開催し、新たなボランティアの発掘とボランティア団体への参加促進を図る。 |
| 02 | 災害時要援護者への支援 | 市民(地域住民)、自治会、民生委員・児童委員、自主防災組織 | 災害時に、手助けが必要な人が把握され、地域ぐるみでの支援が行われる体制が整っている | 成果 | 近所に、災害時に助けが必要な人がいることを知っている市民の割合 | 上がる と 良い指標 | | % | 17.3 | 15.3 | - | 16.1 | 22.0 | 25.0 | アンケート | ↑ 低下 | ☀ 向上 | △ | 平成29年度のアンケート調査の結果は16.1%と前回調査より0.8ポイント増加となった。引続き、地域での要支援者の把握、要支援者に対する支援計画の策定を支援していく必要がある。 | 地域での要支援者の把握、要支援者に対する支援計画の策定の推進を図る。 |
| | | | | 成果 | 災害時要援護者台帳の延べ提供団体数 | 上がる と 良い指標 | | 団体 | 38 | 42 | 45 | 48.0 | 46 | 52 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 前年度より3団体増加し、平成29年度の現状値は48団体で、平成30年度目標値は達成している。地域における災害時の避難支援プラン作成等に寄与している。 | |
| 03 | 生活困窮者への支援 | 市民 | 生活困窮者に対し、適切に福祉サービスが提供されている | 成果 | 生活保護からの自立世帯数 | 上がる と 良い指標 | | 世帯 | 12 | 11 | 5 | 8.0 | 15 | 15 | 業務取得 | ↑ 低下 | ☀ 向上 | △ | 平成29年度は8件と前年より増加した。就労支援員の配置などの支援体制により、就労自立への意識改革に努めている。 | 自立支援プログラムによる就労支援、訪問による健康・生活面等の支援を継続して行っていく。 |
| | | | | 成果 | 自立支援プログラムにより生活改善が図られた者の割合 | 上がる と 良い指標 | | % | 50.0 | 63.0 | 50.0 | 80.0 | 50.0 | 50.0 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 自立支援プログラムの成果による就労者及び脱却者が出現しており、目標を達成した。 | |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策番号
2

政策名 豊かな心と知性を育むまちづくり

| | |
|-----|-------|
| 主管課 | 教育行政課 |
| 関係課 | - |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(ブルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(ブルダウ) | 対前年度(ブルダウ) | 目標達成見込(ブルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|--------------------|----------------------|-------------------------------|------|--------------------|------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------------|------------|--------------|--|---------------------------------|
| 2-1 | 豊かな心・健やかな体を育む教育の推進 | 小学生、中学生、保護者、地域住民、教職員 | 学校生活を楽しく過ごせ、豊かな心と健やかな体が育まれている | 成果 | 学校生活を楽しく送っている児童の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 97.0 | 96.1 | 95.8 | 97.2 | 97.5 | 98.0 | 課独自調査 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 「楽しい」、「やや楽しい」との回答が、平成28年度より1.4ポイント上昇した。今後も継続して事業の充実を図る。 | |
| | | | | 成果 | 学校生活を楽しく送っている生徒の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 92.9 | 92.4 | 90.6 | 93.2 | 93.0 | 94.0 | 課独自調査 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 「楽しい」、「やや楽しい」との回答が、平成28年度より2.6ポイント上昇し、平成30年度の目標に達している。今後も継続して事業の充実を図る。 | |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性(ブルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(ブルダウ) | 対前年度(ブルダウ) | 目標達成見込(ブルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|--------|---------------|-----------------|--|------|-----------------------------|------------|------|-------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------|------------|------------|--------------|---|--|
| 01 | 道徳性・社会性の向上 | 小学生、中学生、保護者、教職員 | ・道徳性・道徳的実践力が向上している ・不登校となる児童生徒が減少している ・いじめや不登校となった児童生徒・保護者に対して適切な支援ができています | 成果 | 道徳・ルールを守る児童の割合 | 上がると良い指標 | | % | 94.8 | 95.5 | 94.8 | 95.3 | 95.0 | 96.0 | 課独自調査 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成28年度よりも0.5ポイント上昇し、平成30年度の目標値も達している。事業への継続的な取り組みが児童の道徳性向上につながっていると評価できる。 | |
| | | | | 成果 | 道徳・ルールを守る生徒の割合 | 上がると良い指標 | | % | 83.1 | 91.8 | 92.5 | 85.5 | 85.0 | 88.0 | 課独自調査 | ☀ 向上 | ☂ 低下 | △ | 平成28年度よりも7ポイント下降した。 | 道徳講演会を実施するなど、道徳教育を重視した教育活動を進める。また、教科化となる道徳の趣旨を理解し、生徒が議論し、考えを深められるよう授業改善を図り、主体的に自己を振り返り、よりよく生きていくことができるようにする。加えて道徳教育に関する研修も実施し、指導力の向上を図る。 |
| | | | | 成果 | 不登校児童発生率 | 下がると良い指標 | | % | 0.26 | 0.47 | 0.26 | 0.4 | 0.24 | 0.23 | 業務取得 | ☂ 低下 | ☂ 低下 | △ | 平成28年度から0.14ポイント上昇した。該当児童数は20人である。行事への参加をきっかけに学校へ復帰できた児童がいる一方、一人一人の事情にあわせた家庭への働きかけ、医療機関との連携を進めているが、一進一退の児童もいる。 | 引き続き魅力ある学校づくりを進めると共に、スクールソーシャルワーカー3名を配置し、家庭や関係機関と連携していじめ・不登校等事案の早期対応・早期解決を図る。心のアドバイザーを3名中央公民館の相談室に配置、学校巡回も実施し、保護者や子どもたちの相談に対応する。心の教室相談員を各小学校に1名配置し、子どもや保護者等の相談に乗るとともに、子どもの居場所づくりを行う。つくしんぼ(適応指導教室)と連携し、不登校児童の学校への復帰を支援する。 |
| | | | | 成果 | 不登校生徒発生率 | 下がると良い指標 | | % | 2.5 | 1.78 | 1.93 | 2.9 | 1.9 | 1.8 | 業務取得 | ☂ 低下 | ☂ 低下 | △ | 平成28年度から0.97ポイント上昇した。該当生徒は68名である。部活動や行事への参加をきっかけに学校へ復帰できた生徒がいる一方、一人一人の事情により家庭への働きかけ、医療機関との連携を進めているが、一進一退の生徒もいる。 | 引き続き魅力ある学校づくりを進めると共に、スクールソーシャルワーカー3名を配置し、家庭や関係機関と連携していじめ・不登校等事案の早期対応・早期解決を図る。心のアドバイザーを3名中央公民館の相談室に配置、学校巡回も実施し、保護者や子どもたちの相談に対応する。心の教室相談員を各小学校に1名配置し、子どもや保護者等の相談に乗るとともに、子どもの居場所づくりを行う。つくしんぼ(適応指導教室)と連携し、不登校生徒の学校への復帰を支援する。 |
| | | | | 成果 | いじめ不登校等に関する相談への対応率(参考:相談件数) | 上がると良い指標 | | % (件) | 100 (9,537) | 100 (12,607) | 100 (17,119) | 100 (21,928) | 100 (10,000) | 100 (10,000) | 業務取得 | ☁ 横ばい | ☁ 横ばい | ○ | 目標値に達しており、相談に対しては100%対応している。 | |
| | | | | 成果 | 性行不良の生徒数 | 下がると良い指標 | | 人 | 10 | 5 | 2 | 3 | 0 | 0 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☂ 低下 | ○ | 平成28年度から1人増加したが、低い水準で推移している。 | 引き続き、関係機関等と連携を図り、未然防止に努めるとともに、いじめや不登校など、原因が複雑に絡みあう児童生徒の問題行動に対応するため、教員にソーシャルワークの視点や方法論を身につけることを目的としたスクールソーシャルワーク研修を実施する。 |
| 02 | 健康教育の推進 | 小学生、中学生 | 児童生徒の健康が管理され、体力が向上している | 成果 | 肥満度±20%以上の児童の割合(太りすぎ、痩せすぎ) | 下がると良い指標 | | % | 6.4 | 6.4 | 6.4 | 7.3 | 6.0 | 5.5 | 業務取得 | ☂ 低下 | ☂ 低下 | △ | 平成28年度から0.9ポイント上昇した。該当児童の過半数は「太りすぎ」である。 | 引き続き、学校における保健・環境衛生の充実・推進、また、児童自身が生涯にわたって、健康・安全の重要性を認識し、自らその保持増進を実践していく力をつけていくための安全教育を実施する。 |
| | | | | 成果 | 肥満度±20%以上の生徒の割合(太りすぎ、痩せすぎ) | 下がると良い指標 | | % | 10.8 | 10.8 | 10.0 | 10.1 | 10.0 | 9.5 | 業務取得 | ☁ 横ばい | ☀ 向上 | ○ | 平成28年度より0.1ポイント上昇したが、ほぼ横ばい。平成30年度目標値に達している。該当生徒の過半数は「痩せすぎ」である。 | |
| 03 | 学校教育における食育の推進 | 小学生、中学生 | 食に対する基礎知識を習得し、健康的な食習慣が形成されている | 成果 | 食育に関する平均実践項目数(児童)(全5項目中) | 上がると良い指標 | | 項目 | 3.2 | 27.9 | 3.2 | 3.1 | 3.5 | 3.8 | 課独自調査 | ☂ 低下 | ☂ 低下 | △ | 平成28年度より0.1ポイント下降しているが、ほぼ横ばいである。 | 引き続き、朝ごはんの大切さや、家族で食事をするなどの意義を再確認することをねらいとして、朝ごはんメニューコンテストを実施する。 |
| | | | | 成果 | 食育に関する平均実践項目数(生徒)(全5項目中) | 上がると良い指標 | | 項目 | 2.4 | 2.5 | 2.6 | 2.7 | 2.7 | 3 | 課独自調査 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成28年度より0.1ポイント上昇している。 | |

※ 平成30年10月30日一部修正

＜施策・基本事業 成果指標一覧＞

| | | | |
|-----------|------------------------|------------|------------|
| 政策番号 2 | 政策名 豊かな心と知性を育むまちづくり | 主管課 関係課 | 教育行政課 - |
|-----------|------------------------|------------|------------|

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(フルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(フルダウ) | 対前年度(フルダウ) | 目標達成見込(フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) | |
|--------|------------------|---------------------------|--|------|-------------------------------|------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------------|------------|--------------|--|---|--|
| 2-2 | 確かな学力を育む教育の推進 | 小学生、中学生、保護者、地域住民、教職員、学校施設 | 学習意欲をもって授業を受け、確かな学力が育成されている | 成果 | 指導要録の評定で全教科の評定が2以上である児童の割合 | 上がると良い指標 | | % | 90.0 | 91.0 | 90.8 | 90.2 | 92.0 | 94.0 | 業務取得 | ☀ 向上 | ↑ 低下 | △ | 平成28年度と比較し、横ばいである。参考として、H30年度調査で、全教科評定の平均が2以上である児童数の割合についてもあわせて調査する。 | 児童の学習意欲及び学力が向上する指導ができるよう、充実した教員研修を実施していくことにより、わかりやすい授業を展開したり、児童が活躍できる場を設定したりして、学習意欲が向上するよう指導する。 | |
| | | | | 成果 | 指導要録の評定で全教科の評定が3以上である生徒の割合 | 上がると良い指標 | | % | 55.0 | 44.6 | 43.5 | 46.1 | 60.0 | 65.0 | 業務取得 | ↑ 低下 | ☀ 向上 | △ | 平成28年度より2.6ポイント上昇した。苦手教科があるために全教科での評定は3以上とならないものの、その他の教科では学力が定着している生徒も一定数いると分析する。参考として、H30年度調査で、全教科評定の平均が3以上である生徒数の割合についてもあわせて調査する。 | 引き続き、各生徒の特性に配慮し、生徒の学習意欲及び学力が向上する指導ができるよう、充実した教員研修の実施により、わかりやすい授業を展開したり、生徒が活躍できる場を設定したりして、学習意欲が向上するよう指導する。 | |
| | | | | 成果 | 学習意欲がある児童の割合 | 上がると良い指標 | | ○ | % | 95.8 | 94.3 | 94.4 | 94.9 | 96.0 | 97.0 | 課独自調査 | ↑ 低下 | ☀ 向上 | ○ | 平成28年度より0.5ポイント上昇している。今後も継続して児童の学習意欲が向上するよう授業をするための教員研修を充実させるとともに、様々な啓発活動により、家庭教育の重要性への理解が高まるよう努めていく。 | |
| | | | | 成果 | 学習意欲がある生徒の割合 | 上がると良い指標 | | ○ | % | 84.3 | 85.9 | 85.6 | 83.5 | 87.5 | 90.0 | 課独自調査 | ↑ 低下 | ↑ 低下 | × | 平成28年度より2.1ポイント下降している。生徒の学習意欲が向上するよう授業をするための教員研修を充実させるとともに、様々な啓発活動により、家庭教育の重要性への理解が高まるよう努めていく必要がある。 | 教員研修の実施により、わかりやすい授業を展開したり、生徒が活躍できる場を設定したりして、学習意欲が向上するよう指導する。 |
| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性(フルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(フルダウ) | 対前年度(フルダウ) | 目標達成見込(フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) | |
| 01 | 学力の定着 | 小学生、中学生 | 分かりやすい授業を受け、理解度が高まっている | 成果 | 授業が分かると答える児童の割合 | 上がると良い指標 | | ○ | % | 94.2 | 95.3 | 93.9 | 94.7 | 95.0 | 96.0 | 課独自調査 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成28年度より0.8ポイント上昇している。 | |
| | | | | 成果 | 授業が分かると答える生徒の割合 | 上がると良い指標 | | ○ | % | 77.4 | 78.6 | 80.2 | 79.7 | 80.0 | 85.0 | 課独自調査 | ☀ 向上 | ↑ 低下 | ○ | 平成28年度より0.5ポイント下降している。 | 生徒がわかりやすい授業をするように指導するとともに、授業研究、研究協議等、充実した教員研修を実施し、力量向上を図る。 |
| 02 | 個に応じたきめ細やかな指導の充実 | 小学生、中学生 | 個に応じた支援を行い、成長段階に応じた教育が受けられている | 成果 | 少人数指導授業を受けている児童の割合 | 上がると良い指標 | | % | 73.8 | 89.0 | 92.2 | 89.1 | 75.0 | 80.0 | 業務取得 | ☀ 向上 | ↑ 低下 | ○ | 平成28年度より3.1ポイント下降したが、H30年、35年目標値ともに達成している。小学校1.2年生は少人数学級であるため、全員が全教科を少人数授業を受けている。3～6年生は、算数の授業で少人数指導授業を受けている。 | | |
| | | | | 成果 | 少人数指導授業を受けている生徒の割合 | 上がると良い指標 | | % | 100 | 100 | 100 | 100.0 | 100 | 100 | 業務取得 | ☀ 横ばい | ☀ 横ばい | ○ | 目標値を達成している。 | | |
| | | | | 成果 | 特別な支援を必要とする児童生徒に対する補助員等の対応率 | 上がると良い指標 | | % | 42.6 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 72.5 | 75.0 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 横ばい | ○ | 目標を達成している。特別な支援を必要とする児童生徒に対する対応ができてきている。 | | |
| 03 | 特色ある学校づくりの推進 | 小学生、中学生、保護者、地域住民、教職員、学校施設 | 各学校で創意工夫を活かした教育活動が展開され、地域の特性を活かした特色のある学校 | 成果 | 地域の特性を活かした特色ある学校づくりが実施されている割合 | 上がると良い指標 | | ○ | % | 97.2 | 100 | 100 | 100.0 | 100 | 100 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 横ばい | ○ | 目標値を達成している。各学校で創意工夫を活かした活動が行われており、特色ある学校づくりが進んでいる。 | |
| 04 | 教職員の資質向上 | 教職員 | 教員の資質の向上が図られ、児童生徒がより良い指導を受けられている | 成果 | 教職員の研修受講割合 | 上がると良い指標 | | % | 100 | 27.9 | 100.0 | 100.0 | 100 | 100 | 課独自調査 | ☀ 横ばい | ☀ 横ばい | ○ | 目標値を達成している。研修対象教職員全員が研修を受講している。 | | |
| | | | | 成果 | 校内現職研修実施回数 | 上がると良い指標 | | 回 | 11 | 12.3 | 11.6 | 15.8 | 20.0 | 20.0 | 課独自調査 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | △ | 平成28年度より4.2ポイント上昇し、成果が向上している。 | H29から、学校業務改善検討委員会で教職員を対象とした研修全般について実施状況の把握、見直しを行っている。校内研修は、各学校で現職研修事業委託費や授業力向上研修事業費等を活用して実施しているが、これについても研修に参加する教職員の負担等を考慮しながら、内容及び回数について効果的実施方法を検討するよう学校に働きかける。 | |
| | | | | 成果 | 研修効果があったと感じる教職員の割合 | 上がると良い指標 | | % | 93.4 | 92.2 | 90.2 | 93.2 | 94.0 | 95.0 | 業務取得 | ↑ 低下 | ☀ 向上 | ○ | 平成28年度より3.0ポイント上昇し、成果が向上している。なお、平成30年度から実施研修を見直し、研修メニューを変更したため、今後の推移を注視していく。 | | |
| 05 | 教育環境の整備 | 小学生、中学生、保護者、地域住民、教職員、学校施設 | 児童生徒が安全で快適な教育環境で学んでいる | 成果 | 大規模改修工事を完了した学校数の割合 | 上がると良い指標 | | ○ | % | 8.3 | 16.6 | 25.0 | 25.0 | 41.7 | 66.7 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 横ばい | △ | 本地原小、城山小、東葉小学校に続いて、白鳳小学校大規模改修工事の1期目に着手 | 計画的な改造を進めるために、財源の確保が課題 |
| | | | | 成果 | 施設維持管理上の不具合による教育支障件数 | 下がると良い指標 | | 件 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 0 | 0 | 業務取得 | ☀ 横ばい | ☀ 横ばい | ○ | 施設修繕、保守を実施することで適切な施設維持管理に努め、教育支障件数は、無かった。 | 計画的な施設の事前保全が必要 | |
| | | | | 成果 | 通学路上の危険箇所に対する要望への対応率 | 上がると良い指標 | | % | 86.4 | 70.2 | 71.0 | 78.7 | 86.0 | 86.0 | 業務取得 | ↑ 低下 | ☀ 向上 | △ | 平成28年度より7.7ポイント上昇したが、目標値に向かって成果が向上していない。通学路上の危険箇所に対する要望の中には、道路状況等の要因により対応が難しい箇所があるため対応が難しい側面もあるが、通学路児童生徒の安全確保のため、代替案で対応するなど最大限の努力が必要である。 | 関係団体でつくる通学路安全推進会議で毎年の合同点検を実施するとともに、懸案事項について協議する。 | |

※ 平成30年10月30日一部修正

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策
番号
2

政策名 豊かな心と知性を育むまちづくり

| | |
|-----|----------------|
| 主管課 | 教育行政課 |
| 関係課 | 保育課、こども課、生涯学習課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (プルダウン) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得方法 | 対基準値 (プルダウン) | 対前年度 (プルダウン) | 目標達成 見込 (プルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案 (目標達成見込が△×の場合) |
|------|-------------|-------------------------|--|------|------------------------------------|-----------------|------|----|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-------|-----------------|-----------------|-----------------------|---|--|
| 2-3 | 総合的な教育連携の推進 | 幼児、小学生、中学生、保護者、地域住民、教職員 | 学校・家庭・地域それぞれのコミュニケーションや教育力が向上し、学習環境が向上している | 成果 | 学校・家庭・地域のコミュニケーションが図られていると感じる市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 87.9 | 90.0 | - | 87.8 | 90.0 | 90.0 | アンケート | ↑ 低下 | ↑ 低下 | △ | 平成27年度より2.2ポイント下降している。地域行事への児童生徒の参加は進んでいるが、学校行事等への地域住民の参加や支援についてが十分進んでいないと分析する。 | 各小学校区で実施する地域学校支援推進事業(尾張旭版コミュニティスクール あさひスマイルコミュニティ)を中心として地域住民に参加を呼びかけていく |
| 01 | 家庭教育力の充実 | 小学生、中学生、保護者 | 家庭教育力が高まり、家庭内で発達段階に応じた教育が適切にされている | 成果 | 家庭教育の重要性を理解し行動している保護者の割合 | 上がると良い指標 | | % | 39.2 | 39.0 | - | 41.1 | 43.0 | 45.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | △ | 目標値には届かないものの、平成27年度よりも2.1ポイント上昇した。 | 学校便り等、家庭教育の重要性について様々な機会を捉えて啓発し、理解が高まるよう努めていく。 |
| | | | | 活動 | 家庭教育に関する講座への参加者数(参考:親子天体観測教室の参加者数) | 上がると良い指標 | | 人 | 2236 (308) | 2,235 (55) | 2,532 (648) | 2,513 (356) | 2,200 (250) | 2,200 (250) | 業務取得 | ☀ 向上 | ↑ 低下 | ○ | スカイワードあさひ天体観測室改修当初の天体観測教室の参加者増加が落ち着きを見せたが、「コスミックカレッジ」「親子ふれあい星空教室」「出張発明クラブ」などの新規講座を開催したことで、全体としては概ね横ばいであり、H30・H35目標値のいずれも達成している。 | |
| 02 | 地域教育力の充実 | 小学生、中学生、保護者、地域住民、学校、行政 | 地域での教育活動が活発にされている | 成果 | 地域教育活動に参加した市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 6.9 | 6.5 | - | 5.7 | 10.0 | 10.0 | アンケート | ↑ 低下 | ↑ 低下 | △ | 平成27年度より0.8ポイント下降している。 | 各小学校区で実施する地域学校支援推進事業(尾張旭版コミュニティスクール あさひスマイルコミュニティ)を中心として地域住民に参加を呼びかけていく |
| | | | | 成果 | 授業等の支援に参加した人の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 1.1 | 1.3 | 1.8 | 1.2 | 1.5 | 1.5 | 課独自調査 | ☀ 向上 | ↑ 低下 | △ | 平成28年度より0.6ポイント下降している。 | 地域学校支援研究事業の実施(全小学校区)、特色のある学校づくり、総合的な学習や社会科の学習で地域講師、ボランティアによる支援を行う。 |
| 03 | 学校・家庭・地域の連携 | 小学生、中学生、保護者、地域住民、教職員、学校 | 学校・家庭・地域の交流や教育支援が活発に行われている | 成果 | 学校行事への保護者の参加率 | 上がると良い指標 | | % | 65.3 | 64.7 | - | 57.7 | 65.0 | 65.0 | アンケート | ↑ 低下 | ↑ 低下 | △ | 平成27年度より7ポイント下降している。 | 児童生徒の学習の成果を見てもらったり、学校への理解を深めてもらうためにも、学校行事への参加を求めていく必要がある。学校だより等で、学校行事への保護者の参加を呼びかけていく。 |
| | | | | 成果 | 開かれた学校づくりに対する地域住民の満足度 | 上がると良い指標 | ○ | % | 65.6 | 72.5 | - | 73.2 | 70.0 | 70.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成27年度より0.7ポイント上昇し、平成30年度及び平成35年度の目標値も上回っている。 | |
| | | | | 成果 | 地域からの要望や提案への対応・改善を実践した件数 | 上がると良い指標 | | 件 | 57 | 53 | 69 | 86 | 50 | 50 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成28年度より17件上昇し、平成30年度の目標値も上回っている。 | |
| | | | | 成果 | 地域活動に参加した児童生徒、教職員の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 60.0 | 72.8 | 71.8 | 74.7 | 62.5 | 65.0 | 課独自調査 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成28年度より2.9ポイント上昇し、平成30年度の目標値も上回っている。 | |
| 04 | 就園・就学の支援 | 幼児、小学生、中学生、保護者 | 保護者の経済的な負担が軽減され、就園・就学ができていく | 活動 | 私立幼稚園に就園している満3～5歳児で支援を受けている園児数 | その他 | | 人 | 1,025 | 1,081 | 1,060 | 1033 | - | - | 業務取得 | ☀ 向上 | ↑ 低下 | ○ | 幼稚園の就園者数によって数が左右される。 | 保護者への通知やホームページにより制度の周知に努めた。 |
| | | | | 活動 | 小学生から中学生までで就学の支援を受けている児童生徒数 | その他 | | 人 | 825 | 28 | 820 | 882 | - | - | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 義務教育世代の人口数によって対象者数が左右される。入学前支給を実施したことにより、対象者数が増加した。 | |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策番号
2

政策名 豊かな心と知性を育むまちづくり

| | |
|-----|-----------------|
| 主管課 | 生涯学習課 |
| 関係課 | 産業課、長寿課、文化スポーツ課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(フルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(フルダウ) | 対前年度(フルダウ) | 目標達成見込(フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|---------|--------------------------------------|---|------|-------------------|------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------------|------------|--------------|---|---------------------------------|
| 2-4 | 生涯学習の振興 | 乳幼児、小学生、中学生、青少年、成人、高齢者、ボランティア・指導者、行政 | ・生涯学習に多くの人が取り組み、彩りある豊かな人生を過ごしている ・「いつでも、どこでも、誰でも」を実現する生涯学習環境が整い、心豊かで生きがいのあるまちづくりが進んでいる | 成果 | 生涯学習に取り組んでいる市民の割合 | 上がるの良い指標 | | % | 44.1 | 39.7 | - | 45.0 | 46.0 | 48.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 基準値と比較すると成果を維持できており、H30目標をほぼ達成している。今回から、「スポーツ・体力づくり」を新たに選択肢に加えたことによる影響が大きいと考えられ、ウォーキングや健康体操などに取り組む市民が多いと言える。 | |
| | | | | | 生涯学習環境に対する総合的な満足度 | 上がるの良い指標 | ○ | % | 66.2 | 68.5 | - | 69.9 | 67.0 | 67.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 基準値と比較すると成果が向上しており、H30目標を達成している。これは、中央公民館の各部屋を少人数で利用しやすいように改修を行ったことや、スカイワードあさひ天体観測室の改修が完了し、満足度が向上したことによるものと考えられる。 | |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性(フルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(フルダウ) | 対前年度(フルダウ) | 目標達成見込(フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|--------|-------------|--------------------------------------|--|------|--------------------------------|------------|------|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------------|------------|--------------|--|--|
| 01 | 生涯学習活動の参加促進 | 乳幼児、小学生、中学生、青少年、成人、高齢者 | 市民ニーズに応じた、様々な生涯学習の機会が提供され、市主催の講座・教室に多くの市民が参加している | 成果 | 生涯学習関連の講座・教室の参加者数(参考:市主催の参加者数) | 上がるの良い指標 | ○ | 千人 | 82(38) | 75(53) | 78(52) | 55(31) | 69(57) | 70(58) | 業務取得 | ☹ 低下 | ☹ 低下 | × | 基準値と比較すると成果が低下している。これは、こども課が実施しているほっとママサロン事業の実施方法を見直し、講座形式でなくなったことにより集計対象から除外した影響が大きいと考えられる。 | スカイワードあさひ天体観測室を生かした講座など、市民に興味を持ってもらえるような講座を実施する。集計対象が変わった影響が大きいので、目標値を見直すことも必要。 |
| | | | | 成果 | 市主催の生涯学習関連の講座・教室の定員充足率 | 上がるの良い指標 | | % | 84.6 | 68.7 | 79.2 | 85.9 | 85.0 | 85.0 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 基準値と比較すると成果が向上しており、H30目標を達成している。天体観測室改修後に実施したコスミックカレッジや家庭教育学級の人気が高く、定員を上回る申し込みがあったことによる。 | |
| | | | | 成果 | 生涯学習活動に関する機会の満足度 | 上がるの良い指標 | ○ | % | 69.0 | 71.3 | - | 72.0 | 70.0 | 70.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 基準値と比較すると成果が向上しており、H30目標を達成している。公民館事業である長寿学園や高齢者教室、気軽に楽しめる講座の実施による影響と言える。 | |
| | | | | 成果 | 高齢世代(60歳以上)で生涯学習に取り組んでいる市民の割合 | 上がるの良い指標 | | % | 51.7 | 46.3 | - | 51.2 | 55.0 | 60.0 | アンケート | ☹ 低下 | ☀ 向上 | △ | 基準値と比較すると成果を維持できているが、H30目標値に3.8ポイント届いていない。H27実績と比較すると4.9ポイント向上しているが、これは「スポーツ・体力づくり」を新たに選択肢に加えたことによる影響が大きいと言える。 | 年齢が高くなるにつれ、「何も行っていない」と回答する割合は減少する傾向にあることから、健康づくり、体力づくりや芸術活動など高齢者の関心が高い活動を紹介するなどの対策が有効と考えられる。 |
| 02 | 生涯学習情報の提供 | 乳幼児、小学生、中学生、青少年、成人、高齢者、ボランティア・指導者、行政 | ・生涯学習に関する情報の収集、一元的な提供が充実している ・市民参加による実施体制が整っている | 成果 | 生涯学習に関連する情報提供に関する満足度 | 上がるの良い指標 | | % | 63.4 | 66.9 | - | 68.9 | 64.0 | 65.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 基準値と比較すると成果が向上しており、H30目標を達成している。スカイワードあさひ天体観測室の改修や講座に関する情報をHPや広報誌等で発信したことによるものと考えられる。 | |
| | | | | 成果 | 生涯学習団体リスト登録件数 | 上がるの良い指標 | | 団体 | 112 | 100 | 95 | 96 | 115 | 115 | 業務取得 | ☹ 低下 | ☀ 向上 | × | 登録期間を2年間としており、H29は更新年ではなかったため、微増となった。古参団体の解散により、減少傾向にある。 | H30は更新年であり、減少が見込まれる。公民館講座を修了した方によるサークルに登録を呼びかけることなどが考えられる。 |
| | | | | 成果 | 生涯学習教授リスト登録人数 | 上がるの良い指標 | | 人 | 222 | 256 | 227 | 235 | 225 | 225 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 基準値及びH28実績と比較して成果が向上しており、H30目標を達成している。増加した8人の内訳は市内6名、市外2名、男性3名、女性5名、分野も満遍なく増えている。 | |
| 03 | 生涯学習施設の利用促進 | 乳幼児、小学生、中学生、青少年、成人、高齢者 | 生涯学習に関する施設が整備され、多くの市民に利用されている | 成果 | 公民館利用者数 | 上がるの良い指標 | ○ | 千人 | 354 | 353 | 347 | 350 | 357 | 360 | 業務取得 | ☹ 低下 | ☀ 向上 | △ | H28年度と比べ3ポイント上回ったが、基準値を4ポイント下回っている。中央公民館は、改修工事が終了したため利用者が増えている。しかし地区公民館においては選挙により一部の作品展示会が中止になったり、サークルなどの活動の縮小や解散により利用者が減少した。 | サークルへの支援や施設を利用しやすいように改修など環境を整える必要がある。 |
| | | | | 成果 | 生涯学習施設の満足度 | 上がるの良い指標 | | % | 66.3 | 27.9 | - | 68.8 | 67.0 | 67.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | H27年度より1.5ポイント増加し目標も上回っている。適時、改修工事等を実施し施設を利用しやすいよう適切な維持管理に努めた。 | |
| 04 | 読書環境の整備 | 乳幼児、小学生、中学生、青少年、成人、高齢者 | 図書館が充実し、多くの市民に利用されている | 成果 | 図書館の設備・資料の満足度 | 上がるの良い指標 | ○ | % | 60.5 | 60.5 | - | 63.9 | 61.0 | 61.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 施設の老朽化は否めないが、ウォータークーラーを買い替えたり、図書消毒機を導入したりすることで快適に図書館を利用してもらえることができるよう施設の維持管理に努めた結果、3.4ポイントの増加につながった。 | |
| | | | | 成果 | 市民1人あたりの図書館資料総貸出点数 | 上がるの良い指標 | | 点 | 8.1 | 7.9 | 7.5 | 7.3 | 8.2 | 8.5 | 業務取得 | ☹ 低下 | ☹ 低下 | × | 新規利用者を呼び込むため、大人向けの読み聞かせを行うなどしたが、団体への貸出点数は増加したものの、個人への貸出し点数は前年度に比べ0.2ポイント減少している。全国的に見ても公立図書館における図書等の貸出点数は減少傾向が継続しており、当館においても歯止めが効かなかったと考えられる。 | 地区公民館での返却図書及び予約図書貸出の取次サービスの拠点を1箇所追加(新池交流館・ふらっと)市内の学校における読書活動及び調べ学習の支援の継続 |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策
番号
2

政策名 豊かな心と知性を育むまちづくり

| | |
|-----|-------------|
| 主管課 | 文化スポーツ課 |
| 関係課 | 教育行政課、生涯学習課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (プルダウン) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (プルダウン) | 対前年度 (プルダウン) | 目標達成 見込 (プルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案 (目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|----------|-------|--|------|---------------------|------------------|----------|----|------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|-----------------|-----------------|-----------------------|---|--|
| 2-5 | 文化の継承と振興 | 市民 | ・伝統文化が保存・継承されている ・市民全員が共有できる文化の振興が進んでいる | 成果 | 伝統文化に誇りや愛着を持つ市民の割合 | 上がる と 良い指標 | ○ | % | 44.8 | 40.0 | — | 38.3 | 47.0 | 50.0 | アンケート | ☔ 低下 | ☔ 低下 | △ | 29年度は無形民俗文化財の紹介を出張企画展として市役所で実施するなど歴史民俗フロア以外での展示にも力を入れた。市HPには市内史跡の紹介や史跡看板に二次元コードを貼付して情報量の強化を行った。 | 尾張旭の歴史や伝統文化などについて、情報発信の強化を行う。情報発信には、歴史民俗フロアだけではなく、公共施設での出張企画展やHPの更なる充実を行う。 |
| | | | | 成果 | 芸術文化活動に取り組んでいる市民の割合 | 上がる と 良い指標 | ○ | % | 9.7 | 5.8 | — | 7.6 | 11.0 | 12.0 | アンケート | ☔ 低下 | ☀ 向上 | △ | 29年度はプラスバンドの学校へのアウトリーチ活動の実施、市民から募集したミュージカルの実施などを行い、芸術文化活動を始めるきっかけづくりを行った。 | 今後も次世代を担う子どもたちに芸術活動のすばらしさを知ってもらおう、アウトリーチ活動の実施や地域で活躍する芸術家の紹介などを行っていく。 |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性 (プルダウン) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (プルダウン) | 対前年度 (プルダウン) | 目標達成 見込 (プルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案 (目標達成見込が△×の場合に記載) |
|--------|----------------|---------|--|------|---------------------------|------------------|----------|----|------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|-----------------|-----------------|-----------------------|--|--|
| 01 | 文化財、伝統文化の保存と継承 | 市民 | ・文化財の保存活動を通じて、尾張旭市の伝統文化が保存・継承されている ・歴史講座等を通じて文化財や史跡への関心が高まり、保存と公開が進められている | 成果 | 文化財の保存活動の参加者数 | 上がる と 良い指標 | | 人 | 921 | 930 | 986 | 1037 | 950 | 1,000 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 無形民俗文化財の保存会会員数が増加した。特に子どもたちが増加傾向にあり、各保存会で町内会などに募集ちらしの配布を行った成果等が現れたと分析する。 | |
| | | | | 成果 | 歴史講座、史跡めぐり等の参加者数 | 上がる と 良い指標 | ○ | 人 | 140 | 206 | 157 | 254 | 160 | 180 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 29年度は史跡めぐり4回、子ども向け史跡めぐり1回、郷土の歴史講座2回、かるた会1回を実施した。特に郷土の歴史講座は増加傾向にあり、参加者の興味と講座内容が合致していると分析する。 | |
| 02 | 地域文化活動団体の育成 | 市民 | ・市民が主役となった地域文化活動が行われている ・支援組織やボランティアが育成されている | 成果 | 文化協会加入団体数 | 上がる と 良い指標 | | 団体 | 70 | 74 | 75 | 74 | 70 | 70 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☔ 低下 | ○ | 新たに加入した団体もあるが、代表者等の高齢化により消滅したものもある。世代交代が徐々に行われつつあると分析する。 | |
| | | | | 成果 | 文化活動支援のために組織されたボランティアの団体数 | 上がる と 良い指標 | | 団体 | 5 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☁ 横ばい | ○ | 引き続き「文化会館サポーターズクラブ」による文化会館開催事業の支援などの活動を実施した。 | |
| 03 | 芸術文化活動の環境整備 | 市民 | 市民の芸術文化鑑賞・発表の機会と場が提供され、活動が活発に行われている | 成果 | 芸術文化活動を鑑賞・参加している市民の割合 | 上がる と 良い指標 | | % | 46.1 | 43.4 | — | 43.2 | 50.0 | 55.0 | アンケート | ☔ 低下 | ☔ 低下 | △ | 29年度には市民からミュージカル参加者を募集して公演を行い、参加者が自ら団体を結成して引き続きミュージカル公演を実施している。また、引き続き学校へのアウトリーチ活動の実施も行っている。 | 地域で活躍する芸術家にスポットを当て、より活躍していただけるよう文化会館事業を実施していく。 |
| | | | | 成果 | 芸術文化活動に関する機会の満足度 | 上がる と 良い指標 | | % | 62.1 | 65.2 | — | 65.9 | 65.0 | 65.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☔ 低下 | ○ | 「あさひのむかしばなし」として、尾張旭に伝わる昔話の朗読会を行うとともに、朗読方法の講座を合わせて行い、市民が芸術活動に参加していく事業を行った。 | |
| | | | | 成果 | 芸術文化拠点施設(文化会館)の利用率 | 上がる と 良い指標 | | % | 29.4 | 26.0 | 26.6 | 27.6 | 30.0 | 30.0 | 業務取得 | ☔ 低下 | ☀ 向上 | △ | 練習による利用が確実に増加しており、文化会館利用については積極的に行われていると分析する。 | 30年度改修工事を実施するに当たり、展示方法の改良や軽音楽室への改修などを行い、より利用しやすい施設にする。 |

＜施策・基本事業 成果指標一覧＞

政策
番号
2

政策名 豊かな心と知性を育むまちづくり

| | |
|-----|-------------|
| 主管課 | 文化スポーツ課 |
| 関係課 | 健康都市推進室、健康課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (ブルダウ) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (ブルダウ) | 対前年度 (ブルダウ) | 目標達成 見込 (ブルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|------|---------|-------|------------------|------|-----------------------|------------------|----------|----|------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|----------------|----------------|----------------------|---|--|
| 2-6 | スポーツの振興 | 市民 | スポーツをする市民が増加している | 成果 | スポーツ活動に親しむ市民の割合 | 上がる と 良い指標 | ○ | % | 61.3 | 61.9 | — | 60.7 | 63.0 | 65.0 | アンケート | ☂ 低下 | ☂ 低下 | △ | 平成30年度の目標値より2.3ポイントの開きがある。平成29年度は市民が手軽にスポーツを親しめるよう市民祭会場でニューススポーツ体験会を開催したり、誰もが参加できるラジオ体操講習会やウォーキング大会などを開催した。 | 親子で参加できるウォーキングイベントやシニア向けのニューススポーツ体験会を開催することで、更なる成果の向上を図る。 |
| | | | | 成果 | スポーツ活動を週1回以上行う成人市民の割合 | 上がる と 良い指標 | | % | 50.9 | 48.4 | — | 46.4 | 55.0 | 60.0 | アンケート | ☂ 低下 | ☂ 低下 | △ | 平成30年度の目標値より8.6ポイントの開きがある。スポーツ推進委員を派遣する「軽々楽々スポーツ」を開催し、市民が身近にスポーツに触れ合える機会を提供した。(参加者:H29年1,744人(H28年度比+458人))また、指定管理者が行うスポーツ教室をより魅力ある内容とすることで成果向上を図る。 | 65歳以上で、スポーツ活動を週1回以上行う割合は57.8%と高いが、20～64歳では39.9%と低い。目標達成には現役世代がスポーツに取り組む工夫が必要である。 |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性 (ブルダウ) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (ブルダウ) | 対前年度 (ブルダウ) | 目標達成 見込 (ブルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|--------|---------------|---------|------------------------------------|------|----------------------|------------------|----------|----|-------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|----------------|----------------|----------------------|---|--|
| 01 | スポーツ活動の参加促進 | 市民 | 市民がスポーツ活動を行う機会が充実し、参加が促進されている | 成果 | スポーツ教室・大会等に参加した市民の割合 | 上がる と 良い指標 | | % | 16.7 | 18.2 | 19.0 | 20.0 | 18.0 | 20.0 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成30年度の目標値を達成している。引き続き魅力あるスポーツ教室・大会を開催し、市民がスポーツ活動を行う機会を提供する。 | |
| | | | | 成果 | スポーツをする機会の満足度 | 上がる と 良い指標 | | % | 65.1 | 65.9 | — | 67.4 | 68.0 | 70.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成30年度の目標値より0.7ポイント開きがある。市民が気軽に参加できるニューススポーツ体験会やウォーキング大会の周知方法を再検討することで、更なる成果の向上を図る。 | |
| 02 | スポーツ団体・指導者の育成 | 市民 | スポーツの活動団体や指導者が育成され、スポーツ活動が活発になっている | 成果 | スポーツ団体数 | 上がる と 良い指標 | | 団体 | 21 | 20 | 19 | 20 | 21 | 22 | 業務取得 | ☂ 低下 | ☀ 向上 | △ | 体育協会加盟団体数は、平成30年度の目標値より1団体少ない20団体である。平成27年度末に脱退したクレー射撃協会が組織変更を行い、平成29年度当初に新規加盟した。 | 増加予定はないが、新たな競技団体が根付き、競技人口が増加すれば加盟団体が増える可能性はある。体育協会では、新規団体設立準備のための補助制度を設けている。 |
| | | | | 成果 | スポーツ推進委員1人あたりの市民数 | その他 | | 人 | 4,097 | 4,334 | 4,138 | 4,149 | 3,952 | 3,818 | 業務取得 | ☁ 横ばい | ☁ 横ばい | ○ | 平成29年度に役員改選を行い、スポーツ推進委員20名で運営している。尾張旭市スポーツ推進委員に関する規則で委員定数は20名以内と定められている。目標値は達成していないが定数を確保しているため、成果は上がっていると判断した。 | |
| | | | | 活動 | スポーツ指導者養成者数 | 上がる と 良い指標 | | 人 | 1,342 | 2,702 | 3,067 | 3,255 | — | — | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成28年度と比較すると指導者養成者数が188人増加した。参加者の増加は、各競技団体が会員等に対して、積極的に参加を呼び掛けた結果である。今後も継続して指導者養成を促進することで、更なる成果の向上を図る。 | |
| 03 | スポーツ活動の環境整備 | 市民 | スポーツ活動に関する施設や設備が充実し、多くの市民が利用している | 成果 | スポーツ施設・設備の満足度 | 上がる と 良い指標 | ○ | % | 58.0 | 57.3 | — | 59.7 | 60.0 | 60.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成30年度の目標値には0.3ポイント開きがあるが、60%近い満足度を維持している。これは晴丘テニスコートの改修工事や総合体育館の計画的な改修や施設の適正な維持管理が利用者に評価された結果だと考える。 | |
| | | | | 成果 | スポーツ施設の利用者数 | 上がる と 良い指標 | | 千人 | 506 | 551 | 547 | 532 | 507 | 507 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☂ 低下 | ○ | 平成30年度の目標値を達成している。指定管理者と担当課が協力し、施設運営や維持管理を適正に、計画的に行っている結果であると考え。 | |
| | | | | 成果 | 学校体育施設開放の利用者数 | 上がる と 良い指標 | | 千人 | 105 | 103 | 109 | 112 | 110 | 115 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成30年度の目標値を達成している。近年の増加傾向は、平成28年度に東中学校運動場の冬季夜間開放拡大を行ったためと分析する。 | |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策
番号
3

政策名 快適な生活を支えるまちづくり

| | |
|-----|---------------------|
| 主管課 | 都市計画課 |
| 関係課 | 企画課、産業課、都市整備課、土木管理課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(ブルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(ブルダウ) | 対前年度(ブルダウ) | 目標達成見込(ブルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|------------|----------|--|------|------------------------------|------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------------|------------|--------------|--|---------------------------------|
| 3-1 | 質の高い住環境の整備 | 市民、街区、公園 | ・秩序ある街並みとやすらぎのある空間が形成されている ・街区や公園などの住環境が整備され、快適に生活できる環境が整っている | 成果 | 秩序とやすらぎを感じる街が形成されていると思う市民の割合 | 上がるの良い指標 | ○ | % | 90.2 | 91.2 | - | 91.0 | 91.0 | 92.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☂ 低下 | ○ | 平成27年度と比べると0.2ポイント減少しているが、平成30年度の目標値を達成している。 まちづくりアンケートを地区別に分析すると城山・渋川校区など新しく基盤整備がされた地区は、「形成されている」との回答が増加している。一方で、三郷・本地ヶ原校区において、「形成されている」との回答が減少しており、店舗等の多い地区では良好な景観が求められていると考えられる。 | |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性(ブルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(ブルダウ) | 対前年度(ブルダウ) | 目標達成見込(ブルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|--------|--------------------|------------|--|------|---------------------------|------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------------|------------|--------------|---|---|
| 01 | 良好な市街地の形成 | 市民、街区 | ・計画的な市街地整備が進められている | 成果 | 都市計画マスタープラン(市街地整備分)の進捗率 | 上がるの良い指標 | | % | 88.3 | 90.3 | 91.3 | 91.3 | 90.3 | 92.2 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☁ 横ばい | ○ | 都市計画マスタープラン庁内推進会議を開催し、適切に進行管理を実施している。平成30年度の目標値に達しており成果は上がっている。 | |
| | | | ・市街地整備の推進によって秩序ある街並みが形成されている | 成果 | 秩序ある街区となっている市街地面積割合 | 上がるの良い指標 | | % | 57.8 | 58.5 | 58.8 | 58.9 | 60.1 | 61.8 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | △ | 尾張旭北原山土地区画整理組合に補助金を交付することで、区域内の建物移転、道路築造などの街区整備を推進し、対基準値比及び対前年度比の数値が向上している。ただし、目標値が平成35年度での事業完了を想定しており、現時点では計画の達成は困難と考えられる。 | 組合事業の施行期間を適切な事業期間に延伸することを検討している。 |
| 02 | 公園等によるうるおいのある空間づくり | 市の管理する公園など | うるおいとやすらぎを与える市街地空間が形成され、安全で快適に利用できるよう維持管理されている | 成果 | 市街地の公園などの面積 | 上がるの良い指標 | ○ | ha | 84.3 | 85.8 | 85.8 | 86.1 | 86.0 | 88.0 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 濁池緑地の整備が完了し、供用を開始したことにより、平成30年度の目標値を上回った。 | |
| | | | | 成果 | 市内の公園が安全で快適に利用できると思う市民の割合 | 上がるの良い指標 | ○ | % | 88.2 | 88.0 | - | 89.0 | 89.0 | 90.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 公園愛護会の方々との協働により、平成30年度の目標値を達成することができた。今後も公園が安全で快適に利用できるように、引き続き取り組んでいく。 | |
| 03 | 都市景観の向上 | 市民、都市景観 | 美しい街並みが形成されている | 成果 | 都市景観に満足している市民の割合 | 上がるの良い指標 | ○ | % | 82.4 | 82.9 | - | 81.7 | 83.0 | 85.0 | アンケート | ☂ 低下 | ☂ 低下 | △ | 平成27年度に比べ1.2ポイント減少しているものの、年4回の屋外広告パトロール及び駅前広場を利用したイベントを実施し一定の成果は上がっている。 | 引き続きパトロールを実施し、景観の保全を図り目標値の達成に努める。阻害要因の排除のみでは一定数値以上の増加は見込みにくく、新たな景観創出の検討が課題。 |
| 04 | 市営住宅の適切な管理 | 市営住宅 | 市営住宅が適切に維持管理されている | 成果 | 市営住宅の維持管理上の事故件数 | 下がるの良い指標 | | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 業務取得 | ☁ 横ばい | ☁ 横ばい | ○ | 入居者の居住環境が安定し、かつ建物の長期使用を目指して適正に維持管理されており、事故は発生していない。 | |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策
番号
3

政策名 快適な生活を支えるまちづくり

| | |
|-----|-------------------|
| 主管課 | 都市計画課 |
| 関係課 | 市民活動課、都市整備課、土木管理課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (プルダウン) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (プルダウン) | 対前年度 (プルダウン) | 目標達成 見込 (プルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|------|-----------------|-------|-----------------------|------|-----------------------|-----------------|----------|----|------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|-----------------|-----------------|-----------------------|--|--|
| 3-2 | 快適に移動できる交通基盤の整備 | 市民 | 市内・市外への移動を円滑に行うことができて | 成果 | 市外への移動が円滑に行えると思う市民の割合 | 上がるの良い指標 | ○ | % | 89.1 | 88.9 | — | 89.3 | 90.0 | 92.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成27年度に比べ、0.4ポイント上昇した。まちづくりアンケートを地区別に分析すると、名古屋市に近い地区ほど高い割合を示しており、「市外＝名古屋市」というイメージがあると考えられる。旭前駅のバリアフリー化整備により、市外への移動に係る利便性が向上することから、成果指標はさらに上昇すると思われる。 | |
| | | | | 成果 | 市内の移動が円滑に行えると思う市民の割合 | 上がるの良い指標 | ○ | % | 85.7 | 84.7 | — | 85.0 | 87.0 | 90.0 | アンケート | ☂ 低下 | ☀ 向上 | △ | 平成27年度に比べ、0.3ポイント上昇したものの、平成30年度目標と2ポイント差がある。上昇分については、市営バスの運行内容変更による利便性向上によるものと思われる。 | 市営バスの中間見直し検討を行うなど、市内移動の改善に努めるものの、指標の大幅な改善は困難と思われる。 |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性 (プルダウン) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (プルダウン) | 対前年度 (プルダウン) | 目標達成 見込 (プルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|--------|----------------|--------------------------------|--|------|-------------------------|-----------------|----------|----|------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|-----------------|-----------------|-----------------------|--|--|
| 01 | 公共交通による移動手段の確保 | 市民、事業者 | 公共交通網が整備され、移動手段が確保されている | 成果 | 市内の移動に困っている市民の割合 | 下がるの良い指標 | | % | 11.4 | 12.5 | — | 9.8 | 11.0 | 10.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成27年度に比べ約2.7ポイント減少した。平成28年4月に市営バスの運行見直しを実施し、運行頻度の向上したことにより成果が向上したと思われる。また、平成30年度の目標値は達成している。 | |
| 02 | 駅・駅周辺施設の整備 | 駅、駅前広場、バス停、タクシー乗り場など、駐輪場、その他施設 | ・駅、駅前広場、バス停、タクシー乗り場などが整備され、乗り継ぎが円滑にできている ・駅・駅周辺施設が整備されている | 成果 | 駅前広場の整備率 | 上がるの良い指標 | | % | 75 | 75 | 75 | 75 | 75 | 100 | 業務取得 | ☁ 横ばい | ☁ 横ばい | ○ | 三郷駅前広場の整備に向け、地元協議会とともに検討を進めているが、まだ整備着手に至っていないことから成果指標の変動はない。また、平成30年度の目標値については達成している。 | |
| | | | | 成果 | 駅・駅周辺施設の利用者満足度 | 上がるの良い指標 | ○ | % | 75.4 | 69.4 | — | 69.3 | 78.0 | 83.0 | アンケート | ☂ 低下 | ☂ 低下 | △ | 平成27年度に比べ約0.1ポイント減少している。三郷駅前広場について、整備着手に至っていないことから成果指標は横ばいとなっている。グリーンシティケーブルテレビの新社屋完成に伴うにぎわいの創出及び旭前駅改良工事完了が成果指標に反映され、平成30年度成果指標は増加見込である。 | 三郷駅周辺のまちづくりについては整備手法などの検討課題があり、時間を要する。 |
| 03 | 交通バリアフリーの推進 | 市民、駅、事業者、道路 | 駅や道路が、人にやさしい構造になっている | 成果 | 駅のバリアフリー化率 | 上がるの良い指標 | | % | 50 | 50 | 50 | 75.0 | 75 | 100 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成29年度に旭前駅改良工事を実施したことで、市内4駅のうち3駅がバリアフリー化となり、平成28年度に比べて25ポイント上昇。平成30年度の目標値は達成している。 | |
| | | | | 成果 | 歩道のバリアフリー化実施箇所数 | 上がるの良い指標 | | 箇所 | 275 | 290 | 317 | 329.0 | 317 | 352 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | H30目標値を達成している。これは下水道課の舗装復旧工事と同調して段差解消を行った結果であり、今後も引き続き歩道バリアフリー化事業を実施していく。歩道スロープ改良工事実施箇所数：12箇所 | |
| | | | | 成果 | 道路段差に不便を感じる市民の割合 | 下がるの良い指標 | | % | 28.6 | 26.6 | — | 28.1 | 27.0 | 25.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☂ 低下 | △ | 基準値は下回っている。これは段差解消対策を進めた結果であり、今後も引き続き歩道バリアフリー化事業を実施していく。 | 歩道の段差解消対策を進めているが、段差の原因として、乗入れ部などもあり、指標の改善が難しい。 |
| 04 | 幹線道路整備の推進 | 都市計画道路 | 幹線道路が整備され、円滑に移動可能な道路が増えている | 成果 | 自動車での幹線道路利用による満足度 | 上がるの良い指標 | | % | 79.8 | 78.4 | — | 78.9 | 80.0 | 85.0 | アンケート | ☂ 低下 | ☀ 向上 | ○ | 基準値よりも低下しているが、平成27年度に比べ約0.5ポイント上昇している。霞ヶ丘線の暫定供用及び幹線道路補修により、平成30年度成果指標は増加見込である。 | |
| 05 | 生活道路の整備と維持管理 | 市民、生活道路 | 生活道路が、誰もが安全に利用できるように維持管理されている | 成果 | 市民により生活道路等が維持管理されている箇所数 | 上がるの良い指標 | | 箇所 | 14 | 15 | 14 | 14.0 | 16 | 19 | 業務取得 | ☁ 横ばい | ☁ 横ばい | △ | 前年度と変化はなく、基準値のとおりである。H30目標値を達成していないため、引き続き市民による道路の維持管理の実施を推進する。 | 協力していただける市民を募るため、PRの方法等を再考する。 |
| | | | | 成果 | 道路管理の瑕疵により損害賠償の対象となった件数 | 下がるの良い指標 | | 件 | 0 | 28 | 3 | 0.0 | 0 | 0 | 業務取得 | ☁ 横ばい | ☀ 向上 | △ | 基準値どおりであり、目標値を達成している。しかし、指標の性質上、今後も目標を達成できる(管理瑕疵事故が発生しない)とは限らない。 | 引き続き、道路損傷情報の提供依頼、道路/パトロール等に取り組んでいく。 |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策
番号
3

政策名 快適な生活を支えるまちづくり

| | |
|-----|------|
| 主管課 | 上水道課 |
| 関係課 | - |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (フルダウン) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (フルダウン) | 対前年度 (フルダウン) | 目標達成 見込 (フルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|------|-------------|-----------------|---------------------|------|-------------------------|-----------------|----------|----|-------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|-----------------|-----------------|-----------------------|---|---|
| 3-3 | 安全で安定した水の供給 | 市民(水道水を供給している人) | 安全で安定した水道水を使うことができる | 成果 | 安全な水道水が供給されている割合(日数ベース) | 上がると良い指標 | ○ | % | 100.0 | 100 | 100 | 100.0 | 100 | 100 | 業務取得 | ☁ 横ばい | ☁ 横ばい | ○ | 水質についての日常及び定期検査において基準値を超える異常値がなく、安全な水道水を供給することができた。 | |
| | | | | 成果 | 水道水供給事故回数 | 下がると良い指標 | | 回 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 0 | 0 | 業務取得 | ☁ 横ばい | ☁ 横ばい | ○ | 広範囲(100世帯以上)において水道水の供給に支障が出るような大規模な事故はなかった。 | |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性 (フルダウン) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (フルダウン) | 対前年度 (フルダウン) | 目標達成 見込 (フルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|--------|-------------|---------|--|------|-----------|-----------------|----------|----|--------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|-----------------|-----------------|-----------------------|--|---|
| 01 | 安定供給の向上 | 配水管及び市民 | ・安全で安定した水道水が常に供給されている ・震災時でも安定して水道水が供給されている | 成果 | 有収率 | 上がると良い指標 | | % | 96 | 95.9 | 95.5 | 95.2 | 96.0 | 96.0 | 業務取得 | ☂ 低下 | ☂ 低下 | △ | 成果指標である有収率(給水量に対する使用水量の割合)は95.19%であり、平成21年度の97.57%をピークに低下傾向にあるため、今後も老朽管の更新事業や配水施設の適正な維持管理により、高い数値の維持に努める。 | 老朽管の更新を計画的に行い、漏水防止や強靱化に努める。 |
| | | | | 成果 | 配水管の老朽化率 | 下がると良い指標 | | % | 11.7 | 16.6 | 17.6 | 18.8 | 22.6 | 33.5 | 業務取得 | ☂ 低下 | ☂ 低下 | ○ | 成果指標である老朽化率(配水管総延長に対する布設後40年以上経過した配水管の割合)は18.8%で、当初の目標設定時の年度計画値の19.7%より0.9ポイント(昨年と同じ)低く抑えることができた。今後も老朽化した塩化ビニル管の更新事業を実施し、老朽化率の上昇を減少させるよう努める。 | |
| | | | | 成果 | 幹線管路の耐震化率 | 上がると良い指標 | | % | 20.9 | 24.1 | 25.8 | 27.9 | 28.1 | 37.5 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成24年度より着手した柏井配水場を起点とする幹線管路の耐震化事業と北原山区画整理事業に伴う耐震化により、成果指標である幹線管路の耐震化率は27.9%となり、当初の目標設定時の年度計画値24.9%を上回った。 | |
| | | | | 成果 | 応急給水拠点箇所数 | 上がると良い指標 | | 拠点 | 8 | 11 | 13 | 13 | 12 | 15 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☁ 横ばい | ○ | 応急給水拠点数は、すでに30年度の目標値を達成している。 | |
| 02 | 健全な上水道経営の推進 | 水道事業 | 上水道事業の経営が健全に行われている | 成果 | 総収支比率 | 上がると良い指標 | | % | 103.55 | 121.7 | 120.8 | 122.4 | 100以上 | 100以上 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 総収支比率は、収益性を見る指標であり、費用が収益によってどの程度賄われているかを示すものである。この比率が高いほど利益率が高いことを表し、100%未満であることは損失が生じていることを意味するが、平成29年度は100%を上回っており、収支は健全な水準にあると言える。 | |
| | | | | 成果 | 資金不足比率 | 下がると良い指標 | | % | - | - | - | - | - | - | 業務取得 | ☁ 横ばい | ☁ 横ばい | ○ | 資金不足比率は、資金の不足額が事業の規模に対してどの程度あるかを示す比率であり、経営状態の悪化の度合いを示すものである。平成29年度は、流動負債の額が流動資産の額を下回っており、資金の不足額は少ない。 | |
| 03 | 水の有効利用の促進 | 市民 | 水資源の大切さが理解され、有効に水が使われている | 成果 | 一人一日平均給水量 | 下がると良い指標 | | ℓ | 284 | 279 | 281 | 280 | 284 | 284 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 一人一日平均給水量は、節水型家電製品の普及や節水意識の高まりにより減少傾向であり、平成5年度の330リットルをピークとして着実に減少を続け、平成29年度は280リットルであり、目標値を達成している。 | |

＜施策・基本事業 成果指標一覧＞

政策
番号
3

政策名 快適な生活を支えるまちづくり

| | |
|-----|-------------------|
| 主管課 | 下水道課 |
| 関係課 | 都市計画課、都市整備課、土木管理課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (フルダウ) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (フルダウ) | 対前年度 (フルダウ) | 目標達成 見込 (フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|------|-------------------|-------|----------------------------------|------|---------|----------------|----------|----|------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|----------------|----------------|----------------------|--|---|
| 3-4 | 衛生的で快適な 下水道の整備 | 市民 | 下水道が整備され、衛 生的で快適なまちに なっている | 成果 | 下水道普及率 | 上がると 良い指標 | ○ | % | 63.7 | 69.1 | 72.7 | 75.1 | 74.0 | 83.0 | 業務 取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 桜ヶ丘町、平子ヶ丘町、南本地ヶ原町、 向町等の污水管渠を整備し、24.5haの下 水供用開始を行った。 これに伴い普及率が75.1%となり、前年 度と比較して2.4ポイント向上し、平成30年 度目標値を達成している。 | |
| | | | | 成果 | 水洗化率 | 上がると 良い指標 | ○ | % | 94.5 | 92.1 | 88.9 | 89.4 | 94.0 | 94.0 | 業務 取得 | ☂ 低下 | ☀ 向上 | △ | 既存供用開始区域内における下水道接 続により、水洗化人口が2,343人増加し、 55,987人となった。 なお、水洗化率は供用開始区域の拡大 による人口が増えたため(2,281人)、0.5ポ イントの増加にとどまった。引き続き切替 促進を推進する。 | 污水管渠整備を実施し供用 開始区域内人口が毎年増加 している現状では、それを上 回る下水道接続件数を達成 しないと水洗化率の向上が認 められないことから、未接続 宅への各戸訪問や広報等 での周知により接続率の向上を 図る。 |

| 基本 事業 番号 | 基本事業名称 | 基本事業の 対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性 (フルダウ) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (フルダウ) | 対前年度 (フルダウ) | 目標達成 見込 (フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|----------------|------------------|-------------|---|------|---------------------------|----------------|----------|----|--------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|----------------|----------------|----------------------|---|---|
| 01 | 污水管の整備促 進 | 市民 | 污水管の整備により、 公共下水道に接続でき る地区が増えている | 成果 | 下水道総整備面積 | 上がると 良い指標 | | ha | 742.6 | 810.6 | 837.9 | 862.4 | 891.0 | 1,015.0 | 業務 取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 桜ヶ丘町、平子ヶ丘町、南本地ヶ原町、 向町等の污水管渠を整備し、24.5haの下 水供用開始を行い、順調に整備が進捗し ている。 国庫補助金の交付状況に左右される が、今後も目標達成に向けて計画的に下 水道整備を推進する。 | |
| 02 | 処理施設の整備 と維持管理 | 市民 | 下水処理施設の処理 能力が確保され、適切 な維持管理により、良 好な汚水処理がされて いる | 成果 | 処理後の水質が計画放 流水質基準を超えた日数 | 下がると 良い指標 | | 日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 業務 取得 | ☁ 横ばい | ☁ 横ばい | ○ | 平成14年度から平成29年度まで計画放 流水質基準を超えた日数0件を維持でき ている。 処理後の水質が計画放流水質基準を超 えないよう、引き続き適切な維持管理を 行い、事故等の防止に努める。 | |
| | | | | 成果 | 処理施設の維持管理不 具合件数 | 下がると 良い指標 | | 件 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 業務 取得 | ☁ 横ばい | ☀ 向上 | ○ |
| 03 | 管渠施設の維持 管理 | 市民 | 管渠施設が適切に維 持管理されている | 活動 | 管渠・マンホールの保守 点検箇所数 | 上がると 良い指標 | | 箇所 | 1,009 | 1,271 | 1,225 | 1,207 | 1,000 | 1,000 | 業務 取得 | ☀ 向上 | ☂ 低下 | ○ | 毎年、目標値である1,000箇所以上のマ ンホール点検を実施することができてい る。点検による不具合箇所を発見した場 合は、迅速な処理を施すことにより適切 な維持管理ができていく。 | |
| | | | | 活動 | 管渠補修延長 | 上がると 良い指標 | | m | 700.2 | 383.0 | 335.0 | 383.0 | 430.0 | 430.0 | 業務 取得 | ☂ 低下 | ☀ 向上 | ○ | 緑・長坂地区を中心に老朽管を383m補 修した。損傷度が高く布設替工法が必要 だった管渠の補修がほぼ終わり、損傷度 の低い管渠の部分補修に移行している。 | |
| 04 | 水洗化の普及促 進 | 市民 | 水洗化の普及促進の 取り組みにより、水洗 化する世帯が増えてい る | 成果 | 水洗化人口 | 上がると 良い指標 | | 人 | 49,248 | 52,654 | 53,644 | 55,987 | 58,600 | 66,800 | 業務 取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | △ | 既存供用開始区域内における下水道接 続により、水洗化人口が昨年度と比較し 2,343人増加し、55,987人となった。増 加人数としては基準年度以降最大とな ったが、目標値まで開きがある。 | 供用開始から3年以内に下 水道を接続するよう周知し ているが、宅内切替工事に費 用もかかるため、単年度での 大幅な増加は難しい。 今後も、未接続宅への各戸 訪問や広報等での周知によ り水洗化人口の向上を図る。 |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策
番号
3

政策名 快適な生活を支えるまちづくり

| | |
|-----|------------------|
| 主管課 | 土木管理課 |
| 関係課 | 都市計画課、都市整備課、下水道課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (プルダウン) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得方法 | 対基準値 (プルダウン) | 対前年度 (プルダウン) | 目標達成 見込 (プルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案 (目標達成見込が△×の場合に記載) |
|--------|--------------|-----------------------------|---|------|-----------|-----------------|------|----|------|--------|--------|--------|------------|------------|------|-----------------|-----------------|-----------------------|---|--|
| 3-5 | 雨水対策・河川整備の推進 | 国・県、河川、溜池、排水施設(貯留施設、側溝、排水路) | 排水施設や河川が整備され、雨に強いまちになっている | 成果 | 床上浸水家屋数 | 下がると良い指標 | | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 業務取得 | ☁ 横ばい | ☁ 横ばい | ○ | 平成29年度の床上浸水家屋数は0件であった。今後も、幹線排水路や河川の整備、側溝の改修などの浸水災害対策を引き続き実施していく。 | |
| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性 (プルダウン) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得方法 | 対基準値 (プルダウン) | 対前年度 (プルダウン) | 目標達成 見込 (プルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案 (目標達成見込が△×の場合に記載) |
| 01 | 排水施設の整備・維持管理 | 排水施設(貯留施設、側溝、排水路)、溜池 | ・排水施設が整備され、浸水しにくくなっている ・既存の排水施設が適切に維持管理されている | 成果 | 幹線排水路の整備率 | 上がると良い指標 | | % | 98.0 | 98.3 | 98.8 | 98.8 | 100 | 100 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☁ 横ばい | △ | 平成29年度は、鳴湫雨水幹線の整備が計画どおり進まなかった。今後の成果向上については、土地区画整理組合の事業進捗による。 | 幹線排水路の整備は区画整理事業の進捗による所があるため難しい |
| | | | | 成果 | 道路冠水箇所数 | 下がると良い指標 | ○ | 箇所 | 19 | 14 | 14 | 14.0 | 13 | 8 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☁ 横ばい | △ | 平成29年度は、北山地区と南原山地区の浸水対策工事を実施したが、対策実施箇所は当初の計画箇所には無く、冠水箇所数は減っていない。 | 事業を進めていても冠水解消が難航することもあり、箇所数が減らないこともあるが、引き続き対策工事を効率よく進めていく。 |
| | | | | 成果 | 側溝改修延長 | 上がると良い指標 | | m | 671 | 391 | 454 | 704.0 | 700 | 800 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成29年度は、改修延長は目標値に達した。、一定の成果は上がっているため、今後についても、予算の範囲内で少しでも多くの効果が得られるよう実施していく。 | |
| 02 | 河川の整備 | 国・県、河川 | 河川が計画的に整備されている | 活動 | 河川整備率 | 上がると良い指標 | | % | 79.7 | 80.8 | 80.8 | 81.6 | 84.1 | 90.8 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | △ | 平成27年度から県が矢田川の改修工事を実施しており、成果は向上している。 | 河川の整備は県の事業によるため、今後についても、目標達成に向けて、県に対し未整備区間の改修を要望していく。 |

＜施策・基本事業 成果指標一覧＞

政策
番号
4

政策名 安全で安心なまちづくり

| | |
|-----|---|
| 主管課 | 災害対策室 |
| 関係課 | 福祉課、長寿課、都市計画課、都市整備課、土木管理課、消防本部(消防総務課、予防課、消防署)、教育行政課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(プルダウン) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(プルダウン) | 対前年度(プルダウン) | 目標達成見込(プルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|------------|--|-------------------------|------|------------------------------|-------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------------|-------------|---------------|--|---|
| 4-1 | 防災・減災対策の推進 | まちの施設(排水、電柱、建物、道路・橋梁、避難所)、市民、消防施設・消防署、職員 | 災害に強いまち、減災できる人・地域になっている | 成果 | 市の災害対策・防災体制に安心感を持つ市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 65.4 | 69.4 | — | 69.0 | 68.0 | 70.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☂ 低下 | ○ | 成果についてはほぼ前回と同じ割合となっている。市の行う災害対策についてある程度の理解を得ていると思われるが、引き続き備蓄食糧等の継続中の計画を実施していく。 | |
| | | | | 成果 | 市民レベルでの防災・減災体制ができていると思う市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 37.6 | 40.4 | — | 41.3 | 45.0 | 55.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | × | 昨年に引き続き、出前講座や防災講習会で自助、共助の重要性を説明している。また、総合防災訓練でも、積極的に市民に参加していただき、災害に協力して取り組むことを実践していただいた。 | 今年度の目標達成見込みはないが、毎年成果は徐々に上がっているため、引き続き出前講座等での啓発に努める。 |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性(プルダウン) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(プルダウン) | 対前年度(プルダウン) | 目標達成見込(プルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|--------|-------------|----------------------------------|---|------|-------------------------------------|-------------|------|----|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------------|-------------|---------------|--|---|
| 01 | 防災・減災意識の高揚 | 市民(家庭・団体)、企業、職員 | 市民一人ひとりの防災・減災意識が高まり、災害時に自発的に行動できるようになっている | 成果 | 各公民館及び小中学校(体育館)が避難所であることを知っている市民の割合 | 上がると良い指標 | | % | 74.8 | 69.9 | — | 69.8 | 77.0 | 80.0 | アンケート | ☂ 低下 | ☂ 低下 | × | 一昨年と比べ、ほぼ同じ割合となっている。市民参加型の避難所運営訓練を地区防災訓練に取り入れたことにより、避難所に関する認識は市民に広がっていると思われる。 | 割合はほぼ横ばいであるが、目標値にまだ達しておらず、今後も引き続き出前講座等を通じて避難所の周知啓発を図っていく。 |
| | | | | 成果 | 家庭での防災・減災対策の平均実践項目数(全14項目中) | 上がると良い指標 | | 項目 | 4.8 | 4.6 | — | 4.5 | 6.0 | 7.0 | アンケート | ☂ 低下 | ☂ 低下 | × | 一昨年と比べ、ほぼ同じ割合となっている。家具の転倒防止事業、防災ラジオの配布等によりある程度の周知は行えた。 | 防災講習会や出前講座等を通じて災害時にどのような備えが必要であるかを訴えていく。 |
| 02 | 災害情報システムの充実 | 市民(個人・団体)、消防施設・消防署、職員 | 災害情報が適切に収集され、伝達されている | 成果 | 災害情報メール配信サービス加入者数 | 上がると良い指標 | ○ | 人 | 6,601 | 7,843 | 8,153 | 8410.0 | 8,000 | 10,000 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 防災情報に関するニーズの高まりにより、順調に加入者数が増えている。今後についても、引き続き周知啓発を図り、加入者数の増加に努めていく。 | |
| 03 | 避難生活の支援 | まちの施設(避難所)、市民(家庭、団体)、消防施設・消防署、職員 | 避難所が確保され、食糧等の備蓄がされている | 成果 | 避難想定住民(8,262名)への1人あたりの食数 | 上がると良い指標 | | 食 | 22.5 | 5.0 | 6.2 | 7.5 | 9.0 | 9.0 | 業務取得 | ☂ 低下 | ☀ 向上 | △ | 平成27年度に作成した備蓄食糧等の購入計画(平成28年度～平成32年度)に基づいて順次購入を進めているところであり、計画どおりに備蓄食糧(飲料水)の増加を図っているところである。 | 購入計画に基づいて食糧等を備蓄しており、今年度も目標に合わせて購入していく。 |
| | | | | 成果 | 避難所の充足率 | 上がると良い指標 | ○ | % | 111 | 70.1 | 70.1 | 70.1 | 100 | 100 | 業務取得 | ☂ 低下 | ☂ 横ばい | × | 避難所への想定される避難者数4,131人に対し、1人当たり2㎡を基準とした収容人数2,895人で計算を行っている。充足率を上げるため、学校の空き教室等の利用が可能か検討をしている。 | 避難所となる体育館の広さに限界があるので、校舎の施設を含めた新たな収容場所の確保が課題である。 |
| 04 | 防災体制の充実 | 行政、地域 | 災害発生時に迅速に対応できる体制が整っている | 成果 | 自主防災組織が実施した防災活動日数の平均数 | 上がると良い指標 | | 日 | 19.0 | 22.0 | 20.0 | 18.0 | 22.0 | 24.0 | 業務取得 | ☂ 低下 | ☂ 低下 | × | 自主防災組織によって活動頻度や意識に違いがあり、また天候等によって活動が制限された面もあることから成果としては下がっている。 | 今までと同様に自主防災組織に活動を促していくとともに、市から防災に関する情報を発信し支援を行っていく。 |
| | | | | 成果 | 市や地域の防災訓練に参加している市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 15.3 | 11.4 | — | 11.9 | 17.0 | 20.0 | アンケート | ☂ 低下 | ☀ 向上 | × | 地区防災訓練を避難所運営訓練と位置付け、市民参加型の訓練を行うことで、積極的な市民参加を促した。 | 対前年比では向上しているため、引き続き防災訓練を行っていくとともに、防災講演会等での啓発も行っていく。 |
| | | | | 成果 | 災害時に職員として果たすべき役割や初動ができる職員の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 88.5 | 78.2 | 77.7 | 76.2 | 90.0 | 95.0 | 課独自調査 | ☂ 低下 | ☂ 低下 | △ | 割合が減っているのは、階層別、班別の職員研修を通して、自らの役割を改めて認識したことによるものと思われる。 | 職員に防災意識を持っていただく方法として、講習会や研修会以外でどのように行っていくかが課題となっている。 |
| | | | | 成果 | 防災協定の締結数 | 上がると良い指標 | | 件 | 47 | 28 | 65 | 67.0 | 60 | 70 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 災害時の連携の重要性を考慮し、企業及び自治体との協定締結を推進した。また、形だけの協定を一部解約した。 | |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策番号
4

政策名 安全で安心なまちづくり

主管課 消防総務課
関係課 災害対策室、予防課、消防署

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(プルダウン) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(プルダウン) | 対前年度(プルダウン) | 目標達成見込(プルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|------------|-----------------------|--------------------------------|------|--------------|-------------|------|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------|-------------|-------------|---------------|---|---------------------------------|
| 4-2 | 消防・救急体制の充実 | 市民、まちの施設、消防施設、消防署、消防団 | 消防・救急活動が迅速に行われ、市民の生命や財産が守られている | 社会 | 火災損害額 | 下がるが良い指標 | | 千円 | 18,139 | 14,392 | 38,091 | 65,412 | - | - | 業務取得 | 不可 | 不可 | - | 平成29年の総火災件数は13件で平成28年と比較すると6件の減少となった。焼損棟数は7棟で前年より6棟の減少となったが、工場火災での高額設備の焼損により、損害額が増加となった。しかしながら、損害額は、火災の発生件数及び焼損棟数や収容物による要素が大きく、年ごとに変動がある。 | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
| | | | | 社会 | 心肺機能停止患者の生存率 | 上がるが良い指標 | | % | 9.7 | 8.3 | 4.2 | 8.1 | - | - | 業務取得 | 低下 | 向上 | △ | 平成29年の生存率は、8.1%と平成28年と比較すると3.9%上回った。しかしながら、生存率は、傷病者の容態により年毎に変動がある。 | |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性(プルダウン) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(プルダウン) | 対前年度(プルダウン) | 目標達成見込(プルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|--------|------------|-----------------|--|------|---------------------------|-------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------------|-------------|---------------|---|--|
| 01 | 火災予防体制の充実 | 市民、建物(団体・個人・企業) | 火災の未然防止や初期消火を行うことができる市民が増えている | 成果 | 消火器を使うことのできる市民の割合 | 上がるが良い指標 | ○ | % | 44.8 | 41.6 | - | 41.9 | 50.0 | 55.0 | アンケート | 低下 | 向上 | △ | 成果指標の値は、平成27年度の41.6%から平成29年度は41.9%と0.3%増加しているが誤差(±5%:企画課より)を考慮すると、横ばいと分析できる。 | まちづくりアンケートクロス集計から子育て世代の女性(専業主婦・パート・アルバイト)の割合が特に低いことから、市民消防ひろばや防災訓練など市民参加型イベント時に子育て世代の女性に水消火器の体験を勧め、春・秋の火災予防運動に伴い街頭広報による消火器取扱方法チラシの配布。出初式会場に消火器取扱い体験コーナー設置。 |
| | | | | 成果 | 防火対象物の立入検査後の改善率 | 上がるが良い指標 | | % | 58.1 | 60.0 | 81.3 | 74.1 | 60.0 | 65.0 | 業務取得 | 向上 | 低下 | ○ | 平成28年度の81.3%から平成28年度74.1%と7.2%改善率は低下しているが、平成30年度目標値の60.0%は十分に達成できている。 | 今後も目標達成のため係員により、対象事業所に改善指導を根気よく実施していく。 |
| 02 | 消防力の強化 | 消防職員、消防団員、消防施設 | 消防機械・器具・施設及び職員・団員が強化され、多様化する火災に対応できている | 成果 | 尾張旭市出勤要綱に基づく消防職員の充足率 | 上がるが良い指標 | | % | 93.1 | 94.3 | 94.3 | 95.4 | 100 | 100 | 業務取得 | 向上 | 向上 | △ | 消防職員整備指針数/87人 平成27年度82人÷87人=94.3% 平成28年度82人÷87人=94.3% 平成29年度83人÷87人=95.4% 平成29年度は2名の退職に対して3名の新規採用職員で1名増加した。平成29年度に近隣大学生を対象に消防署体験会を実施した。 | ・消防署体験会の対象を近隣大学だけでなく、さらに対象大学を広げ実施する。 ・消防職員採用試験の枠を高校生まで広げる。 ・専門学校等開催の就職説明会へ参加する。 |
| | | | | 成果 | 消防車の現場平均到着時間 | 下がるが良い指標 | ○ | 分 | 7.2 | 7.9 | 8.7 | 8.9 | 7.2 | 7.2 | 業務取得 | 低下 | 低下 | △ | 平成29年に発生した火災10件に対し、目標値を超えた件数は9件であった。覚知から出動までに要した時間は、ほぼ同時間であったことから、火災の発生場所割合が市の境界付近で多く、発生場所による要因が大きい。 | 指令後、消防車両に乗車前に全隊長を集合させ活動方針を決定する時間を短縮させるため、狭い地区・危険物・毒劇物・指定可燃物施設等の時間を要すると予測される施設に対し事前の警防計画を策定する。 |
| | | | | 成果 | 水利基準達成率 | 上がるが良い指標 | | % | 89.7 | 90.1 | 90.5 | 90.9 | 90.0 | 90.0 | 業務取得 | 向上 | 向上 | ○ | 基準値の対象となる消火栓を2基設置したことにより、0.4%向上した。 | |
| | | | | 成果 | 消防団員の充足率 | 上がるが良い指標 | | % | 98.4 | 97.67 | 98.44 | 96.1 | 100 | 100 | 業務取得 | 低下 | 低下 | △ | 定員129名に対し、平成29年度当初は120名、平成30年1月には124名の団員が確保されている。・消防団員募集のリーフレットを作成し、各イベント会場にて配布した。 | ・消防団協力事業所要綱を制定する。 ・イベント会場等でのPRにおいて、のぼり旗を使用するなどアピールを強化する。 ・市内企業を訪問し、消防団への理解と団員募集を実施する。 |
| 03 | 救急・救助体制の充実 | 消防署、救急隊員、救急設備 | 消防署・救急隊員・救急設備などの救命体制が充実し、救命率の向上が図られている | 成果 | 救急車の現場平均到着時間 | 下がるが良い指標 | ○ | 分 | 6.5 | 6.8 | 6.8 | 6.7 | 6.3 | 6.3 | 業務取得 | 低下 | 向上 | △ | 平成29年は6.7分と0.1分短縮されたものの、救急出動の増加により全ての救急車が出動し、搬送先の病院から救急車を出動させなければならない状況が発生しており、その件数の増加が時間短縮の阻害要因となっている。 | ・救急出動件数の抑制にむけて、引き続き、救急車の適正利用をPRしていく。 |
| | | | | 成果 | 救急救命士の救急車同乗率 | 上がるが良い指標 | | % | 98.1 | 98.1 | 97.5 | 98.9 | 99.0 | 100.0 | 業務取得 | 向上 | 向上 | △ | 平成29年は98.9%と目標値に大きく近づいた。要因として、各救急係を6名から7名に増員したことが大きく、救急救命士を出動毎に乗車することに努めた結果である。ただし、休暇、研修及び病院実習等により、現在の救急救命士数では、同乗率は変動する。 | ・平成29年度から救急救命士の養成を1名から2名に増やしており、引き続き、毎年2名ずつの養成に向けて予算計上していく。 |
| | | | | 成果 | 現場に居合わせた救命講習受講者による心肺蘇生実施率 | 上がるが良い指標 | | % | 12.9 | 27.9 | 25.6 | 22.2 | 16.5 | 20.0 | 業務取得 | 向上 | 低下 | △ | 平成29年は22.2%と平成28年と比較して減少しているものの目標値を上回ったが、年により変動はある。この成果指標は、救命講習未受講者による実施件数は除外しているため、現場での心肺蘇生実施率では、さらに高いものとなる。 | ・各種救命講習の受講率向上のため、引き続き広報、ホームページ、ポスター等でPRしていく。 |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策
番号
4

政策名 安全で安心なまちづくり

| | |
|-----|-------------------|
| 主管課 | 市民活動課 |
| 関係課 | 都市整備課、土木管理課、教育行政課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (フルダウン) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得方法 | 対基準値 (フルダウン) | 対前年度 (フルダウン) | 目標達成 見込 (フルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|------|-----------|-------|-----------------------|------|------------------|-----------------|------|----|------|--------|--------|--------|------------|------------|------|-----------------|-----------------|-----------------------|--|---|
| 4-3 | 交通安全対策の推進 | 市民 | 交通事故が少なくなり、死傷者数が減っている | 成果 | 人口千人あたりの交通事故発生件数 | 下がると良い指標 | ○ | 件 | 32.2 | 32.4 | 33.5 | 31.3 | 27.7 | 26.2 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | H30目標値とは3.6件の開きがあるもの、基準値と比較すると、0.9件減少、対前年度と比較しても減少しており、成果としては向上している。引き続き、交通安全啓発活動を実施し、交通安全意識の向上に努める。 | |
| | | | | 成果 | 人口千人あたりの交通事故死傷者数 | 下がると良い指標 | ○ | 人 | 6.9 | 5.2 | 5.1 | 5.3 | 6.4 | 6.0 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☂ 低下 | ○ | 対前年度については0.2人増加しているもの、基準値と比較すると、1.6人減少、H30目標値については減少している。成果としては、達成されている。 | |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性 (フルダウン) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得方法 | 対基準値 (フルダウン) | 対前年度 (フルダウン) | 目標達成 見込 (フルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|--------|----------------|---------------------|---------------------------------|------|----------------------------------|-----------------|------|----|------|--------|--------|--------|------------|------------|-------|-----------------|-----------------|-----------------------|--|--|
| 01 | 交通安全意識の高揚 | 地域住民、歩行者、運転者、自転車利用者 | 市民一人ひとりの交通安全意識が高まり、交通マナーが守られている | 成果 | 市内で発生した交通事故で、第一当事者が重大な違反をした件数 | 下がると良い指標 | | 件 | 17 | 5 | 3 | 6 | 13 | 10 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☂ 低下 | ○ | 対前年度については3件増加しているもの、基準値と比較すると、11件減少、H30目標値についても7件減少している。成果としては、達成されている。 | |
| 02 | 市民参加の交通安全活動の推進 | 地域住民 | 市民参加の交通安全活動が積極的に行われている | 成果 | 交通安全活動を行ったことがある市民の割合 | 上がると良い指標 | | % | 21.0 | 19.0 | — | 20.6 | 25.0 | 30.0 | アンケート | ☂ 低下 | ☀ 向上 | △ | 対前回と比較して増加しており、成果としては向上している。しかしながら、基準値と比較すると、0.4%減少、H30目標値としても4.4%の開きがある。 | 引き続き、各季啓発キャンペーンや交通安全啓発活動を実施し、交通安全意識の向上に高めることで、交通安全活動の重要性を促す。 |
| | | | | 成果 | 交通安全市民団体の会員数 | 上がると良い指標 | | 人 | 211 | 225 | 219 | 221 | 250 | 300 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | H30目標値とは29人の開きがあるもの、基準値と比較すると、10人増加。対前年度と比較しても増加。成果としては向上している。引き続き、交通安全啓発活動を実施し、交通安全意識の向上に努める。 | |
| 03 | 交通安全環境の整備 | 道路 | 交通安全環境が良好に整備され、事故が起きにくい道路になっている | 活動 | 交通安全環境が改善された箇所数(信号、横断歩道、カーブミラー等) | 上がると良い指標 | | 箇所 | 14 | 11 | 13 | 14 | 10 | 10 | 業務取得 | ☁ 横ばい | ☀ 向上 | ○ | 基準値と比較し同数、対前年度は1件増加、H30目標値より5件上回っており、成果としては向上している。 | |
| | | | | 成果 | 事故多発の危険箇所数 | 下がると良い指標 | | 箇所 | 3 | 0 | 1 | 2 | 2 | 2 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☂ 低下 | △ | 基準値と比較すると、1箇所減少、しかしながら、対前年度については1箇所増加している。H30目標値については同数。成果としては、横ばい傾向である。(三郷西交差点、旭橋南にて死亡事故が各1件発生) | 死亡事故が起きた三郷西交差点については、県警本部と協議して改良済、その他箇所においても、啓発看板を設置。事故内容の分析を行い、事故防止に努める。 |
| 04 | 高齢者の交通事故対策の推進 | 高齢者 | 高齢者が事故を起こさず、事故に遭わないようになっている | 成果 | 運転免許証の自主返納者数 | 上がると良い指標 | | 人 | 46 | 83 | 140 | 161 | 70 | 100 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 基準値と比較すると、115人大幅に増加し、対前年度及びH30目標値と比較してもともに増加しており、成果は向上している。 | |
| | | | | 成果 | 高齢者の死傷者数 | 下がると良い指標 | ○ | 人 | 73 | 69 | 71 | 65 | 60 | 50 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | H30目標値とは5人の差がある。しかしながら、基準値と比較すると、8人減少、対前年度と比較しても減少。成果としては向上している。引き続き、交通安全啓発活動を実施し、交通安全意識の向上に努める。 | |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策番号
4

政策名 安全で安心なまちづくり

| | |
|-----|-------------|
| 主管課 | 市民活動課 |
| 関係課 | 土木管理課、教育行政課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(ブルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(ブルダウ) | 対前年度(ブルダウ) | 目標達成見込(ブルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|---------|-------|--------------------|------|-----------------------|------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------------|------------|--------------|---|--|
| 4-4 | 防犯対策の推進 | 市民、行政 | 犯罪が起きにくい環境が整備されている | 成果 | 人口千人あたりの犯罪発生件数 | 下がるが良い指標 | ○ | 件 | 13.5 | 9.1 | 8.6 | 7.9 | 12.0 | 11.0 | 業務取得 | ※ 向上 | ※ 向上 | ○ | 基準値と比較すると、5.6件大幅に減少し、対前年度及びH30目標値と比較してもともに減少しており、成果は向上している。これは、一定の啓発活動の効果をあげたと考えられる。 | |
| | | | | 成果 | 治安がよく、安心して住めるとする市民の割合 | 上がるが良い指標 | ○ | % | 78.8 | 77.2 | — | 78.6 | 80.0 | 80.0 | アンケート | ↑ 低下 | ※ 向上 | ○ | 基準値と比較すると、0.2%減少、H30目標値についても減少。しかしながら、対前回については1.4%大きく増加しており、成果としては向上傾向である。引き続き、体感治安を上げるため、防犯啓発に努める。 | 地域の自主防犯パトロールや防犯啓発活動により、犯罪発生件数が年々減少傾向である。それに伴い、体感治安が上がると思われるため、引き続き積極的な防犯啓発活動を実施する。 |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性(ブルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(ブルダウ) | 対前年度(ブルダウ) | 目標達成見込(ブルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|--------|----------------|-----------|---|------|-----------------------------------|------------|------|------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------------|------------|--|---|---|
| 01 | 防犯意識の高揚 | 市民 | 犯罪に遭わないように、自衛や未然防止の意識が高まっている | 成果 | 防犯対策の平均実践項目数(全9項目中) | 上がるが良い指標 | | 項目 | 2.68 | 2.68 | — | 2.60 | 3.30 | 4.00 | アンケート | ↑ 低下 | ↑ 低下 | × | 基準値と比較すると0.08ポイント減少している、平成30年度目標値とは0.7ポイント開きがある。今後は、出前講座や高齢者安全教室などで、防犯対策の必要性について一層を強調することで成果の向上を図る。 | 各種防犯キャンペーン(出前講座、高齢者安全教室、自転車ツーロックキャンペーンなど)の実施時における啓発、健康フェスタや市民祭などで防犯グッズ紹介などを行うことにより、今後の成果向上に努める。 |
| | | | | 成果 | 防犯対策をしている子どもの割合 | 上がるが良い指標 | % | 90.2 | 88.6 | 85.1 | 83.9 | 91.0 | 91.0 | 課独自調査 | ↑ 低下 | ↑ 低下 | △ | 小学3年生、6年生、中学2年生を対象にしたアンケートで、「気をつけて人がよく通る道を通るようにしていますか。」の設問に対し「通っている」と答えた児童生徒が、平成28年度と比較し1.2ポイント減少した。 | 毎年実施している「連れ去り防止教室」等や学校で行われる防犯事業、安全安心メールでの啓発により、防犯意識の向上が重要。引き続き、新一年生を対象に、防犯ブザーを配付したり、防犯対策の必要な啓発を行ったりして、防犯活動に努める。 | |
| 02 | 地域ぐるみでの防犯体制の充実 | 市民、行政 | 地域住民と連携した防犯体制がととのっている | 成果 | 防犯活動の延べ参加者数 | 上がるが良い指標 | ○ | 人 | 5,684 | 7,310 | 8,120 | 8,540 | 7,000 | 8,000 | 業務取得 | ※ 向上 | ※ 向上 | ○ | 基準値と比較すると、2,856人大幅に増加し、対前年度及びH30目標値と比較してもともに増加しており、成果は向上している。これは、自分の街を守るという防犯意識が向上していることの表れであると考えられる。 | |
| | | | | 成果 | かけこみ110番の家の数 | 上がるが良い指標 | 件 | 824 | 657 | 652 | 670 | 900 | 950 | 業務取得 | — 不可 | ※ 向上 | ○ | H30目標値とはひらきがあるものの、前年度と比較して、13件増加しており、増加傾向にあり、成果としては向上している。(平成26年度以降市内小学校へ調査を実施。基準値当時は追加のみで削除していない。) | | |
| 03 | 青少年の非行防止対策の推進 | 小学生～20歳未満 | 地域一体となった青少年非行防止対策が推進され、補導件数や迷惑行為が少なくなっている | 成果 | 青少年犯罪(触法)件数 | 下がるが良い指標 | | 件 | 30 | 26 | 10 | 18.0 | 35 | 30 | 業務取得 | ※ 向上 | ↑ 低下 | ○ | 守山警察署「少年非行の概要」から犯罪(触法行為…万引き、自転車盗等含む)の件数は、平成29年中は、18件と前年度から8件増加しているが、H30目標値を達成している。これは、地域一体で青少年健全育成が推進されていることの成果と分析している。 | |
| | | | | 成果 | 青少年迷惑行為件数 | 下がるが良い指標 | 件 | 270 | 153 | 117 | 198.0 | 250 | 230 | 業務取得 | ※ 向上 | ↑ 低下 | ○ | 少年センターへの情報提供及び街頭相談員が街頭パトロール中に声かけを行った件数が、平成29年度中は198件と前年度から81件増加しているが、増加の主な自転車の二人乗りやスマホをしながらの危険運転、遅刻の生徒が増加したことによる。H30目標値を達成している。これは、地域一体で青少年健全育成が推進されていることの成果と分析している。 | | |
| 04 | 防犯施設の整備充実 | 行政、地域 | 防犯施設が整備されている | 活動 | 防犯灯・道路照明灯・街路灯・防犯カメラを新たに設置した基数(累計) | 上がるが良い指標 | | 基 | 6,532 | 6,744 | 6,838 | 6,921 | 6,800 | 7,000 | 業務取得 | ※ 向上 | ※ 向上 | ○ | 基準値と比較すると、389基増加し、H30目標値も達成することができた。順調に増加しており、成果としては向上している。 | |
| | | | | 成果 | 交番・警察署の充足度 | 上がるが良い指標 | % | 51.5 | 49.0 | — | 53.0 | 53.0 | 55.0 | アンケート | ※ 向上 | ※ 向上 | ○ | 基準値と比較すると、1.5%増加し、H30目標値も達成することができた。成果としては向上している。これは、市民の体感治安の向上として、一定の啓発活動の効果をあげたと考えられる。 | | |

＜施策・基本事業 成果指標一覧＞

| | | | |
|-----------|--------------------|-----|-------------|
| 政策番号 4 | 政策名 安全で安心なまちづくり | 主管課 | 産業課 |
| | | 関係課 | 行政経営課、市民活動課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(フルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(フルダウ) | 対前年度(フルダウ) | 目標達成見込(フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案 (目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|---------------|-------------|----------------------------|------|------------------------|------------|------|----|-----|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------------|------------|--------------|---|--|
| 4-5 | 消費者・生活者の安心の確保 | 市民(消費者、生活者) | 消費者トラブル等に遭わず、安心して生活ができています | 成果 | この1年間に消費者トラブルに遭った市民の割合 | 下がると良い指標 | | % | 1.5 | 1.9 | - | 2.0 | 1.0 | 1.0 | アンケート | 低下 | 低下 | △ | 消費者トラブルに遭った市民の割合は低い水準を維持しているが、目標値には達していない。最近では公的機関を装った「架空請求ハガキ」に関する相談が大幅に増加しており、消費者トラブルとして認知される機会が多くなることが懸念される。実際に被害を受けることのないよう、できる限りの周知に努めていく。 | 各種消費者団体と連携しながら、本市消費生活センターを主体とした、さらなる消費者啓発・教育に取り組む。 |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性(フルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(フルダウ) | 対前年度(フルダウ) | 目標達成見込(フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案 (目標達成見込が△×の場合に記載) |
|--------|---------------|--------------|--|------|---------------------------|------------|------|----------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------|------------|------------|--------------|--|--|
| 01 | 賢い消費者の育成 | 消費者 | 消費生活に関する知識を身につけ、被害の未然防止や被害の軽減が図られている | 成果 | 消費生活啓発事業の参加者数 | 上がると良い指標 | | 人 | 2,167 | 1,052 | 690 | 770 | 2,200 | 2,300 | 業務取得 | 低下 | 向上 | × | 平成27年度以降、消費生活展の開催を2日から1日としたことから来場者が大幅に減少した。目標達成はきわめて困難な状況である。 | 消費者団体と連携した講座を引き続き開催するとともに、悪質業者や特殊詐欺による被害を防ぐため、特に見守り等が必要とされる高齢者への啓発を積極的に行っていく。 |
| 02 | 消費生活相談の充実 | 消費者 | 被害が未然に防止され、被害に遭った場合には、解決への方法を知ることができ、保護されている | 成果 | 消費生活相談で解決策を提示した割合 | 上がると良い指標 | | % | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 業務取得 | 横ばい | 横ばい | ○ | 相談窓口では、消費生活相談の対象とならない案件でも、法律相談や司法書士事務所、市役所他部署に取り次ぐなど、適切な対応ができています。相談員が、消費者に変わって事業者との交渉等を行う「あっせん」も必要に応じて実施(H29実績:13件)しており、引き続き解決率100%の維持を目指す。 | |
| | | | | 成果 | 消費生活相談対応率(参考:消費生活相談件数) | 上がると良い指標 | | % (件) | 100 (172) | 100 (213) | 100 (155) | 100 (216) | 100 (170) | 100 (170) | 業務取得 | 横ばい | 横ばい | ○ | 相談室の開設時間外には、他の相談日時や愛知県消費生活総合センターを案内している。架空請求ハガキの件など、よくある問い合わせについては、産業課職員でも対応できている。 | |
| 03 | 専門的な市民相談窓口の充実 | 専門的な相談を求める市民 | 気軽に相談できる窓口を設置することにより、市民が安心して日常生活ができています | 活動 | 相談対応率 | 上がると良い指標 | ○ | % | 94 | 93 | 93 | 90.2 | 95 | 95 | 業務取得 | 低下 | 低下 | △ | 対前年比約3ポイント減。法律相談以外の相談対応率は100%。法律相談は申込が特定の日に集中し、相談できない市民が発生したことにより対応率が減少。申込が集中する日は年によってまちまちであり、予測は困難であること、相談者の総数(222人)は年間の相談可能枠(252人)を下回っていることから、相談体制は充実していると考えられる。 | 数値の減少は見られるものの、体制は充実しているものとする。なお、平成29年度から、先着順に指定していた相談時間を、申込者の希望時間を優先する受付方法に改善。 |
| 04 | 相談窓口の周知 | 市民(消費者、生活者) | 消費生活トラブルや様々なトラブルについての相談先が周知されている | 成果 | 消費生活相談と市民相談の窓口を知っている市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 66.3 | 60.6 | - | 58.0 | 68.0 | 70.0 | アンケート | 低下 | 低下 | △ | 消費生活相談は58.0%、その他市民相談は62.1%の認知度となっており、ほぼ横ばいである。年代別では30歳代以下の若年層ほど認知度が低いが、トラブルには誰もが巻き込まれる可能性があるため、継続的に周知を図っていく。 | 本市消費生活センターのチラシも活用し、これまで以上に相談窓口の周知に努める。 |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策
番号
5

政策名 環境と調和したまちづくり

| | |
|-----|-----|
| 主管課 | 環境課 |
| 関係課 | - |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (フルダウン) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (フルダウン) | 対前年度 (フルダウン) | 目標達成 見込 (フルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|------|------------|--------------------------|---------------------------------|------|---------|-----------------|----------|----|--------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|-----------------|-----------------|-----------------------|---|---|
| 5-1 | 資源循環型社会の形成 | 市民、市民団体、学校、事業者、行政、ボランティア | 市民・事業者・行政の協働により、資源循環型社会が形成されている | 成果 | ごみ総排出量 | 下がるとう良い指標 | | t | 27,492 | 26,393 | 25,531 | 25,209 | 26,400 | 25,200 | 業務取得 | ※ 向上 | ※ 向上 | ○ | 市民のごみ減量に対する意識の高まりとともに、一般廃棄物(ごみ)処理基本計画に基づき各種の取り組みを実施していることで、平成28年度と比較して32t減少、平成30年度目標値を達成している。今後も、市民団体等と連携し、各種の取り組みを行うことで、さらにごみの減量を認ることが期待できる。 | |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性 (フルダウン) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (フルダウン) | 対前年度 (フルダウン) | 目標達成 見込 (フルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|--------|-------------|---|--|------|----------------------------------|-----------------|----------|----|-------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|-----------------|-----------------|-----------------------|--|--|
| 01 | 資源循環型社会の啓発 | 市民(市民、事業者、ボランティア、市民団体、学校) | 市民・事業者が、資源循環の必要性・重要性を理解して行動している | 成果 | リデュース、リユース、リサイクルを意識し、行動している市民の割合 | 上がるとう良い指標 | ○ | % | 93.4 | 92.4 | - | 91.3 | 94.0 | 94.0 | アンケート | ↑ 低下 | ↑ 低下 | △ | リデュース、リユース、リサイクル(3R)を意識し、行動している市民の割合は、平成27年度と比較すると1.1ポイント減少している。しかし、ごみ総排出量は減少していることから、意識せずに3Rを実践している市民がいると思われる。 | 市民に3Rの意識付けを行うため、市広報、ホームページ、アプリ、イベントや講座などで3Rの具体的な内容についてより一層周知を行う。 |
| 02 | 発生抑制の推進 | 市民(市民、事業者、ボランティア、市民団体、学校)、収集業者 | ごみの発生抑制(リデュース)が推進されている | 成果 | 市民一人一日あたりのごみ総量 | 下がるとう良い指標 | ○ | g | 921 | 883 | 851 | 836 | 893 | 845 | 業務取得 | ※ 向上 | ※ 向上 | ○ | 市民一人一日あたりのごみ総量は、平成28年度と比較すると15g減少しており、平成35年度目標値を達成している。一般廃棄物(ごみ)処理基本計画に基づき、各種の取り組みを着実に進めたことで、市民のごみ発生抑制の意識が向上した成果と考えられる。 | |
| | | | | 成果 | 発生抑制(リデュース)に取り組んでいる市民の割合 | 上がるとう良い指標 | | % | 91.9 | 90.6 | - | 89.4 | 92.0 | 92.0 | アンケート | ↑ 低下 | ↑ 低下 | △ | 発生抑制(リデュース)に取り組んでいる市民の割合は、平成27年度と比較すると1.2ポイント減少している。しかし、ごみ総排出量は減少していることから、マイバッグの持参や過剰包装の断りなどが習慣化し、意識せずに発生抑制に取り組んでいる市民がいると思われる。 | 燃えるごみの約半分を占める生ごみ減量のため、3キリ(水キリ、食ベキリ、使いキリ)運動の実施モデル地区選定と周知活動を実施する。 |
| 03 | 資源化の推進 | 市民(市民、事業者、ボランティア、市民団体、学校)、収集業者、3市、尾張東部衛生組合 | 資源化(リサイクル)が推進されている | 成果 | 資源化率 | 上がるとう良い指標 | ○ | % | 30.0 | 29.6 | 29.0 | 28.3 | 31.0 | 32.0 | 業務取得 | ↑ 低下 | ↑ 低下 | △ | 資源化率は、平成28年度と比較すると0.7ポイント減少している。 | 全国的に古紙回収量は減少しているため、資源化率の大幅な向上は見込めないが、雑がみの分別と小型家電の回収を推進していく。 |
| | | | | 成果 | 燃えるごみの組成調査における資源物の混入割合 | 下がるとう良い指標 | | % | 30.5 | 29.3 | 25.9 | 25.2 | 27.5 | 25.0 | 業務取得 | ※ 向上 | ※ 向上 | ○ | 資源物の混入割合は、平成28年度と比較して0.7ポイント減少しており、平成30年度目標値を達成している。生ごみの水切りや雑がみ分別のPR、プラスチック容器包装の毎週収集開始等により、市民のごみ分別意識の向上が図られた成果と考えられる。 | |
| 04 | 再使用の推進 | 市民(市民、事業者、ボランティア、市民団体、学校)、収集業者、3市、尾張東部衛生組合 | 再使用(リユース)が推進されている | 成果 | 環境事業センターにおけるリユース件数 | 上がるとう良い指標 | | 件 | 129 | 636 | 647 | 551 | 300 | 400 | 業務取得 | ※ 向上 | ↑ 低下 | ○ | リユース件数は前年より減少したが、既にH35の目標を達成している。リサイクル広場の入場者数は、前年より増加しており、子ども用品を対象としたリユース品の引取・提供事業が多くの市民に浸透してきていることやリユース品の自転車についても、市民活動課との連携も含めて、年間を通じて安定して提供できたことが要因と考えられる。 | |
| | | | | 成果 | 再使用している市民の割合 | 上がるとう良い指標 | | % | 38.3 | 40.1 | - | 39.9 | 40.0 | 42.0 | アンケート | ※ 向上 | ↑ 低下 | ○ | 再使用している市民の割合は、平成27年度と比較すると0.2ポイント微減している。しかし、ごみ総排出量は減少していることから、中古品の購入やリサイクルショップの活用などが習慣化し、意識せずに再使用に取り組んでいる市民がいるためと思われる。 | |
| 05 | ごみ収集処理体制の整備 | 市民(市民、事業者、ボランティア、市民団体、学校)、収集業者、尾張東部衛生組合、国・県 | ・市民・事業者が正しくごみを排出し、きちんと収集されている ・ごみ収集・処理の体制が整備されている | 成果 | ごみ残置シール貼付数 | 下がるとう良い指標 | | 枚 | 4,662 | 4,682 | 1,797 | 1,736 | 4,400 | 4,200 | 業務取得 | ※ 向上 | ※ 向上 | ○ | 前年度とほぼ横ばいであったが、平成35年度の目標数値を達成している。スプレー缶・カセットボンベの分別収集やアプリ等による分別方法の周知により、市民のごみ分別意識の向上が図られた成果と考えられる。 | |
| | | | | 成果 | ごみ収集に関する不具合・事故件数 | 下がるとう良い指標 | | 件 | 15 | 10 | 4 | 3 | 10 | 9 | 業務取得 | ※ 向上 | ※ 向上 | ○ | ごみ収集車両の突発的な故障や収集作業中の事故はいつ起こるか分からない不確かな面があるが、直営作業員や委託業者には日常点検及び安全作業に関する行動マニュアルの作成の指導を行っている。今後も引き続き、直営や委託業者への注意喚起を積極的に行い、不具合・事故件数の減少に努めていく必要がある。 | |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策
番号
5

政策名 環境と調和したまちづくり

| | |
|-----|-------|
| 主管課 | 環境課 |
| 関係課 | 教育行政課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (フルダウ) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (フルダウ) | 対前年度 (フルダウ) | 目標達成 見込 (フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|------|--------------|-------------------------------------|-------------------------------------|------|-------------------------------|----------------|----------|----|-----|------------|------------|------------|------------|------------|----------|----------------|----------------|----------------------|--|--|
| 5-2 | 地球にやさしい生活の推進 | 市民(単身者、一般家庭)、行政(全庁、国・県)、事業者、学校、市民団体 | 市民・事業者・行政それぞれが、地球環境にやさしい生活・活動を行っている | 成果 | 地球環境にやさしい取り組みの平均実践項目数(全17項目中) | 上がると良い指標 | | 項目 | 7.2 | 8.0 | — | 7.6 | 8.0 | 9.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☂ 低下 | △ | 前回調査より、0.4ポイント下降しH30の目標値を下回っている。 環境学習関連事業の実施により、各家庭で環境にやさしい生活を行うことが、定着化しつつある。 節電やマイパックの使用を行っている市民は多いが、リサイクル商品の使用や中古品の購入が少ないため、この点をさらに啓発することで成果の向上が見込まれる。 | 日常生活の中で環境にやさしい生活に取り組めるよう「コソコソダイエットプラン事業」や「家庭版環境ISO事業」への参加を呼び掛け、啓発を図る。 市広報やホームページを活用して、省エネや節電行動を呼び掛ける。 |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性 (フルダウ) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (フルダウ) | 対前年度 (フルダウ) | 目標達成 見込 (フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|--------|--------------------|-----------------------------|--|------|--------------------------------|----------------|----------|------------------|---------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|----------------|----------------|----------------------|--|--|
| 01 | 環境保全のための教育・学習・実践 | 市民(単身者、一般家庭)、行政、事業者、学校、市民団体 | 市民が、環境に関する正しい知識・認識を身につけている | 成果 | 環境を考えた行動をしている児童生徒の割合 | 上がると良い指標 | | % | 90.7 | 89.7 | 89.5 | 88.2 | 91.0 | 91.0 | 課独自調査 | ☂ 低下 | ☂ 低下 | △ | 小学3年生、6年生、中学2年生を対象にしたアンケートで、「だれもない部屋の電気や見ていないテレビを消すようにしていますか。」の設問に対し「消している」と答えた児童生徒が、平成28年度と比較し1.3ポイント減少した。 | 今後も、小中学校の社会科や家庭科等で持続可能な社会の実現や、エネルギーの無駄のない生活ができるよう学ぶとともに、晴丘センターの社会見学、落ち葉の堆肥化、ごみの分別等、体験的な活動を通して、児童生徒が環境を考える機会を作り、成果向上のための環境教育を継続していく必要がある。 |
| | | | | 成果 | 環境問題に関心を持って自ら学んでいる市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 12.4 | 33.4 | — | 30.1 | 15.0 | 17.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☂ 低下 | ○ | 前回調査より3.3ポイント下降しているが目標値を上回っている。 環境学習講座への参加者は前年度に比べ増加しており環境問題への関心は高まっていると思われる。 | |
| 02 | 省エネ・再生可能エネルギーの利用促進 | 市民、行政、事業者 | 省エネルギー、再生可能エネルギー設備を活用する市民が増加している | 成果 | 省エネルギー、再生可能エネルギー設備を導入している市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 19.0 | 57.0 | — | 59.0 | 25.0 | 30.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 前回調査より2ポイント上昇している。 省エネルギー性能の高い家電製品やエコカーの購入は、市民意識として一般化してきている。太陽光発電等の再生可能エネルギー施設の設置も徐々に伸びている。 | |
| | | | | 成果 | 再生可能エネルギーを活用している公共施設数 | 上がると良い指標 | | 件 | 6 | 15 | 15 | 15 | 10 | 15 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☂ 横ばい | ○ | 平成27年度に屋根貸し事業により、市内の中学校2校、小学校3校、市役所及び文化会館に太陽光発電設備を設置し、グリーンニューディール事業により、消防本部に太陽光発電設備を設置したことにより後期目標値の15施設を達成している。 | |
| 03 | 総合的な環境行政の推進 | 市民、行政 | 行政として、環境に対する具体的な取り組み姿勢を示し、積極的に環境保全に努めている | 成果 | 市の施設における温室効果ガス排出量 | 下がると良い指標 | ○ | tCO ₂ | 2,386.7 | 2,159.3 | 5,105.0 | 5,445.0 | 2,300.0 | 2,300.0 | 業務取得 | ☂ 低下 | ☂ 低下 | △ | H28から、温室効果ガス排出量の算定方法を変更している。 H29の排出量は年度の目標値を308tCO ₂ 上回っている。エネルギー使用量は微減しているが、一部の電気小売事業者の温室効果ガス排出係数が増加したため、温室効果ガスの排出量が増加している。 | エネルギー使用量としては微減していることから、今後も省エネルギー行動を継続していく。 |
| | | | | 成果 | 環境保全を意識し、行動している市職員の割合 | 上がると良い指標 | | % | 89.9 | 91.8 | 91.8 | 89.7 | 93.0 | 93.0 | 課独自調査 | ☂ 低下 | ☂ 低下 | △ | 前回調査と比較すると減少し、前期目標値を下回った。環境マネジメントシステムの運用のマンネリ化により、やや職員の環境意識が低下していると思われる。 | 尾地球温暖化対策実行計画の運用を通じて、空調設定温度の適正化や不要な照明の消灯などを職員に意識付けし、環境率先行動を促進する。 |

＜施策・基本事業 成果指標一覧＞

政策
番号

| | | |
|---|-----|--------------|
| 5 | 政策名 | 環境と調和したまちづくり |
|---|-----|--------------|

| | |
|-----|------------------|
| 主管課 | 都市整備課 |
| 関係課 | 産業課、全国植樹祭推進室、環境課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(フルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(フルダウ) | 対前年度(フルダウ) | 目標達成見込(フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|-----------------|---------------------------|-----------------------------|------|------------------------|------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------------|------------|--------------|---|---------------------------------|
| 5-3 | 身近な緑・水辺環境の保全と創出 | 緑、河川、ため池、利用者、市民、学校、事業者、行政 | 緑、河川、ため池が保全され、憩いの空間が創出されている | 成果 | 緑地面積 | 上がると良い指標 | ○ | ha | 517 | 518 | 518 | 518 | 518 | 519 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☁ 横ばい | ○ | 濁池緑地の整備が完了し、供用を開始したことにより、前年度より面積が0.3ha増加した。 | |
| | | | | 成果 | 緑・水辺に親しめる場所があると思う市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 87.3 | 86.9 | - | 89.1 | 89.0 | 90.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 濁池緑地や矢田川散歩道を整備したことにより、成果が向上し、平成30年度の目標値を上回ったと考えられる。 | |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性(フルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(フルダウ) | 対前年度(フルダウ) | 目標達成見込(フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|--------|------------------|------------------------------|--------------------------------|------|-------------------------|------------|------|------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|------------|------------|--------------|--|-------------------------------------|
| 01 | 緑・水辺の保全 | 緑、河川、ため池、市民、国・県・市・市外利用者、公共施設 | 緑や水辺が保全されている | 成果 | 公共緑地面積 | 上がると良い指標 | ○ | ha | 499.3 | 500.8 | 500.8 | 501.1 | 501.0 | 503.0 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 濁池緑地の整備が完了し、供用を開始したことにより、平成30年度の目標値を上回った。 | |
| | | | | 成果 | 民有緑地面積 | 上がると良い指標 | | ha | 17.4 | 16.9 | 16.9 | 16.9 | 17.0 | 16.0 | 業務取得 | ☁ 低下 | ☁ 横ばい | △ | 保存樹林や生産緑地など新たな指定がなく、前年度と変動なし。 | 新たに保存樹林を指定する必要がある。 |
| | | | | 成果 | BODの主要河川での改善数値 | 下がると良い指標 | | mg/ℓ | 6.4 | 4.2 | 4.2 | 3.2 | 8.0以下 | 8.0以下 | 業務取得(環) | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 環境基準である8.0mg/ℓ以下を維持できており、数値自体も改善している。ただし、冬季は水温の低下に伴い浄化施設の処理能力も低下するため、数値が悪化する傾向がある。 | |
| | | | | 成果 | 水質を維持しているため池数 | 上がると良い指標 | ○ | 箇所 | 4 | 5 | 6 | 5 | 7 | 7 | 業務取得(産) | ☀ 向上 | ☁ 低下 | △ | 7箇所のため池の内、2池(大森池・新池)が環境基準を超過している。しかし、例年と比較すると、異常に悪化した水質項目はない。 | 灌漑期外であっても水の循環を実施することで水質向上を図る。 |
| 02 | 緑の創出と育成 | 緑、河川、ため池、市民、国・県・市・市外利用者、公共施設 | 緑化の推進により、身の回りの緑が増えている | 成果 | 新たに生み出された緑の箇所数 | 上がると良い指標 | | 箇所 | 10 | 7 | 11 | 5 | 10 | 10 | 業務取得 | ☁ 低下 | ☁ 低下 | ○ | 生垣助成や民有地緑化助成の申請件数が少なく、成果は向上しなかった。 | 緑化助成制度のさらなる周知を図る。 |
| | | | | 成果 | 自ら緑を育成している市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 52.0 | 50.2 | - | 46.1 | 56.0 | 60.0 | アンケート | ☁ 低下 | ☁ 低下 | △ | ひまわりの種子配布や苗木配布、生垣や民有地緑化の助成を行っているが、成果は向上しなかった。 | アジサイ植樹イベントでの苗木の配布や緑化助成制度のさらなる周知を図る。 |
| 03 | 緑・水辺とふれあえる場づくり | 緑、河川、ため池、市民、国・県・市・市外利用者、公共施設 | 自然・動植物・水辺に親しむことができる | 成果 | 水辺空間を利用している市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 54.7 | 52.7 | - | 48.7 | 57.0 | 60.0 | アンケート | ☁ 低下 | ☁ 低下 | △ | 濁池緑地や矢田川散歩道を整備し、水辺空間は増加したが、利用している市民の割合は向上しなかった。 | 矢田川散歩道のパンフレットの更新等により利用周知を図る。 |
| | | | | 成果 | 水辺空間の満足度 | 上がると良い指標 | | % | 84.3 | 83.3 | - | 86.4 | 86.0 | 88.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 濁池緑地や矢田川散歩道を整備したことにより、成果が向上し、平成30年度の目標値を上回ったと考えられる。 | |
| 04 | 市民参加による緑・水辺環境の保全 | 市民 | 市民参加により緑、河川、ため池を保全する運動が推進されている | 成果 | 環境保全活動等に参加している市民団体数 | 上がると良い指標 | | 団体 | 26 | 27.9 | 23 | 25 | 28 | 30 | 業務取得 | ☁ 低下 | ☀ 向上 | △ | 前年度より市民団体数は増加したが、基準値及び平成30年度目標値を下回っている。 | 高齢化により活動の継続が難しくなっている。 |
| | | | | 成果 | 環境保全分野のボランティアをしている市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 4.4 | 4.4 | - | 3.2 | 6.0 | 7.0 | アンケート | ☁ 低下 | ☁ 低下 | △ | ボランティア活動をしている方の高齢化、固定化が進み、新しくボランティアに参加する方が少ないことで数値が低下したと考えられる。 | 公園愛護会等のボランティア団体への活動支援を強化する必要がある。 |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策番号

5

政策名

環境と調和したまちづくり

主管課

環境課

関係課

土木管理課、水道課、尾張旭市長久手市衛生組合

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(ブルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(ブルダウ) | 対前年度(ブルダウ) | 目標達成見込(ブルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|-----------|--------|--------------------|------|--------------------|------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------------|------------|--------------|---|---|
| 5-4 | 生活衛生環境の向上 | 市民、事業者 | 快適で衛生的な生活を営むことができる | 成果 | 快適な生活衛生環境だと思ふ市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 69.5 | 71.9 | - | 72.3 | 70.0 | 72.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 例年以上に雑草や雑木等の苦情が多い年となったが、尾張旭市良好で快適な生活環境を確保する条例に基づき、土地の所有者への働きかけを真摯に行っていた結果である。今後も誠意をもった対応が必要であると考えられる。 | |
| | | | | 成果 | 生活衛生環境に関する事故件数 | 下がると良い指標 | | 件 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 業務取得 | ☹ 低下 | ☀ 向上 | △ | 一般業者のトラック荷台から劇薬の流出が発生した。消防、警察や愛知県との迅速な連携によって対応し事なきを得たが、今後も突発的なトラブルに対して、未然防止のための対応が必要であると考えられる。 | 矢田川及び天神川の定期定点調査、工場排水等の調査を行った。工場排水水質調査:6項目/1事業所、7項目/1事業所 |
| | | | | 成果 | 生活衛生環境に関する苦情の解決率 | 上がると良い指標 | | % | 96.6 | 96.6 | 96.4 | 98.5 | 97.0 | 97.0 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 公害に関する苦情件数は増加しているため、非常に高い苦情解決率を保ちながら、解決に努めてきたことが分かる。市職員による早期対応や、関係者間の調整を進めてきた結果である。今後も誠意をもった対応が必要であると考えられる。 | |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性(ブルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(ブルダウ) | 対前年度(ブルダウ) | 目標達成見込(ブルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|--------|------------------|----------|------------------------------------|------|--------------------------|------------|------|-----|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------------|------------|--------------|--|--|
| 01 | 地域住民による生活衛生環境の保全 | 市民 | 地域住民の手で生活衛生環境が保全されている | 成果 | 生活衛生環境を保全する活動を行っている市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 59.5 | 57.7 | - | 52.5 | 60.0 | 60.0 | アンケート | ☹ 低下 | ☹ 低下 | × | 前回数値取得時と比較すると5.2%低下し、平成30年度目標値を7.5%下回った。年齢別に分析すると、70歳以上の方が一番高く、世代が下がるごとに数値が低くなるため、若い方へ保全の意識を高めるような施策が必要である。 | ペットの糞害に対して、フォークで困むことで飼い主への周知を図る「イエローフォーク作戦」を試行し、その結果を基に今後の対応を検討する。 |
| | | | | 成果 | ペット・小動物に関する苦情件数 | 下がると良い指標 | ○ | 件 | 22 | 45 | 8 | 28 | 25 | 25 | 業務取得 | ☹ 低下 | ☹ 低下 | ○ | ホームページや広報等マナーアップの周知をしてきたものの、平成29年度は苦情件数が20件増加した。平成30年度目標値とはそれほど差はないため、周知方法の改善や、新たな手法を用い、ペット等の適正管理につなげていきたい。 | |
| 02 | 生活衛生環境の向上支援 | 市民、事業者 | 市民が、生活衛生環境を保つための支援が受けられている | 活動 | 生活衛生環境の向上支援件数 | 上がると良い指標 | | 件 | 1,599 | 1,496 | 1,509 | 1,408 | 1,600 | 1,600 | 業務取得 | ☹ 低下 | ☹ 低下 | △ | 草刈機の貸出件数は増加したものの、その他の項目は総じて減少したことで目標には達しなかった。生活衛生環境の向上には多額の費用が必要となるが、予算の増額は困難であり、目標値を達成するのは非常に困難であると想定される。 | 市内の空地等に繁茂した雑草を除去する者に対して草刈機の貸出しを行った。貸出件数:1,071件 |
| 03 | 公害の防止 | 各種公害 | 公害が防止されている | 成果 | 公害に関する苦情件数 | 下がると良い指標 | ○ | 件 | 59 | 60 | 55 | 66 | 60 | 60 | 業務取得 | ☹ 低下 | ☹ 低下 | △ | 高齢化に伴い在宅機会が増加するにつれ、近隣住民からの影響を受けやすくなっており、昨今の地域的なコミュニケーション希薄化も相まって行政からの指導を要望する声が増加している。今後もこの流れが進んでいくを想定すると、苦情件数の劇的な削減は、非常に困難であると想定される。 | 環境保全指導員による騒音、悪臭等の現地巡視及び条例に違反したもののへの指導を行った。巡視回数:96回 |
| 04 | 墓園の管理 | 市民、墓園利用者 | 墓園が適切に維持管理され、利用できるよになっている | 成果 | 墓園利用率 | 上がると良い指標 | | % | 85 | 88 | 88 | 88 | 90 | 96 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☹ 横ばい | ○ | 需要に応じて使用者募集を行い、新たに29区画の利用者を決定した。しかし、返還が33件あり、前年度と同様の数値となった。 | |
| | | | | 成果 | 墓園維持管理に関する苦情件数 | 下がると良い指標 | | 件 | 22 | 29 | 21 | 21 | 20 | 20 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☹ 横ばい | △ | 除草や清掃など維持管理業務を実施したが、前年度と同件数の苦情があった。通路整備や除草に関する苦情が多く寄せられた。 | 通路、駐車場等の修繕や植栽の適正管理、修繕等を通じて利用環境の適正化を図る。 |
| 05 | し尿処理施設の管理 | 市民、事業者 | し尿処理を安定して行うことができるよう、施設が効率的に管理されている | 成果 | 施設維持管理に関する障害件数 | 下がると良い指標 | | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 業務取得 | ☹ 横ばい | ☹ 横ばい | ○ | 長期修繕計画に基づき修繕を実施するとともに、早期発見を心がけ緊急修繕を実施したため、重大な障害は発生しなかった。 | |
| | | | | 活動 | し尿等の搬入量 | 下がると良い指標 | | 千kl | 17 | 28 | 17 | 17 | 12 | 8 | 業務取得 | ☹ 横ばい | ☹ 横ばい | △ | 公共下水道の整備促進が図られ、下水道への切替えも盛んに行われているが、切替工事により発生する汚泥量の増加に伴い搬入量は横ばいとなっている。 | 公共下水道供用開始区域内の早期下水道への切替えが必要。 |

＜施策・基本事業 成果指標一覧＞

政策
番号

| | | |
|---|-----|-------------|
| 6 | 政策名 | 活力あふれるまちづくり |
|---|-----|-------------|

| | |
|-----|-----|
| 主管課 | 産業課 |
| 関係課 | — |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (フルダウ) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (フルダウ) | 対前年度 (フルダウ) | 目標達成 見込 (フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|------|-------|-----------------------------------|------------------|------|----------------------|----------------|----------|----|------|----------------|----------------|----------------|------------|------------|----------|----------------|----------------|----------------------|--|---|
| 6-1 | 商業の振興 | 市民(市内事業者、一般市民)、市外者(来訪者、市外事業者)、商工会 | 地域商業が発展し、活性化している | 社会 | 市内商店の年間商品販売額 | 上がると良い指標 | | 億円 | 999 | 1,085 (H26) | 1,085 (H26) | 1,484 (H28) | — | — | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | — | 平成28年経済センサスによると、市内卸売・小売業の年間商品販売額は約1,484億円と、2年前よりも36.7%増加した。卸売業の従業員数と商品販売額が大きく伸びており、これは大手企業による産業機械関係のBtoB(企業間取引)が進捗したものと分析している。 | |
| | | | | 成果 | 市内商業が活性化していると思う市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 20.1 | 29.0 | — | 32.1 | 30.0 | 35.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 前回よりも成果が向上し、H30目標値をクリアした。近隣市に続々と巨大ショッピングモールが立地する中、市内では平成29年度、瀬戸街道沿いに大型商業施設がオープンしたが、元々、スーパー、ドラッグストア、コンビニなどが点在し、日常的に必要なものは手に入りやすい住環境が整っている。引き続き、地域特性を踏まえた商業振興施策を検討していく必要がある。 | |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性 (フルダウ) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (フルダウ) | 対前年度 (フルダウ) | 目標達成 見込 (フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|--------|----------|----------|---|------|---|----------------|----------|----|------|--------------|--------------|--------------|------------|------------|----------|----------------|----------------|----------------------|---|---|
| 01 | 地域商業の活性化 | 市民、市内事業者 | 商店の魅力向上や市民の市内購買力向上により、市内で買い物をする人が増加している | 成果 | 市内商店数 | 上がると良い指標 | | 店 | 414 | 432 (H26) | 432 (H26) | 424 (H28) | 420 | 420 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☹ 低下 | ○ | 平成28年経済センサスでは、前回よりも成果が若干下がっているが、目標は達成できている。関係機関と連携した創業支援事業と併せ、市内商店の持続的発展につながる取り組みを検討する。 | |
| | | | | 成果 | 日常生活に必要な商品(食料品、日用品、電化製品、飲食店)を市内で買う市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 33.5 | 31.4 | — | 26.7 | 35.0 | 38.0 | アンケート | ☹ 低下 | ☹ 低下 | △ | 日常的に消費するモノを市内のお店で調達している市民の割合は、前回から4.7ポイント減り、3割を切った。インターネット利用等の割合はさほど伸びていないが、日用品や外食は市外に足を運ぶケースが増えている。 | インターネットを中心とした通信販売やリサイクル・リユースによるモノの流通は、今後もその動きに拍車がかかると見られる。ここでしか買えないモノやサービスなどを見出し、いく必要がある。 |
| 02 | 事業者への支援 | 市民、市内事業者 | 経営支援により、市内事業者の経営力が向上している | 活動 | 各種制度活用による経営力向上に取り組んだ商店数 | 上がると良い指標 | | 件 | 154 | 138 | 100 | 119 | 200 | 200 | 業務取得 | ☹ 低下 | ☀ 向上 | △ | 愛知県信用保証協会を利用した融資に関する信用保証料の助成については、前年度よりも件数が増加したが、助成金総額は若干減少している。設備投資よりも運転資金に対する利用のほうが多く、全般的に融資額が抑制されている印象がある。 | 平成30年度から、創業に関する融資についても信用保証料の助成対象に追加し、利用促進を図った。 |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策
番号

6

政策名

活力あふれるまちづくり

主管課

産業課

関係課

—

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (フルダウ) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (フルダウ) | 対前年度 (フルダウ) | 目標達成 見込 (フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|--------|----------|-----------------|--|------|--|----------------|----------|----|-------|----------------|----------------|----------------|------------|------------|----------|----------------|----------------|----------------------|--|---|
| 6-2 | 工業の振興 | 工業 | 地域工業が振興し、活性化している | 社会 | 市内工業事業所の製造品出荷額 | 上がると良い指標 | | 億円 | 1,945 | 1,377 (H26) | 1,346 (H27) | 1,298 (H28) | — | — | 業務取得 | ↑ 低下 | ↑ 低下 | — | 市内工業の製造品出荷額は、平成26年度にいったん持ち直した後、2年連続で減少した。その間に緑地面積等整備に関する規制緩和や、県制度と連動した補助金創設を行い、既存大規模工場の操業をサポートする体制を整えている。また、小規模事業者を含む中小企業の振興に関する基本理念を定める条例制定に向け、準備を進める。今後も引き続き国や県、商工会などと連携しながら、必要な支援を行う。 | |
| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性 (フルダウ) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (フルダウ) | 対前年度 (フルダウ) | 目標達成 見込 (フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
| 01 | 地域工業の活性化 | 大規模工場 | 市内大規模工場が安定的に事業運営をしている | 社会 | 市内の大規模特定工場(敷地面積9,000㎡又は建築面積3,000㎡以上)の数 | 上がると良い指標 | ○ | 社 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 業務取得 | ● 横ばい | ● 横ばい | ○ | 変動なし。一部の既存大規模工場は、規制緩和後の基準により設備投資を行っており、今後も地域の実情に合った支援策を検討していく必要がある。 | |
| 02 | 事業者への支援 | 新規事業者、中小事業者、商工会 | 新規創業や継続操業のための支援等を活用し、事業の継続、規模の拡大がされている | 成果 | 市内事業者の数 | 上がると良い指標 | ○ | 社 | 99 | 95 (H26) | 100 (H27) | 90 (H28) | 100 | 100 | 業務取得 | ↑ 低下 | ↑ 低下 | △ | 市内の製造業者は、平成26年度以降、廃業数よりも開業数が上回り、増加に転じていたが、平成28年度は減少となった。 | 関係団体と連携して創業や事業承継の支援に取り組み、事業者数の増加を目指す。 |
| | | | | 社会 | 事業者の業績伸長率 | 上がると良い指標 | | % | 97.0 | 114.4 (H26) | 97.7 (H27) | 96.5 (H28) | — | — | 業務取得 | ↑ 低下 | ↑ 低下 | — | 市内全体の業績は前年よりも3.5%低下。「経営発達支援計画」の認定を受けた市商工会など、関係機関と情報共有を図りながら、必要な支援策を検討する。 | |

＜施策・基本事業 成果指標一覧＞

政策番号
6

政策名
活力あふれるまちづくり

| | |
|-----|-----|
| 主管課 | 産業課 |
| 関係課 | — |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(フルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(フルダウ) | 対前年度(フルダウ) | 目標達成見込(フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|-------|-------|-----------------------------|------|-----------|------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|------|------------|------------|--------------|--|---|
| 6-3 | 農業の振興 | 市民 | 大都市近郊の立地という特性を活かした農業が振興している | 成果 | 農地の利用集積面積 | 上がると良い指標 | | ha | 37.7 | 45.8 | 47.3 | 49.1 | 39.5 | 41.0 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成28年度から1.8haが追加され、利用集積が図られた。利用集積面積、貸手人数、筆数ともに毎年増加しており、利用集積が図られている。農地所有者が高齢化しているため、今後も利用集積が一定程度進むものと考えられる。 | |
| | | | | 成果 | 地域特産品の出荷量 | 上がると良い指標 | ○ | t | 16.4 | 14.8 | 14.5 | 12.9 | 22.0 | 25.0 | 業務取得 | ☹ 低下 | ☹ 低下 | × | 出荷量は、平成28年度から1.6t減少した。連作障害の影響により収穫量の減少が続いている。現在いちじく農家は2軒のみであり、後継者の問題もあるため、今後も収穫量の減少が懸念される。 | 引き続き既存特産品のPRを行い、いちじく、プチヴェールに続く新しい特産品の開発に取り組む。 |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性(フルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(フルダウ) | 対前年度(フルダウ) | 目標達成見込(フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) | |
|--------|----------|---------|--|------|-------------------|------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------------|------------|--------------|--|---|----------------------------|
| 01 | 農地の保全 | 市民 | 農地が保全されている | 成果 | 農業振興地域における農地面積 | その他 | | ha | 110 | - | 110 | 107 | 107 | 104 | 業務取得 | ☹ 低下 | ☹ 低下 | △ | 平成29年度の農業振興地域整備計画の全体見直しによる面積精査の結果、農振地域における農地面積は107haとなっている。都市化や農地転用が進んだことなどが原因であると考えられる。 | 農業委員会において、農業振興地域における農用地の除外について適切に事務処理を行った。 | |
| | | | | 成果 | 農地保全が必要と思う市民の割合 | 上がると良い指標 | | % | 80.4 | 78.1 | - | 76.9 | 80.0 | 80.0 | アンケート | ☹ 低下 | ☹ 低下 | △ | 平成22年度から田んぼアート、平成25年度から田んぼイルミネーションを実施しているが、成果はやや減少傾向である。 | 農地保全事業としてコスモス、田んぼアート、田んぼイルミネーションを実施し、農業へ興味を持ってもらえるよう周知を図る。 | |
| | | | | 成果 | 耕作放棄地の面積 | 下がると良い指標 | ○ | ha | 3.9 | 1.6 | 2.2 | 2.2 | 3.7 | 3.5 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☹ 横ばい | ○ | 耕作放棄地の面積は、平成28年度とほぼ変わらなかった。耕作放棄地の土地所有者に利用意向調査を実施し、利用権の設定やJAへの賃貸借を促進しているため、成果が現状値を推移していると考えられる。 | 農業委員会により、10月に遊休農地の所有者に利用意向調査を行った。引き続き、遊休農地や耕作放棄地の所有者へ適切な農地利用を促していく。 | |
| 02 | 農業基盤の充実 | 農業者 | 持続的な農業経営のために、農業の担い手の育成や農業用水路等の生産基盤が計画的に更新されている | 成果 | 認定農業者数 | 上がると良い指標 | ○ | 人 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 業務取得 | ☹ 横ばい | ☹ 横ばい | ○ | 認定農業者数に変更はなかったが、認定農業者による農業法人が設立された。本市の水田面積からは現在の人数がほぼ適正であり、今後は農業法人を中心として後継者を育成していく必要があると考えられる。 | 人・農地プランを更新し、引き続き3人の認定農業者と新しく設立された農業法人1経営体を地域の中心となる経営者に位置付けた。 | |
| | | | | 成果 | 用水路の改修率 | 上がると良い指標 | | % | 0 | 11.8 | 15.0 | 18.6 | 35 | 64 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | △ | 平成25年度から県費補助による用水路改修を進めているが、目標値を達成できていない。 | 施工単価の上昇傾向に伴い、施工できる延長が短くなっている。 | |
| 03 | 都市型農業の推進 | 市民 | ・特産品が認知され、地産地消による食育の推進がされている ・生産者との交流を通して、農業を身近に感じる市民が増えている | 成果 | 地域特産品の数 | 上がると良い指標 | ○ | 品 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | 業務取得 | ☹ 横ばい | ☹ 横ばい | △ | 現在、特産品はいちじく、プチヴェールの2品であり、品数に変更はない。現在、農協の指導により、利益率の高い特産品の開発を目指している。 | 農協の指導により、利益率の高い特産品の開発を目指す。 |
| | | | | 成果 | 消費者の特産品の認知度 | 上がると良い指標 | | % | 72 | 76 | 76 | 73 | 80 | 80 | 課独自調査 | ☀ 向上 | ☹ 低下 | △ | 特産品の認知度は、いちじく、プチヴェールともに平成28年度から減少しており、今後も地域特産品としての周知を図る必要がある。 | 農協の協力により食育講座やいちじく畑見学を実施し、特産品のPRを図る。 | |
| | | | | 成果 | 地産地消を心掛けている人の割合 | 上がると良い指標 | | % | 60 | 69 | 64 | 68 | 65 | 70 | 課独自調査 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 地産地消を心掛けている人の割合は、平成28年度から4ポイント増加しており、引き続き第2次食育実行プランに基づく取り組みにより、成果の向上を図る。 | 楽農まつり、にぎわいフェスタ、農業まつり、農政講座、食育講座により地元農産物のPRを図る。 | |
| | | | | 成果 | 農業体験をしたことがある市民の割合 | 上がると良い指標 | | % | 31.8 | 27.9 | - | 25.1 | 33.0 | 35.0 | アンケート | ☹ 低下 | ☹ 低下 | △ | 農業体験をしたことがある市民の割合は、平成27年度から2.8ポイント減少した。今後もふれあい農園、親子農業塾などにより体験者を増やし、成果の向上を図る必要がある。 | ふれあい農園を始め、親子農業塾や尾張旭農学校の周知方法を見直し、向上を図る。 | |

＜施策・基本事業 成果指標一覧＞

政策番号
6

政策名
活力あふれるまちづくり

| | |
|-----|-----|
| 主管課 | 産業課 |
| 関係課 | — |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(ブルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(ブルダウ) | 対前年度(ブルダウ) | 目標達成見込(ブルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|---------------|-----------------|---|------|---|------------|------|----|-------|--------|--------|--------|--------|--------|------|------------|------------|--------------|--|--|
| 6-4 | 勤労者支援・就労支援の充実 | 市内の在勤在住就業者及び失業者 | ・勤労者への福利厚生と研さんの場が提供されている ・失業者の就労支援ができています。 | 成果 | 勤労者の市福利厚生サービス利用・自己研さん研修参加者数 | 上がると良い指標 | ○ | 人 | 1,485 | 924 | 951 | 908 | 1,500 | 1,500 | 業務取得 | ☂ 低下 | ☂ 低下 | △ | 東部市民センター・勤労福祉会館の管理運営を行う指定管理者は、利用者の意見やトレンドを踏まえ、独自の自主事業を企画・実施し、施設稼働率の向上に努めている。親子連れや小学生を対象とした教室にシフトする一方で、勤労者向けの研修充実は難しい状況である。 | 成人対象の英会話教室は、参加者が大幅に増加しており、指定管理者に対しても「勤労者の福祉厚生・自己研さん」という視点からの検討を要請する。 |
| | | | | 社会 | 地域職業相談室(ふるさとハローワーク)を利用して就職した相談者(失業者)の割合 | その他 | | % | 7 | 7.3 | 5.9 | 7.5 | — | — | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | — | 平成29年度は延べ5,360人(前年6,405人)が相談に訪れ、そのうち401人(前年381人)が就職した。雇用環境の改善に伴い、失業者の利用は減っているが、今後も瀬戸公共職業相談所と連携し、ふるさとハローワークのPRと利用促進による就労支援を進める。 | |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性(ブルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(ブルダウ) | 対前年度(ブルダウ) | 目標達成見込(ブルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|--------|-------------|------------|--------------------------------------|------|-------------------------------------|------------|------|-------|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------|-------|------------|------------|--------------|---|---|
| 01 | 福利厚生の充実 | 市内の在勤在住就業者 | 市内の在勤在住就業者に対する福利厚生のための施設やメニューが充実している | 成果 | 勤労者施設の利用者数 | 上がると良い指標 | | 人 | 111,529 | 130,958 | 128,824 | 126,270 | 111,500 | 120,000 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☂ 低下 | ○ | 勤労福祉会館の利用者は前年よりも2,554人減っているが、H35目標を達成している。指定管理者(民間事業者)のノウハウを生かし、引き続き効果的な施設運用に努める。 | |
| | | | | 成果 | 勤労者施設以外の福利厚生メニュー利用者数(在勤者の補助利用者数) | 上がると良い指標 | | 人 | 34 | 35 | 37 | 36 | 50 | 60 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☂ 低下 | △ | 市内在勤者に対する尾張あさひ苑助成件数は、ほぼ横ばいで推移しており、リピーターの利用も少なくない。 | 「日本一の星空の村」阿智村との連携を強め、尾張あさひ苑の利用促進PRと併せて周知を行う必要がある。 |
| 02 | 自己研さん機会の提供 | 市内の在勤在住就業者 | 市内の在勤在住就業者の自己研さんの機会が提供され、受けられている | 成果 | 勤労者自己研さんメニュー応募率 | 上がると良い指標 | ○ | 倍 | 0.9 | 0.80 | 0.75 | 0.8 | 1.00 | 1.20 | 業務取得 | ☂ 低下 | ☀ 向上 | △ | 勤労者向けの講座・教室は、定員1,138人に対し、908人が参加した。中でも、料理教室はマンネリ化もあって、定員に対して参加者数が非常に少ない状況である。 | 応募した人が全て参加できるよう定員を設定しているため、目標達成は難しい。指定管理者に対し、魅力ある自主事業の提案を求める。 |
| 03 | 雇用・就業者対策の推進 | 雇用者、就業者、行政 | 雇用・就業者のための相談体制が充実している | 成果 | 地域職業相談室(ふるさとハローワーク)があることを知っている市民の割合 | 上がると良い指標 | | % | 38.0 | 31.8 | — | 38.0 | 40.0 | 40.0 | アンケート | ☁ 横ばい | ☀ 向上 | ○ | H29アンケート結果によると、成果が6.2ポイント向上した。平成28年3月からの移転設置に伴い、よりなじみのある名称として「ふるさとハローワーク」に改めたことも影響していると思われる。 | |
| | | | | 成果 | 地域職業相談室(ふるさとハローワーク)相談対応率(参考:相談件数) | 上がると良い指標 | | % (人) | 100 (15,279) | 100 (10,678) | 100 (9,355) | 100 (8,217) | 100 (16,000) | 100 (16,000) | 業務取得 | ☁ 横ばい | ☁ 横ばい | ○ | 雇用環境の改善により相談件数は減少している一方で、企業側は慢性的な人手不足に陥っている。ハローワークと連携した取り組みのほか、地元企業の人材確保を図るため、近隣自治体との広域連携による「地元企業就職フェア」を継続して開催する。 | |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

政策
番号

| | | |
|---|-----|---------------|
| 7 | 政策名 | 人と人がふれあうまちづくり |
|---|-----|---------------|

| | |
|-----|--|
| 主管課 | 市民活動課 |
| 関係課 | 企画課、財産経営課、産業課、全国植樹祭推進室、都市整備課、土木管理課、生涯学習課、社会福祉協議会 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (ブルダウ) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (ブルダウ) | 対前年度 (ブルダウ) | 目標達成 見込 (ブルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|------|--------------------|------------------------------|---------------------|------|--------------------------|----------------|----------|----|------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|----------------|----------------|----------------------|---|--|
| 7-1 | 市民によるまちづくり活動の推進と支援 | 市民(個人、地域団体、各種団体(ボランティア・NPO)) | ふれあいや交流に満ちたまちになっている | 成果 | 地域活動に参加している市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 27.2 | 24.7 | — | 23.6 | 33.0 | 38.0 | アンケート | ↑ 低下 | ↑ 低下 | × | 自治会など地縁組織への加入率減少に伴い、地域活動への参加割合も減少傾向にある。また、定年後も継続して就労する人口の増加、共働き家庭の増加など、地域活動へ参加する時間的余裕が減少している環境変化も大きな要因と考える。 | あさひ健康マイスター制度や自治会等活動促進助成制度、校区担当職員などの活用により、地域活動への参加促進、活動の活性化、継続的な情報発信を図り、成果の向上を目指す。 |
| | | | | 成果 | ボランティア活動・市民活動を行っている市民の割合 | 上がると良い指標 | ○ | % | 15.0 | 11.0 | — | 11.4 | 19.0 | 23.0 | アンケート | ↑ 低下 | ※ 向上 | × | 前回数値から0.7%増加したが、大きな変化はない。「機会があれば活動してみたい」と回答した割合は前回と比べて2.9%増加している。年齢別にみると、30代～60代が「機会があればしてみたい」と回答する割合が高い。 | 多くの人は公益的な活動への必要性は感じている。初めて参加しようと思ったときに、どのようにしたらよいか、その情報提供を行う場としての市民活動支援センターの認知度が低い為、認知度を上げるよう周知に努める。 |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性 (ブルダウ) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (ブルダウ) | 対前年度 (ブルダウ) | 目標達成 見込 (ブルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|--------|------------------|--------------------------|---|------|--------------------------|----------------|----------|----|---------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|----------------|----------------|----------------------|---|---|
| 01 | 地域コミュニティの活性化 | 市民(個人・地域団体) | 地域での活動に参加する市民が増え、地域活動が活発に行われている | 成果 | 自治会加入率 | 上がると良い指標 | | % | 65.5 | 64.4 | 64.4 | 63.5 | 66.0 | 68.0 | 業務取得 | ↑ 低下 | ↑ 低下 | × | 人口増に比べ世帯数の増加が大きく、数値の減少が直ちに自治会と関わる人員の減少を示すものとは言い難い面もあるが、個人の価値観の多様化や家族構成の変容など、ライフスタイルの変化に伴い自治会加入率は減少傾向にある。対前年度比0.9ポイント減ではあるが、加入世帯数はここ数年ほぼ横ばいの傾向。 | 各地域共通して自治会加入率の減少は課題。既加入者が役員負担や高齢を理由に退会するケースも多く、転入者及び既存未加入者へ自治会の必要性等の積極的なPRに加え、自治会等の活動自体を見直すことも必要。 |
| | | | | 成果 | 地域活動に対する行政支援に満足している市民の割合 | 上がると良い指標 | | % | 73.0 | 77.4 | — | 78.7 | 75.0 | 75.0 | アンケート | ※ 向上 | ※ 向上 | ○ | 目標値を超える水準で推移しているものの、「普通」(満足でも不満でもない)と回答した割合が大半であることから、より高い満足度を得られるよう、取り組む必要がある。 | 引き続き高い水準での満足度維持・向上を図るには、現行助成制度をより分かりやすく、使いやすいものとなるよう見直しを図るほか、新たな支援策の検討も必要。 |
| 02 | コミュニティ施設の整備と利用促進 | 市民(個人、地域団体、ボランティア・NPO団体) | コミュニティ活動の拠点が整備され、活発に利用されている | 成果 | コミュニティ施設の満足度 | 上がると良い指標 | ○ | % | 70.6 | 73.9 | — | 74.5 | 75.0 | 80.0 | アンケート | ※ 向上 | ※ 向上 | ○ | 各施設の適切な管理、運営により、目標値に向け順調に推移しているが、内訳としては「普通」と回答した割合が増加し、ほんのわずかではあるものの、「満足」の回答割合の減、「不満」の回答割合の増が見られる。 | さらなる満足度の向上を図るには、集会所をはじめとする施設の老朽化対策が必須であり、公共施設等総合管理計画の基、統廃合を含めた施設の在り方について十分な検討が必要である。 |
| | | | | 活動 | コミュニティ施設の年間利用者数 | 上がると良い指標 | | 人 | 826,700 | 982,369 | 894,622 | 887,179 | 827,000 | 827,000 | 業務取得 | ※ 向上 | ↑ 低下 | ○ | 対前年度比約7,400人の減少ではあるが、基準値及び目標値を上回る水準で推移している。年々施設が老朽化する中において、指定管理者による独自の管理運営、魅力ある事業の実施により、利用者数の維持、向上が図られているものと考えられるが、一部の小規模貸館施設などでは、これまで定期的に活動していた団体の会員高齢化による活動休止により、利用者数の減少が続いている。 | 対象各施設の利用分析をしっかりと行い、減少傾向にある施設にあっては、利用者ニーズの把握に努め、現状の利用方法、利用形態にとらわれない、新たな活用の方法を検討する必要がある。 |
| 03 | ボランティア・市民活動への支援 | 市民(個人、ボランティア・NPO団体) | 新たなコミュニティ活動として、多様なボランティアや市民活動団体が形成され、活動が活発に行われている | 活動 | ボランティア・市民活動の団体数 | 上がると良い指標 | | 団体 | 127 | 130 | 132 | 140 | 150 | 160 | 業務取得 | ※ 向上 | ※ 向上 | ○ | 会員の高齢化で解散するところも出ているが、新たに結成される団体もあり、団体数としては増加している。 | 市民活動支援センターの利用登録自体は増えているが、社会の課題や身近な問題について、課題解決の目的を持って活動する視点が市民活動には重要であるため、センターニュースや広報などで、発信してゆく。 |
| | | | | 活動 | ボランティア・市民活動の活動人数 | 上がると良い指標 | ○ | 人 | 3,615 | 3,837 | 3,982 | 4,068 | 4,200 | 4,700 | 業務取得 | ※ 向上 | ※ 向上 | △ | 市民活動支援センター登録団体の微増及び会員数の増加により、活動人数は増加している。 | 市の事業などでボランティアを募集しているものは、市民活動支援センターからも紹介する。 |
| | | | | 成果 | ボランティア・市民活動に対する行政支援の満足度 | 上がると良い指標 | | % | 69.7 | 75.5 | — | 76.0 | 72.0 | 75.0 | アンケート | ※ 向上 | ※ 向上 | ○ | 内訳としては、「普通」の割合が大きいため、より魅力を感じる支援の実行とそのPRが必要である。 | 団体の課題としては、活動への参加者が増えない、資金の獲得が困難というのがあるため、NP O相談や講座で対応する。また、広報やホームページ、ロビー展示など情報提供の場をつくる。また、市民活動促進助成金を使いやすくするよう見直す。 |

＜施策・基本事業 成果指標一覧＞

政策
番号

7

政策名

人と人がふれあうまちづくり

主管課

市民活動課

関係課

秘書課、財産経営課、産業課、全国植樹祭推進室、福祉課、教育行政課、生涯学習課、文化スポーツ課

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (フルダウン) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (フルダウン) | 対前年度 (フルダウン) | 目標達成 見込 (フルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|------|-----------------------------|----------------------|---|------|--------------------|------------------|----------|----|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|-----------------|-----------------|-----------------------|--|--|
| 7-2 | にぎわいの創出 とまちへの愛着 意識の向上 | 市民、来訪者、観光・レクリエーション資源 | ・祭りやイベント、市民同士のふれあい、居住するなかで、わがまちに「愛着」を感じる市民が増えている ・祭りやイベント、まちの魅力を活用してにぎわい(交流人口)が創出されている | 成果 | わがまちに「愛着」を感じる市民の割合 | 上がる と 良い指標 | ○ | % | 69.1 | 64.3 | — | 64.9 | 75.0 | 80.0 | アンケート | ↑ 低下 | ☀ 向上 | △ | 基準値から減少しているものの、前回(平成27年度)数値からは横ばい傾向にあり、各種の祭りやイベントへの参加者数も、ここ数年、大きな増減は見られない。 | 愛着を感じる要素は様々であるが、四季を通じて実施される祭りやイベントがそのきっかけとなるよう、市民にとって魅力ある内容へと昇華させるとともに、情報発信に努め、参加者の増加を目指す。 |
| | | | | 成果 | 観光入込客数 | 上がる と 良い指標 | ○ | 人 | 1,169,300 | 1,228,421 | 1,229,421 | 1,141,066 | 1,179,300 | 1,189,300 | 業務取得 | ↑ 低下 | ↑ 低下 | △ | 前回よりも9万人弱(約8%)減少し、目標値からも乖離している。県森林公園が会場となった「第70回全国植樹祭」の開催に向けて、さらなる機運醸成を図りつつ、本市の魅力発信により一層注力していく必要がある。 | 尾張旭駅前設置した「尾張旭まち案内」を拠点として、市観光協会などの関係機関と連携し、にぎわいの創出や地域活性化につながる取り組みを推進する。 |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性 (フルダウン) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (フルダウン) | 対前年度 (フルダウン) | 目標達成 見込 (フルダウン) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|--------|---------------------|--------------------------------------|--|------|--------------------------------------|------------------|----------|----|------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|-----------------|-----------------|-----------------------|---|--|
| 01 | イベントを通じた ふれあいの推進 | 市民 | 各種イベントを通じて市民相互のふれあいが増えている | 成果 | 市民同士のふれあいの場・機会への参加の割合 | 上がる と 良い指標 | ○ | % | 45.3 | 42.4 | — | 43.8 | 50.0 | 55.0 | アンケート | ↑ 低下 | ☀ 向上 | △ | 主要イベントへの市民の参加割合は、全体では4割強の数値で推移している。アンケート結果によると、さくらまつりや市民祭の参加割合が7割近くあるのに対し、その他のイベントは3~4割程度である。「紅茶フェスティバル」や「あさひ冬フェスタ」が定着してきたこともあり、生涯フェスティバルを主要イベントとして位置付けることは是非も含め、一定の見直しが必要である。 | 生涯学習フェスティバルは長年継続してきたにもかかわらず、参加率が約1割にとどまっており、認知度も他と比べると突出して低いことから、成果向上のためには抜本的見直しが必要と思われる。 |
| 02 | 観光・レクリエーション資源の充実 | 市民、来訪者、観光・レクリエーション資源 | 観光・レクリエーション資源が充実し、市民や来訪者が親しみを覚えるまちになっている | 成果 | 観光・レクリエーション資源に対する市民満足度 | 上がる と 良い指標 | ○ | % | 55.9 | 57.1 | — | 56.0 | 58.0 | 60.0 | アンケート | ☀ 向上 | ↑ 低下 | △ | 市民満足度は横ばいの状況だが、「普通」と答えている人が圧倒的多数であり、「どちらかといえば不満」と「不満」で3割に達する。観光スポットに恵まれたエリアではないが、関係機関とも連携しながら、市の魅力を発掘し、それをより多くの人に知ってもらえるような取り組みを進めていく。 | 尾張旭まち案内を拠点として「おいしい紅茶のまち」など、市の魅力のさらなる発信に努めるとともに、特産品PRも強化していく。 |
| 03 | 国際交流・地域間交流の推進 | 市民(個人、各種団体(地域団体、ボランティア、NPO)外国人、企業、行政 | 国際交流・地域間交流が活発に行われ、外国や他地域との相互理解が深まっている | 成果 | 外国人や国内他地域の人と相手の文化を尊重して接することができる市民の割合 | 上がる と 良い指標 | | % | 70.0 | 70.3 | — | 66.7 | 73.0 | 75.0 | アンケート | ↑ 低下 | ↑ 低下 | △ | 平成27年度と平成29年度を比較すると、3.6ポイント指標が悪化している。内訳からは、「ある程度理解して接することができる」人が減っており、全体的に理解度が下がっている一方で、「理解して接することができる」人の割合は横ばいであることから二極化傾向にある。また、若い人、子どもがいる人、本市の居住年齢が短い人ほど理解して接することができる人が多い状況も見てとれる。 | 個人の他文化への尊重意識の向上について行政が関与できる部分は大きいとは言えないが、高齢化が進む中で、外に出かけたくなるまちづくりを推進しつつ、様々な機会を捉えて交流の機会を増やしていくことで、成果の向上を目指す。 |

＜施策・基本事業 成果指標一覧＞

政策
番号

| | | |
|---|-----|---------------|
| 7 | 政策名 | 人と人がふれあうまちづくり |
|---|-----|---------------|

| | |
|-----|------------------------|
| 主管課 | 市民活動課 |
| 関係課 | 人事課、産業課、保育課、こども課、教育行政課 |

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性 (フルダウ) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (フルダウ) | 対前年度 (フルダウ) | 目標達成 見込 (フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|------|-------------|---------|------------------|------|-------------------------------|------------------|----------|----|------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|----------------|----------------|----------------------|--|---|
| 7-3 | 男女共同参画社会の形成 | 市民、市民以外 | 男女共同参画社会が形成されている | 成果 | 社会全体として男女の地位は平等になっていると思う市民の割合 | 上がる と 良い指標 | ○ | % | 35.1 | 33.5 | — | 35.1 | 37.0 | 40.0 | アンケート | ● 横ばい | ☀ 向上 | △ | 基準値との比較では横ばいとなったが、平成27年度と比較すると、1.6ポイント増加し、一時期の落ち込みからは回復した。「平等である」と回答した女性の割合は、男性より15.5ポイント低くなっている。男性のほうが社会において優遇されていると感じる女性がまだ多く存在している。 | 成果の向上は、行政の取組みだけでは難しい部分もある。第2次尾張旭市男女共同参画プランの中間見直しを控え、市民意識調査等の基礎調査により、本市の現状や課題の把握に努め、効果的な取組みに繋げていく。 |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性 (フルダウ) | 総合 戦略 | 単位 | 基準値 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | H30 目標値 | H35 目標値 | 取得 方法 | 対基準値 (フルダウ) | 対前年度 (フルダウ) | 目標達成 見込 (フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか (平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・ 改善案 (目標達成見込が△×の 場合に記載) |
|--------|-------------------|---------|--------------------|------|----------------------------------|------------------|----------|----|------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|----------------|----------------|----------------------|--|--|
| 01 | 男女共同参画意識の啓発と普及 | 市民 | 男女共同参画意識が定着している | 成果 | 家庭生活で男女の地位は平等になっていると思う市民の割合 | 上がる と 良い指標 | | % | 47.5 | 48.6 | — | 46.7 | 50.0 | 55.0 | アンケート | ☂ 低下 | ☂ 低下 | × | 平成27年度から1.9ポイント減少し、基準値からも0.8ポイント減少した。「平等である」と回答した女性の割合は、男性よりもかなり低くなっている。ただし、若い世代では比較的「平等である」と回答する割合が高く、家庭での男女共同参画は進んでいると考えられる。 | 若い世代では、男性の家事育児等の参加が進み、男女の地位も平等になってきていると言える。少し上の世代に向けた取組みを考える必要がある。 |
| | | | | 成果 | 地域活動で男女の地位は平等になっていると思う市民の割合 | 上がる と 良い指標 | | % | 60.2 | 59.8 | — | 59.3 | 63.0 | 65.0 | アンケート | ☂ 低下 | ☂ 低下 | × | 平成27年度から0.5ポイント減少し、基準値からも0.9ポイント減少した。ここ数年は59%～60%で推移しており、現状維持の状態である。地域活動の主要な担い手と考えられる65歳以上で「平等である」と回答する割合が低く、今後もこの状態が続くことも予想される。 | コミュニティ担当や、防災担当部局と連携し、地域において、あらゆる人々が性別にとらわれず役割を担い、活動することの重要性を発信する必要がある。 |
| 02 | 男女共同参画に関わる行政の環境整備 | 行政 | 行政における推進体制が整備されている | 成果 | 男女共同参画の趣旨を理解し、日常業務活動で実践している職員の割合 | 上がる と 良い指標 | | % | 69.9 | 70.3 | 68.2 | 71.0 | 72.0 | 75.0 | 課独自調査 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 基準値との比較では1.1ポイント増加し、前年度に対しても成果は向上している。引き続き、研修や情報発信により、職員への意識啓発を図る。 | 職員研修を行うことにより、男女共同参画の理念を職員に伝えているが、より効果的な研修となるよう内容や方法について検討していく。 |
| | | | | 成果 | 行政での女性委員等の割合 | 上がる と 良い指標 | | % | 36.9 | 38.8 | 38.5 | 41.3 | 38.00 | 40.00 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 基準値と比較して4.4ポイント増加し、前年度からも2.8ポイント増加した。平成35年度の目標値も達成し着実に成果は向上している。 | |

＜施策・基本事業 成果指標一覧＞

政策番号

8

政策名

分野横断的なまちづくりと市政運営

主管課

情報課

関係課

秘書課、人事課、企画課、行政経営課

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(ブルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(ブルダウ) | 対前年度(ブルダウ) | 目標達成見込(ブルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|-------------|-------------|------------------------------------|------|--------------------------------------|------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------------|------------|--------------|--|--|
| 8-1 | 開かれた市政の推進 | 市民 | 市政情報が提供され、市民が市政に参加(広聴)できる環境が整っている | 成果 | 情報の提供・公開が充実していると感じる市民の割合 | 上がると良い指標 | | % | 72.6 | 74.1 | - | 78.1 | 75.0 | 80.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | ・平成27年度から4.0ポイント増加し、平成30年度の目標値を3.1ポイント上回っている。年代別では、18～64歳までの年代で、概ね80ポイントを超えている。その一方で、65～69歳では76ポイント、70歳以上では66ポイントとなっている。 ・スマートフォンやタブレット端末が普及しており、それらを利用する世代には、概ね目標値を上回る満足度となっていると考えられる。 ・情報公開の開示率や会議の公開も高い割合を維持している。 | |
| | | | | 成果 | 市政への参画、広聴の機会が充実していると感じる市民の割合 | 上がると良い指標 | | % | 75.8 | 77.9 | - | 80.9 | 80.0 | 80.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | ・平成27年度から3.0ポイント増加し、平成30年度の目標値を0.9ポイント上回っている。年代別では、18～69歳までの年代で80ポイントを超える一方、70歳以上は71ポイントとなっている。 ・市民からの意見数は減少し、公募委員の割合も低下しているが、市政への参画の機会が提供されており、内容により公開できない情報や会議もあることから、一定数の不満があるのもやむを得ないと思われる。 | |
| 01 | 行政情報の提供 | 市民 | 積極的な行政情報の提供により、市民から市政に対する理解が得られている | 成果 | 広報誌を始めとした行政情報の提供に満足する市民の割合 | 上がると良い指標 | | % | 88.3 | 86 | - | 88.8 | 90.0 | 90.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 基準値と比較して0.5ポイント増加、平成27年度から2.6ポイント増加し、高い満足度を維持している。平成30年度の目標値まで1.2ポイントとなっており、順調に推移している。ただし、60歳以上の満足度は低い傾向となっている。 | |
| | | | | 成果 | ホームページなど、インターネットを活用した情報の提供に満足する市民の割合 | 上がると良い指標 | | % | 44.8 | 51 | - | 54.4 | 55.0 | 60.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 基準値と比較し9.6ポイント増加、平成27年度から3.4ポイント増加し、平成30年度の目標値まで0.6ポイントとなっている。「市のホームページを閲覧したことがない」と答えたかたは、平成27年度よりも3.3ポイント減少しているものの、まだ3割弱の方は閲覧をしたことがない、と答えている。 | |
| 02 | 広聴機会の充実 | 市民 | 広聴の機会が充実し、市民の要望が的確に把握できている | 成果 | 市長と市民との対話件数(市長の現場訪問、市長を囲む子ども会議) | その他 | | 件 | 20 | 7 | 16 | 16 | 20 | 20 | 業務取得 | ☂ 低下 | ☁ 横ばい | △ | 平成28年度と比較して件数は横ばいであるが、月1回以上の頻度で団体等の活動現場を訪問している。また、「現場訪問」扱いとしていない現場にも数多く足を運んでおり、様々な分野で活動しているかたからの意見を聴くことができている。 平成24年度に現場訪問を開始して以来、これまでに数多くの現場を訪問してきたことから、概ね一巡している状況となっており、新規の訪問先が少なく、年々厳しい状況になっている。 | これまでに訪問した現場についても、その後の変化や状況を知ることも大切であることから、現場訪問として再訪問することも検討する。加えて、新たな訪問先について、各課等へ情報提供を依頼することについても検討する。 |
| | | | | 活動 | 市民からの意見数(eメール、意見箱、FAX) | その他 | | 件 | 351 | 282 | 317 | 253 | - | - | 業務取得 | - 不可 | - 不可 | - | 平成28年度と比較して64件減少しているが、近年は同程度で推移している。これまでの意見への対応ができていることや市民目線での行政運営が推進されていることから、投書される意見数が低下していることも考えられる。 平成29年度は、市全域における投書箱の配置バランスに考慮しつつ、投書が少ない施設から他の施設へ意見箱を移設し、これまで以上に市民が投書しやすい環境を整えることができた。 | 意見箱の設置施設について、施設利用者数や設置エリア等を考慮した見直しを、必要に応じて検討する。 |
| | | | | 成果 | 附属機関等における公募委員の割合 | 上がると良い指標 | | % | 8 | 8 | 8 | 7.5 | 9 | 10 | 業務取得 | ☂ 低下 | ☂ 低下 | △ | 専門的な知識を要する機関や個人のプライバシーに関わる案件を取り扱う機関など、公募に向かない機関も多くあるため、厳しい状況であることに変わりはない。 | 現行では機関の新規・廃止による変動しかないため、全附属機関等の見直しを行わないと達成が難しいが、公募に向かない機関も多い。 |
| 03 | 情報公開と個人情報保護 | 市民 | 情報が適正に保護・公開され、透明性の高い市政運営が行われている | 活動 | 公開率 | 上がると良い指標 | | % | 84 | 93 | 96 | 97 | 90 | 90 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成28年度は請求件数51件中、非公開が2件であったのに対し、平成29年度は請求件数67件中2件であり、高い割合を維持している。 | |
| | | | | 成果 | 会議を公開している附属機関等の割合 | 上がると良い指標 | | % | 88 | 86 | 87 | 89 | 90 | 90 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☀ 向上 | △ | ・附属機関等の総数により割合が変動するが、非公開の会議を行った附属機関等の数は5～6で推移しており、いずれも個人情報を取り扱う会議であることから、非公開とすることが妥当である。 | 附属機関及び懇談会については、個人情報を取り扱う場合を除き、原則公開としている。成果指標は附属機関等の総数と個人情報の取扱いの有無についての影響を受けるため、計画どおりに成果が向上するものではない。 |
| | | | | 成果 | 個人情報事故・トラブル件数 | 下がると良い指標 | | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 業務取得 | ☁ 横ばい | ☁ 横ばい | ○ | ・個人情報に関する事故等は0件を維持しており、計画どおり成果が推移している。 | |
| 04 | 市の魅力の発信 | 市民、市外の住民、行政 | 市の魅力が積極的に発信され、認知されている | 成果 | 市の魅力が発信されていると感じる市民の割合 | 上がると良い指標 | | % | 72.8 | 27.9 | - | 69.3 | 75.0 | 80.0 | アンケート | ☂ 低下 | ☀ 向上 | △ | ・平成27年度現状値と比較すると、1.7%増加しているが、その一方で市の魅力が発信されていると感じられていない方の割合は1.0%増加している。 | ・近隣の大学と連携して、本市の魅力積極的にPRする方を検討する。 |
| | | | | 成果 | 市の魅力を発信する情報伝達手段数 | 上がると良い指標 | | 種 | 6 | 7 | 9 | 9.0 | 8 | 10 | 業務取得 | ☀ 向上 | ☁ 横ばい | ○ | ・前年度から情報伝達手段数は増加していないが、平成30年度目標値を達成している。 | |

<施策・基本事業 成果指標一覧>

| 政策番号 | | 主管課 | | | | | | | | | | 企画課 | | | | | | | | | |
|------|--------------|--------------------------|--------------------------------------|------|--------------------------------|------------|------|----------------|-----------|-----------|----------|---|-----------|-----------|-------|------------|------------|--------------|---|--|--|
| 8 | | 関係課 | | | | | | | | | | 総合推進室、秘書課、人事課、情報課、総務課、行政経営課、財産経営課、検査課、税務課、収納課、市民課、会計課、議事課、監査委員事務局 | | | | | | | | | |
| 政策名 | | 分野横断的なまちづくりと市政運営 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(フルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(フルダウ) | 対前年度(フルダウ) | 目標達成見込(フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) | |
| 8-2 | 行財政運営の推進 | 財政、市有財産、施策・事務事業、組織・職員、市民 | 効率的で計画的な行財政運営が行われている | 成果 | 効率的・計画的なまちづくりが進められていると思う市職員の割合 | 上がるの良い指標 | ○ | % | 88.8 | 86.4 | 86.5 | 83.3 | 90.0 | 92.0 | 課独自調査 | ↑ 低下 | ↑ 低下 | △ | 平成28年度の数値と比較すると3.2ポイント減少した。平成30年度目標値とは6.7ポイントの開きがある。 | 事務事業評価研修を実施し、行政評価制度を活用した計画的なまちづくりの推進について理解を深めると共に、現状より効率的・計画的なまちづくりを進められる行政評価制度への見直しを行うことで、更なる成果向上を図る。 | |
| | | | | | 施策目標の達成率 | 上がるの良い指標 | | % | 46.8 | 34.5 | 42.9 | 41.4 | 80.0 | 80.0 | 業務取得 | ↑ 低下 | ↑ 低下 | × | 59の成果指標のうち、24の成果指標がH30目標値を達成した。引き続きH30目標値達成に向け、行政評価の取組による施策の進捗管理を適切に実施していく。 | 基本事業成果指標の目標値を事務事業評価表に表示することで、職員が目標値を目的とする頻度を増やし、目標値に対する意識向上を図る。基本事業の成果指標が向上することにより、施策成果指標の目標値達成割合の向上も見込める。 | |
| 01 | 効果的・効率的な行政運営 | 財政、市有財産、施策・事務事業、組織・職員、市民 | 効果的・効率的な行政運営が行われ、市民サービスが向上している | 成果 | 基本事業目標の達成率 | 上がるの良い指標 | | % | 43.9 | 39.2 | 46.4 | 43.8 | 80.0 | 80.0 | 業務取得 | ↑ 低下 | ↑ 低下 | × | 281の成果指標(指標特性が「その他」の指標は除く)のうち、113の成果指標がH30目標値を達成した。引き続きH30目標値達成に向け、行政評価の取組による施策の進捗管理を適切に実施していく。 | 成果指標の目標値を事務事業評価表に表示することで、職員が目標値を目的とする頻度を増やし、目標値に対する意識向上を図る。 | |
| | | | | | 事務事業評価による改善を実施した割合 | 上がるの良い指標 | | % | 64.8 | 67.2 | 71.7 | 79.6 | 80.0 | 80.0 | 業務取得 | ★ 向上 | ★ 向上 | ○ | 平成29年5月に『事務改善基本方針』を制定したことで、職員の改善に対する意識の醸成が図られ基準値と比較し14.8ポイント、前年度と比較し7.9ポイント増加しており、伸び率についても各年度と比較し、数値が向上している。引き続きH30年度目標達成に向け、上記方針に基づく職員の改善意識の向上に努める。 | | |
| 02 | 健全な財政運営 | 財政、市有財産、施策・事務事業、組織・職員、市民 | 適切な予算編成・執行がなされ、持続可能な財政運営がなされている | 成果 | 経常収支比率 | 下がるの良い指標 | | % | 91.6 | 91.9 | 91.5 | 91.3 | 90.4 | 89.4 | 業務取得 | ★ 向上 | ★ 向上 | △ | 平成24年度と平成29年度の比較では0.3ポイント減少(改善)しており、平成28年度との比較でも、0.2ポイント減少(改善)しているがH30目標値を達成していない。平成29年度は、下水道事業会計への繰出基準内の負担金の減少などにより、やや改善したが、今後も社会保障関係経費や施設の維持管理費等の増加などが見込まれることから、更なる財政構造の硬直化が不可避となっている。 | 経常経費の削減に引き続き努めるが、社会保障関係経費の増加が見込まれるとともに、32年度からは、会計年度任用職員への切替えによる人件費の増加という新たな課題も加わったため、経常収支比率の高止まりは避けられず、H35目標値の達成は難しい状況にある。 | |
| | | | | | 将来負担比率 | 下がるの良い指標 | | % | 21.6(H23) | 11.8(H26) | 0.9(H27) | なし(H28) | 18.0(H29) | 15.0(H34) | 業務取得 | ★ 向上 | ★ 向上 | ○ | 平成28年度決算では、将来負担額が充当可能財源等を下回ったため、平成29年度の将来負担比率は発生しておらず、H30目標値を達成している。将来負担比率が発生しなかったのは、市債残高の減少などにより将来負担額が減少したこと、また、都市計画税の増加などにより充当可能財源等が増加したためである。今後も引き続き、市債発行の適正化を図るとともに、公営企業等への負担見込みについても注視し、健全な財政運営を図っていく。なお、H23決算の21.6%は全国810市区のうち187位であり、H28決算で将来負担比率が発生しなかった市区は、全国814市区のうち220団体である。 | | |
| | | | | | 市民1人あたりの借金の返済額 | 下がるの良い指標 | | 円 | 22,082 | 20,444 | 19,693 | 20,338 | 21,500 | 21,000 | 業務取得 | ★ 向上 | ↑ 低下 | ○ | 平成24年度と平成29年度の比較では、645円増加(悪化)しているものの、H30目標値を達成している。増加した主な要因は、据置期間満了に伴い元金の償還が始まった市債が、平成29年度に重なったことにより、公債費が前年度より増加したためである。今後は、文化会館改修事業等の大型の市債発行により、市債残高の増加が見込まれるが、中長期的な財政計画を持って公債費の圧縮等に引き続き努めていく。 | | |
| | | | | | 市税収納率 | 上がるの良い指標 | | % | 95.00 | 96.59 | 97.29 | 97.96 | 95.50 | 96.00 | 業務取得 | ★ 向上 | ★ 向上 | ○ | 前年度と比較して0.67ポイント増加しており、平成35年度の目標値をクリアしている。現年度では0.12ポイント、滞納繰越分では3.74ポイント増加している。税目別で見ると、市民税個人は0.8ポイント、市民税法人は0.29ポイント、固定資産税は0.65ポイント、軽自動車税は0.16ポイント、都市計画税は0.65ポイント増加している。今後も納期内納税の推進に努めるとともに、法令に則り滞納整理を実施していく。 | | |
| 03 | 市民の財政理解の推進 | 財政、市有財産、施策・事務事業、組織・職員、市民 | 市民が市の財政状況を理解している | 成果 | 市の財政状況について知っている市民の割合 | 上がるの良い指標 | | % | 37.4 | 34.1 | - | 35.1 | 45.0 | 52.0 | アンケート | ↑ 低下 | ★ 向上 | △ | 予算や決算等の状況をHPや広報で公表するとともに、当初予算の公表用資料として、対話形式の「わかりやすい予算の説明」を作成している。 | 市民の関心が高まるよう、広報等の記事をよりわかりやすい内容にしていく。伝える媒体を増やしていくため、あきちゃんへの出演などを検討する。 | |
| | | | | | 税金の使い方に満足している市民の割合 | 上がるの良い指標 | | % | 64.2 | 66.8 | - | 71.8 | 65.0 | 67.0 | アンケート | ★ 向上 | ★ 向上 | ○ | 「普通」の割合が、前回より5.2ポイント増加し、66.3%になっている。これは、満足しているわけではなく、関心が無いことが要因とも捉えられるため、引き続き、限られた財源を有効に活用するとともに、それを市民にわかりやすく周知していく。 | | |
| 04 | 広域行政の推進 | 近隣市、市民 | 近隣市との連携により、効率的かつ利便性の高い市民サービスが提供されている | 成果 | 広域で共同処理している事務・広域的に受けられるサービス件数 | 上がるの良い指標 | | 件 | 47 | 28 | 52 | 53 | 50 | 55 | 業務取得 | ★ 向上 | ★ 向上 | ○ | 前年度と比較すると1件増加し、平成30年度の目標値を達成している。 | | |
| 05 | 情報化の推進 | 市民、市の情報システム、職員 | ICTを活用した市民サービスの向上と業務の効率化・迅速化が図られている | 成果 | ICTを活用した市民サービスが充実していると思う市民の割合 | 上がるの良い指標 | | % | 71.0 | 73.1 | - | 74.3 | 75.0 | 75.0 | アンケート | ★ 向上 | ★ 向上 | ○ | 平成27年度より1.2ポイント増加し、順調に推移している。 | | |
| | | | | | 主要情報システムの安定性(稼働率) | 上がるの良い指標 | | % | 99.9 | 99.9 | 99.9 | 99.9 | 99.9 | 99.9 | 業務取得 | ● 横ばい | ● 横ばい | ○ | 安定稼働しており、計画どおり成果が推移している。 | | |
| 06 | 公共施設の効率的な配置 | 市有財産、市民 | 公共施設が効率的に配置されている | 成果 | 市民1人あたり公共施設面積 | 下がるの良い指標 | | m ² | 2.06 | 2.05 | 2.04 | 2.03 | 2.00 | - | 業務取得 | ★ 向上 | ★ 向上 | ○ | 基準値と比較し0.03ポイント、前年度からは0.01ポイント向上した。これは、旧第二中学校共同調理場の売却に伴う公共施設面積の減少と、人口の増加によるものである。H30目標値には0.03ポイントの開きがあるが、H30は(仮称)西大進公会堂の新設があるものの、旧市民会館撤去により、公共施設面積が大幅に減少することから、人口減少がない限り、目標値を達成する見込みである。 | | |

＜施策・基本事業 成果指標一覧＞

政策番号

8

政策名

分野横断的なまちづくりと市政運営

主管課

人事課

関係課

企画課、総務課、行政経営課

| 施策番号 | 施策名称 | 施策の対象 | 施策の意図 | 指標区分 | 施策の成果指標 | 指標特性(フルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(フルダウ) | 対前年度(フルダウ) | 目標達成見込(フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|------|----------------|---------|---------------------------------|------|---|------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------------|------------|--------------|---|--------------------------------------|
| 8-3 | 組織・人事マネジメントの充実 | 職員・市の組織 | 多様化・高度化する行政ニーズに対応できる職員・組織になっている | 成果 | 市職員の仕事ぶりに満足している市民の割合 | 上がると良い指標 | | % | 85.1 | 83.9 | - | 88.5 | 87.0 | 90.0 | アンケート | ☀ 向上 | ☀ 向上 | ○ | 平成27年度と比べて4.6ポイント上がっており、目標値にも届いている。今後も市民に必要とされる職員となるために効率的な研修の実施などを通して、個人のスキルアップ等を含めた改善を行っていく必要がある。 | |
| | | | | 成果 | 組織・職員が市民の抱える問題・行政課題に関し、迅速かつ適切に対応できていると思う職員の割合 | 上がると良い指標 | | % | 51.9 | 49.7 | 55.5 | 53.4 | 60.0 | 70.0 | 課独自調査 | ☀ 向上 | ☹ 低下 | △ | 基準値よりは向上しているが、目標値に届いておらず、前年度と比べても2.1ポイント低下している。 | 各職員の能力の向上を図るとともに、適切な人員配置を行い、組織力を高める。 |

| 基本事業番号 | 基本事業名称 | 基本事業の対象 | 基本事業の意図 | 指標区分 | 基本事業成果指標 | 指標特性(フルダウ) | 総合戦略 | 単位 | 基準値 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | H30目標値 | H35目標値 | 取得方法 | 対基準値(フルダウ) | 対前年度(フルダウ) | 目標達成見込(フルダウ) | 計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価) | 目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載) |
|--------|---------|---------|---|------|--|------------|------|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------------|------------|--------------|--|---|
| 01 | 組織力の向上 | 職員・市の組織 | ・行政課題の解決に向け、組織が活動できるよう、組織力が向上している ・組織間の連携が図られ、分野横断的な取り組みが進んでいる | 成果 | 組織間・組織内連携が十分に図られていると思う職員の割合 | 上がると良い指標 | | % | 67.5 | 63.6 | 62.2 | 58.4 | 75.0 | 80.0 | 課独自調査 | ☹ 低下 | ☹ 低下 | × | 前年度と比べて3.8ポイント低下しており、目標値に届いていない状況である。職員全体の40代以上の年代で、「十分図られている」「ある程度図られている」の回答数が減少し「あまり図られていない」「まったく図られていない」の回答数が増加する傾向がみられ、特に消防職全体では「図られていない」と感じる職員が多い結果がみられた。 | 組織課題ヒアリングを利用して、組織間・組織内連携が図られていないと思う理由の把握に努める。 |
| 02 | 適正な人事管理 | 職員・市の組織 | ・定員の適正化が図られている ・適材適所の人材が確保・配置されている ・職員の意欲向上が図られる人事制度になっている | 成果 | 定員適正化計画の定員と職員数の差 | その他 | | 人 | 2 | △5 | △2 | 4 | 0 | 0 | 業務取得 | ☹ 低下 | ☹ 低下 | △ | 平成29年度は定員適正化計画人数580人より4人多い584人であった。年度途中の退職や定年前の退職もあるため、計画数と同数を維持することは難しい。 | 退職者数を予測しながら、定員適正化計画に基づいて職員採用を行っていく必要がある。 |
| | | | | 成果 | 適材適所の人材配置ができていると思う職員の割合 | 上がると良い指標 | | % | 92.6 | 92.7 | 91.5 | 88.0 | 93.0 | 93.0 | 課独自調査 | ☹ 低下 | ☹ 低下 | △ | 前年度と比べて3.5ポイント下がっており、目標値に届いていない状況である。内訳を見ると、「適材適所でない」と回答した職員の割合は平成24年度0.8%であったのに対し、平成29年度は3.8%となっている。 | 部長ヒアリング、課長ヒアリング、自己申告等を元に適正な職員配置をしていく必要がある。 |
| | | | | 成果 | 処遇に納得している職員の割合 | 上がると良い指標 | | % | 90.4 | 88.4 | 87.6 | 86.2 | 91.0 | 91.0 | 課独自調査 | ☹ 低下 | ☹ 低下 | △ | 全体的には公平性、納得性の高い人事考課制度を使用した昇給制度のもと、上司が部下に評価結果を開示するなどした結果、処遇に納得している割合が多いが、前年度と比べて1.4ポイント下がっており、ここ数年では一番低い数値となっている。 | より広く納得性を高められるよう、人事考課制度のアンケート等も参考にしながら人事考課制度の運用を行っていく必要がある。 |
| 03 | 人材の育成 | 職員・市の組織 | 効果的な人材育成が実施され、職員の資質が向上している | 成果 | 研修、OJT、人事考課制度等により能力が向上したと思う職員の割合 | 上がると良い指標 | | % | 81.1 | 87.6 | 91.3 | 78.6 | 83.0 | 85.0 | 課独自調査 | ☹ 低下 | ☹ 低下 | △ | 前年度と比べて12.7ポイント下がっており、目標値に届いていない状況である。新たな研修等をあまり取り入れていないのも数値が低下している一因かと思われる。 | 受講内容の見直し・充実はもちろんだが、研修の受講目的を明確化する等、研修受講者に研修目的を事前に理解してもらう必要がある。 |
| 04 | 安全衛生の確保 | 職員 | 安全衛生に適切に対処し、職員が健康で安心して働くことができている | 成果 | 安全衛生に適切に対処し、職員が健康で安心して働くことができていると思う職員の割合 | 上がると良い指標 | | % | 83.9 | 85.9 | 87.0 | 81.2 | 85.0 | 87.0 | 課独自調査 | ☹ 低下 | ☹ 低下 | △ | 基準との比較では2.7ポイント減、前年との比較では5.8ポイント減となっている。ワークライフバランスを念頭に時間外勤務の削減に向けた施策を推進し、数値の改善を図る。 | 長時間勤務の削減に向け、マニュアルの作成や管理職に対する研修等を実施する。 |